

平成 27年度

JOCスポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2015



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会

平成27年度
JOCスポーツ環境専門部会
活動報告書



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会



スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

環境基本理念

公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

公益財団法人日本オリンピック委員会

会長 竹田 恆和



●第11回JOCスポーツと環境・地域セミナー(帯広市: JOCパートナー都市)

開催日: 2015年11月21日(土) / 会場: とかちプラザ レインボーホール / 参加人数: 192名



平岡英介 JOC専務理事



米沢則寿 帯広市長



宮下純一 JOCスポーツ環境専門部会会員



左から上田藍選手、鈴木靖氏、鶴岡剣太郎氏



小田新紀 NPO法人幕別札幌内スポーツクラブ代表



野端啓夫 JOCスポーツ環境専門部会会長 / 理事



前列左から野端啓夫部会長、平岡英介専務理事、小田新紀氏
後列左から宮下純一氏、上田藍選手、鈴木靖氏、鶴岡剣太郎氏



会場風景



●第12回JOCスポーツと環境・担当者会議(総務委員会フォーラム)

開催日：2016年2月22日(月)／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：91名



野端啓夫 JOCスポーツ環境専門部会会長／理事



田中丈夫IOC持続可能性とレガシー委員会委員、JOCスポーツ環境専門部会会員

【グループディスカッション】



野端啓夫部会長(コーディネーター)



各班でのディスカッション



各班からの発表



会場全体の風景



●オリンピックデーラン

開催期間：2015年9月6日(日)～2016年3月19日(土)／会場：全国7会場／のべ参加人数：12,427名



(土別大会)



受付にポスターを掲示(喜多方大会)



受付にポスターを掲示(新潟大会)



クリアーホルダーを配布(ひたちなか大会)



クリアーホルダーを配布(長野大会)



(公財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●第46回ジュニアオリンピック陸上競技大会 第99回日本選手権リレー

開催期間：2015年10月23日(金)～25日(日)／会場：神奈川県・日産スタジアム



表彰式でバナー掲示。JrOP男子4×100mR 1位～3位入賞者



メディア向けのフォトセッションでの写真撮影。
JrOP男女最優秀選手

●第99回日本選手権イベント

開催日：2015年5月24日(日)／会場：新潟県・デンカビッグスワンスタジアム



Jキッズアスリートプロジェクトイベント
小学生参加者の集合写真時にバナー掲示

●本連盟事務局内でのポスター掲示



本連盟会議室／打ち合わせスペース
お越し頂いた方に目にも留まる場所にポスター掲示

●東京マラソン2016

開催日：2016年2月28日(日)

3/9 update 東京マラソン先導車レポート
マラソンの先導車として走行時にも約30kmも電気モーターのみで走行したニューBMW 330e

前回の走行-2016/02/28 11:17	
総距離	42.0 km
電気走行距離	69%
燃費	5.5 l/100 km
所要時間	2 h 11 min

ース当日にテレビや沿道でマラソン中継をご覧になった方も多いのではないのでしょうか。参加ランナーを先導してのが、新時代のプラグイン・ハイブリッド・モデル、ニューBMW 330e。ランナーの速度にあわせて平均時速20kmというスピードで先導するという特殊な状況においても、BMW 330eは全コースの69%にあたる約30キロを電気モーターのみで走破、残りのガソリン走行時は約18km/時でした。ちるん先導中はエアコンも常時利用しつつ、細かいアクセルワークでランナーにあわせて速度を微調整しつつ走行のこと。は、実際の生活の中なら？ それはお近くのBMW 正規ディーラーでご試乗していただき、ぜひご自身で体験してみてください。



大会誘導車／収容車のハイブリッドカー導入
大会事務局、大会スポンサーが対応



(公財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●第91回日本選手権(水球競技)

開催期間：2015年10月9日(金)～11日(日)
会場：東京都・東京辰巳国際水泳場



環境の横断幕を掲示

●第91回日本選手権水泳競技大会(シンクロ競技)

開催期間：2015年5月2日(土)～4日(月)
会場：東京都・東京辰巳国際水泳場



環境横断幕を囲んでのフォトセッション

●水泳の日2015

開催日：2015年8月14日(金)
会場：東京都・東京辰巳国際水泳場



8月14日「水泳の日」でスタンプラリーを実施。
会場の子どもたちに楽しみながら標語を覚えてもらった

●日本シンクロチャレンジカップ2015

開催期間：2015年8月5日(水)～8日(土)
会場：東京都・東京辰巳国際水泳場



横断幕を掲示

●第91回日本選手権水泳競技大会(競泳競技)

開催期間：2015年4月7日(火)～12日(日)
会場：東京都・東京辰巳国際水泳場



環境横断幕を囲んでのフォトセッション

●FINA競泳ワールドカップ2015東京大会

開催期間：2015年10月28日(水)～29日(木)
会場：東京都・東京辰巳国際水泳場



環境横断幕を囲んでのフォトセッション



(公財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●ヴァンフォーレ甲府 エコステーション

開催日：2015年3月22日(日)
会場：山梨中銀スタジアム



エコボランティアがリユース食器回収、ごみの分別を実施

●ギラヴァンツ北九州 まち美化キャンペーン

開催日：2015年6月7日(日)
会場：北九州市勝山公園他



マスコットのギランも市民ボランティアやサポーターと清掃活動に参加

●レノファ山口 宇部高校生徒が環境活動に協力

開催日：2015年11月14日(土)
会場：維新百年記念公園陸上競技場



手作りで分かりやすい3Rステーション(エコステーション)を設置

●水戸ホーリーホック 水戸市中心市街地クリーン作戦

開催日：2015年2月13日(金)
会場：水戸市周辺(水戸駅他)



●大宮アルディージャ オリジナルゴミ袋の利用

開催期間：通期
会場：ホームゲーム等



●日本サッカー協会 ONE GOALキャンペーン

開催日：2015年5月23日(土)
会場：山梨県中巨摩郡昭和町 押原公園





(公財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

●「I LOVE SNOW」One's Handsキッズ・スノーファンフェスタ2016

開催日：2016年5月20日(金)／会場：神奈川県川崎市・スノーヴァ溝の口(屋内スキー場)



雪不足の為、今年度は屋内スキー場でのイベント開催。改めて環境保全の大切さをアピールすると同時に、都心にて雪と触れ合う楽しい一日となった。

(公社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●第93回全日本選手権

開催期間：2015年9月10日(木)～13日(日)／場所：埼玉県・戸田ボートコース



2015年度全日本選手権プログラムに環境ポスター掲載

●セーフティアドバイザー講習会

開催日：2016年2月28日(日)／会場：愛媛県・今治市



環境活動に言及



(公財)日本テニス協会

JAPAN TENNIS ASSOCIATION

●第33回 第一生命 全国小学生テニス選手権大会

開催期間：2015年7月28日(火)～30日(木)

会場：東京都・第一生命保険株式会社 相模園グラウンドテニスコート



●第90回記念大会 橋本総業 全日本テニス選手権

開催期間：2015年10月31日(土)～11月8日(日)

会場：東京都・有明コロシアム 有明テニスの森公園



●テニスの日

開催日：2015年9月23日(水)

会場：東京都・有明テニスの森公園



有明メイン会場にて中古テニスボールとラケットの回収

●Baby Steps環境ポスター



●JTAホームページで「JTA環境保全基本方針」を紹介





(公社)日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●平成27年度第37回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

開催期間：2015年8月8日(土)～10日(月)／会場：熊本県・阿蘇郡小国町林間広場ホッケー場



大会風景(テント前に環境ポスターを掲出)

(公財)日本体操協会

Japan Gymnastics Association

●第33回全日本ジュニア新体操選手権大会

開催期間：2015年10月9日(金)～11日(日)

会場：東京都・代々木第一体育館



●第69回全日本体操競技団体選手権大会

開催期間：2015年11月28日(土)～29日(日)

会場：東京都・代々木第一体育館



●全日本選手も環境活動を応援



内村航平選手(コナミスポーツクラブ所属、2016年2月28日味の素NTCにて撮影)



白井健三選手(日本体育大学所属、2016年2月28日味の素NTCにて撮影)



(公財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●FIVBワールドカップ2015男子東京大会

開催期間：2015年9月21日(月)～9月23日(水)
会場：東京都・国立代々木競技場第一体育館【Aサイト】



プレスルームにおける環境ポスターの掲示とゴミの分別回収
(日本バレーボール協会環境委員会迫田義人委員長)

●第84回全日本9人制バレーボール総合女子選手権大会

開催期間：2015年11月28日(土)～11月30日(月)
会場：京都府・島津アリーナ京都、ハンナリーズアリーナ



大会会場における環境バナーの掲出

●第68回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 ミキブルーンスーパーカレッジバレー 2015

開催期間：2015年11月30日(月)～12月6日(日)
会場：東京都・大田区総合体育館ほか4会場



大会会場における環境バナーの掲出

●ジャパネット杯春の高校バレー 第68回全日本バレーボール高等学校選手権大会

開催期間：2016年1月5日(火)～1月7日(木)、1月9日(土)～10日(日)
会場：東京都・東京体育館



大会会場における環境バナーの掲出

●平成27年天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会〈ファイナルラウンド〉

開催期間：2015年12月18日(金)～20日(日)、12月26日(土)～27日(日)／会場：東京都・東京体育館、大田区総合体育館



大会会場における環境バナーの掲出





(公財)日本バスケットボール協会

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

●川淵三郎会長 女子日本代表を激励!

開催日: 2015年6月26日(金)

会場: 東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター



会場内にて環境バナーの掲出(リオオリンピックの出場切符獲得を激励)

●第82回皇后杯 全日本総合選手権大会(決勝戦)

開催日: 2016年1月10日(金)

会場: 東京都・国立代々木競技場第1体育館



会場内にて環境バナーの掲出(JXエネオスVSデンソー)

●第82回皇后杯 全日本総合選手権大会(準決勝戦)

開催日: 2016年1月9日(木)

会場: 東京都・国立代々木競技場第1体育館



会場内にて環境バナーの掲出(JXエネオスVSシャンソン)

●第91回天皇杯 全日本総合選手権大会(決勝戦)

開催日: 2016年1月11日(月・祝)

会場: 東京都・国立代々木競技場第1体育館



会場内にて環境バナーの掲出(アイシンVS栃木)

●U-18男子日本代表国内強化合宿

開催日: 2015年11月27日(金)

会場: 東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター



会場内にて環境バナーの掲出(ロイブルコーチの熱い指導)

●U-16女子日本代表国内強化合宿

開催日: 2015年10月7日(水)

会場: 東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター



会場内にて環境バナーの掲出(2024年オリンピックの主役たち)



(公財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●2015/16 ISUワールドカップショートトラック名古屋大会

開催期間：2015年12月4日(金)～6日(日)／会場：愛知県名古屋市・日本ガイシ スポーツプラザ



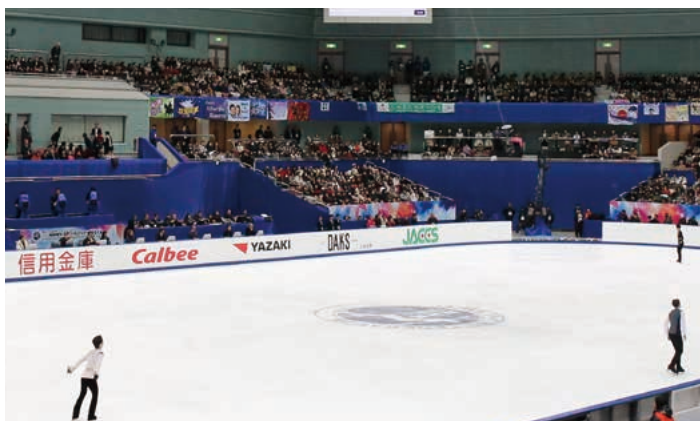
大会役員(実施本部にて)



選手更衣室(環境ポスター掲出とゴミの分別収集)

●ISUグランプリ NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

開催期間：2015年11月27日(金)～29日(日)／会場：長野県長野市・ビッグハット



試合会場(リンク)



実施本部に環境ポスターを掲示

●第84回全日本フィギュアスケート選手権大会

開催期間：2015年12月24日(木)～27日(日)／会場：北海道札幌市・真駒内セキスイハイムアリーナ



観客席とオーロラビジョン(環境パナーの掲出)



実施本部に環境ポスターを掲示



(公財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●第11回風越カップ全日本少年アイスホッケー大会(小学生)

開催期間：2016年3月26日(土)～29日(火)／会場：長野県軽井沢町・風越公園アイスアリーナ



軽井沢選抜チーム



長野県選抜チーム

●男子オリンピック2次予選グループJ

開催期間：2016年2月11日(木)～14日(日)／会場：北海道札幌市・月寒体育館



写真左から、坂井常雄JIHF監事、トーマスウーIIHF副会長、小野伸治JIHF国際委員長、石田浩之IIHFメディカルスーパーバイザー、福田公孝JIHF理事

●第4回全日本小学生低学年選抜大会

【太陽生命U9ジャパンカップ2016】

開催期間：2016年3月19日(土)～20日(日)

会場：岡山県倉敷市・ヘルスピア倉敷アイスアリーナ





(公財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●平成27年度ジュニアクイーンズカップ選手権大会

開催期間：2015年4月4日(土)～5日(日)／会場：京都府舞鶴市・舞鶴文化公園体育館／参加：146団体・416名



大会役員と審判審判の皆さん

●第32回全国少年少女レスリング選手権大会

開催期間：2015年7月24日(金)～26日(日)／会場：東京都渋谷区・国立代々木競技場第一体育館／参加：202クラブ・1554名



世界選手権代表の紹介。左から福田富昭会長、吉田沙保里選手、伊調馨選手、登坂絵莉選手

●2015エリートキャンプ

開催期間：2015年11月20日(金)～23日(月・祝)／会場：東京都北区・味の素ナショナルトレーニングセンター／参加：43名



ウォーミングアップ風景(全国大会5～6年の優勝者)

●世界コーチクリニック

開催期間：2015年12月4日(金)～6日(日)／会場：東京都北区・味の素ナショナルトレーニングセンター



左から富山英明常務理事、馳浩文部科学大臣、IF関係者

●天皇杯・全日本選手権大会

開催期間：2015年12月21日(月)～23日(水・祝)／会場：東京都渋谷区・国立代々木競技場第2体育館／参加：361名



試合風景

●第20回全国少年少女選抜レスリング選手権大会

開催期間：2016年3月5日(土)～6日(日)／会場：東京都板橋区・板橋区立小豆沢体育館／参加：167クラブ・677名



審判員の皆さん



(公財)日本セーリング連盟

JAPAN SAILING FEDERATION

●第70回国民体育大会2015紀の国わかやま国体

開催期間：2015年9月10日(土)～13(月・祝)／会場：和歌山県・和歌山セーリングセンター



トリプルエコバッグワークショップ



不要になったヨットのセールをリサイクルしたワークショップを実施(写真は作品例)

●第14回 49er,49er FX級全日本選手権大会

開催期間：2015年10月1日(木)～2日(金)
会場：神奈川県・江の島



●第35回ミニトン全日本選手権大会

開催期間：2015年10月10日(土)～12(月・祝)
会場：鹿児島県・鹿児島湾



●第44回全日本470級ヨット選手権大会

開催期間：2015年11月17日(火)～23(月)／会場：鳥取県境港市・境港共用マリーナ



ゴミの分別収集を励行



環境バナーと記念撮影



(公社)日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

●第17回全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会

開催期間：2015年7月18日(土)～20日(月)
会場：愛媛県・新居浜南高校



69kg級優勝の戸田選手

●平成27年度全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会

開催期間：2015年8月1日(土)～5日(水)
会場：兵庫県・明石中央体育館



団体優勝の四日市工業高校

●第70回国民体育大会(ウエイトリフティング競技会)

開催期間：2015年9月27日(日)～10月1日(木)／会場：和歌山県・片男波公園



団体優勝の沖縄県



+105kg級優勝の太田選手

●レディースカップ 第7回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会

開催期間：2015年11月19日(水)～21日(金)／会場：岩手県・奥州市江刺中央体育館



団体優勝(一般)の金沢学院大学



団体優勝(高校)の鳥羽高校



(公財)日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

●第20回ヒロシマ国際ハンドボール大会

開催期間：2015年6月26日(金)～28日(日)
会場：広島県・中区スポーツセンター



●第42回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

開催期間：2015年8月19日(水)～21日(金)
会場：熊本県・八代市総合体育館



●リオデジャネイロオリンピック ハンドボール競技

女子アジア予選

開催期間：2015年10月20日(火)～25日(日)
会場：愛知県・愛知県体育館



●第67回日本ハンドボール選手権大会

開催期間：2015年12月22日(火)～27日(日)
会場：愛知県・愛知県体育館



●ANA CUP第40回日本ハンドボールリーグプレーオフ

開催期間：2016年3月26日(土)、27日(日)
会場：東京都・駒沢体育館



●環境啓発ポスターのプログラム掲載



いわて花巻28時間耐久ハンドボールゲーム、高松宮記念杯第5回全日本社会人ハンドボール選手権大会、第20回ヒロシマ国際ハンドボール大会、第40回日本ハンドボールリーグ、第67回日本ハンドボール選手権大会、第11回春の全国中学生ハンドボール選手権大会



(公財)日本自転車競技連盟

JAPAN CYCLING FEDERATION

●第84回全日本自転車競技選手権大会トラックレース

開催期間：2015年4月11日(土)～12日(日)

会場：静岡県・日本サイクルスポーツセンター・伊豆ベロドローム



選手ピットエリアへのポスター掲示

●2015全日本自転車競技選手権大会オムニウム／マスターズ

開催期間：2015年11月21日(土)～22日(日)

会場：静岡県・日本サイクルスポーツセンター・伊豆ベロドローム



ウォーミングアップエリアへのバナー掲示

●第4回 全日本トライアル選手権大会

開催期間：2015年5月4日(土)～5日(祝・日)／会場：長野県・佐久ミレニアムパーク



トライアル競技における障害物の設置例。構造物を新しく作成・設置するだけでなく、トラックや建設機械などを活用している。

(公財)全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

●平成27年度全日本弓道選手権大会(競技会)

開催期間：2015年9月18日(金)～22日(火)／会場：三重県伊勢市・神宮弓道場



公益財団法人全日本弓道連盟会長 柴田猛(中央左和服)
他 左から、高田昌浩副会長、那須公平副会長、中野秀也副会長



大会会場にポスターを掲示



(公財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●第32回全日本小学生選手権大会

開催期間：2015年7月30日(木)～8月2日(日)
会場：富山県・高岡市テニスコート



環境横断幕を背に、左から(公財)日本ソフトテニス連盟の山下晴海理事、同柳下秋久常務理事、同小原信幸副会長、富山県ソフトテニス連盟の高倉正和会長、同山浦尚副会長、同高辻則夫理事長

●STEP3 四国ブロック

開催期間：2015年8月28日(金)～30日(日)
会場：徳島県・大神子病院しあわせの星テニスセンター



四国ブロックのSTEP3による選考でSTEP4に進むことが決まった生徒(選手)たち

●第70回天皇杯・皇后杯全日本選手権大会

開催期間：2015年10月23日(金)～25日(日)
会場：滋賀県・長浜市民庭球場



横断幕の前に大会役員。右から2人おいて、滋賀県ソフトテニス連盟の宇野治会長、(公財)日本ソフトテニス連盟の表孟宏会長、同西村信寛副会長、同笠井達夫専務理事 他

●平成27年度 全国小・中・高指導者研修会

開催期間：2016年2月13日(土)～14日(日)
会場：大阪府・大阪アカデミア



全国の小・中・高の指導者を前に挨拶をする(公財)日本ソフトテニス連盟の笠井達夫専務理事

●ソフトテニスマナー BOOK

発行：2016年2月／配布先：全加盟団体、都道府県ソフトテニス連盟等



ソフトテニスマナーBOOK表表紙及び裏表紙
裏表紙には(公財)日本ソフトテニス連盟環境・フェアプレー横断幕の標語の「環境宣言『来たときよりも美しく!』フェアプレー宣言『ありがとう あなたの笑顔とそのマナー』」を記載



ソフトテニスマナーBOOKの中からの抜粋。P13「監督・コーチ」P17「本部・役員のマナー」
上記以外にもP9「選手」のところで「ペットボトルやゴミは持ち帰り、ゴミを出さないようにしましょう。」等を記載

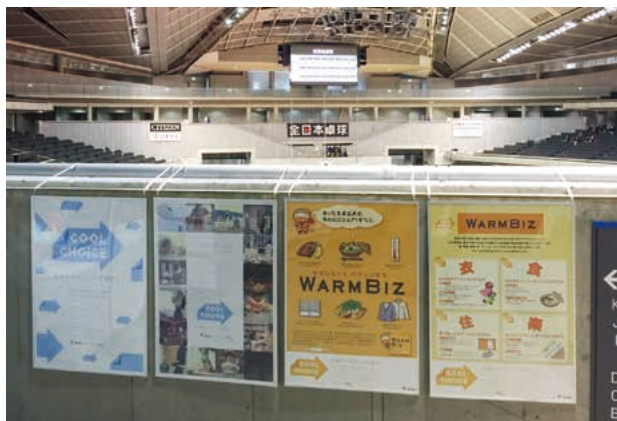


(公財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●全日本卓球選手権大会

開催期間：2016年1月11日(月・祝)～17日(日)／会場：東京都・東京体育館



「COOL CHOICE」及びウォームビズパネル展示



会場内ゴミ分別箱

●平成27年度全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)

開催期間：2015年7月16日(木)～19日(日)

会場：愛媛県・愛媛県武道館



来たときよりキレイにポスター掲示

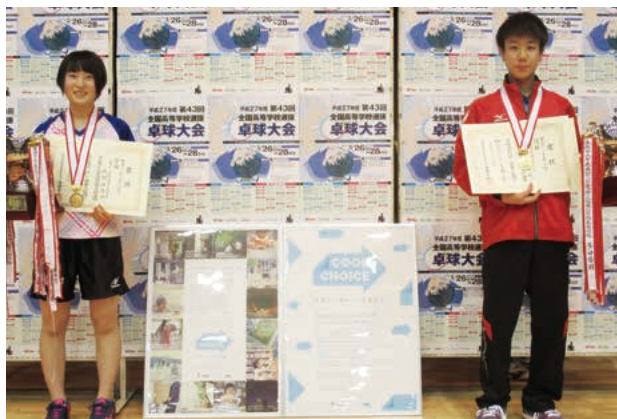
●環境改善PRの様子



ユニバーシアード 男子シングル優勝の森園政崇選手

●全国高校選抜大会

開催期間：2016年3月25日(金)～28日(月)／会場：福島県・郡山総合体育館



表彰式にて、男女優勝者と共に「COOL CHOICE」PR



全国大会プログラムに平成27年度環境省の環境改善活動のテーマ「Fun to Share」の寄稿写真



(公財)全日本軟式野球連盟

JAPAN RUBBER BASEBALL ASSOCIATION

●高松宮賜杯第59回全日本軟式野球大会2部(香川県)

開催期間：2015年10月16日(金)～19日(月)
会場：香川県・県営野球場 レグザムスタジアム



試合の様子:ヤマカミ(東京都代表)と富山GOLD LIONS(富山県代表)

●高円宮賜杯第35回全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント(東京都)

開催期間：2015年8月6日(金)～12日(木)
会場：東京都・東京ドームホテル



監督主将会議場での環境ポスター掲出の様子

●中古用具の寄贈

モルデイブの子どもたちへグローブ等
の中古野球用品を寄贈



(公財)日本ラグビーフットボール協会

JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

●JOC環境ポスター掲載

掲載期間：2015年9月～2016年3月公式試合シーズン期間



日本協会正面エントランスにて



関東協会事務局内掲示板にて



(公社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第39回全日本ジュニア障害馬術大会2015

開催期間：2015年7月30日(木)～8月2日(日)／会場：静岡県・御殿場市馬術スポーツセンター



●第67回全日本馬場馬術大会2015 part1

開催期間：2015年11月6日(金)～8日(日)／会場：兵庫県・三木ホースランドパーク



●機関誌「馬術情報」への環境ポスター掲載



●大会パンフレットへの環境ポスター掲載



全会員、一般購読者に配布



(公社)日本フェンシング協会

FEDERATION JAPONAISE D'ESCRIME

●高円宮杯ワールドカップ東京大会 2015フェンシング男子フルーレ個人戦・団体戦

開催期間：2015年11月6日(金)～8日(日)／会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館



2015東京ワールドカップ

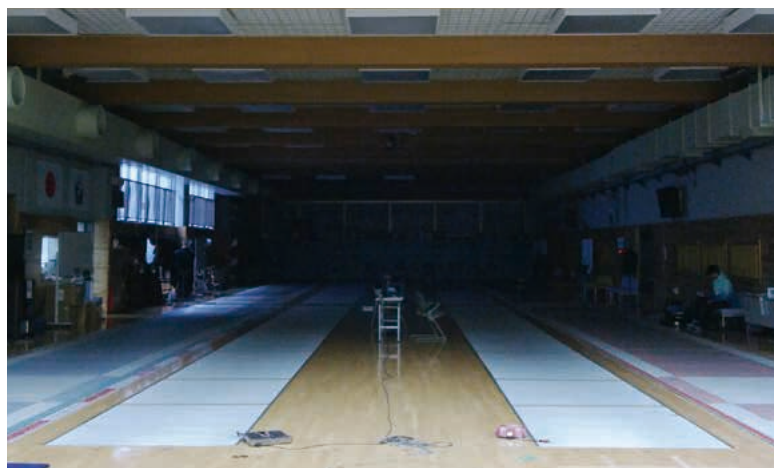


ペットボトル／ピン／可燃ゴミの分別



大会ポスターの隣にJOC環境委員会のポスターを掲示

●国立スポーツ科学センター練習場



フェンシング道場内／練習時間外の節電



(公財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●全日本選手権大会

開催日：2015年4月29日(水・祝)

会場：東京都・日本武道館



会場に環境バナーを掲示

●全日本柔道連盟 事務局受付



事務局受付にてポスターを掲示

●平成27年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

開催期間：2015年9月12日(土)～13日(日)／会場：埼玉県・埼玉県立武道館



横断幕の掲示



●平成27年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

開催期間：2015年11月7日(土)～8日(日)／会場：千葉県・千葉ポートアリーナ



大会プログラムへのポスター広告の掲載



(公財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第48回日本女子ソフトボールリーグ

開催期間：2015年4月18日(土)～19日(日)、2015年10月31日(土)～11月1日(日)

会場：全国20会場(開幕節：愛知県・ナゴヤドーム、決勝トーナメント：京都府・わかさスタジアム京都)



決勝トーナメント(ナゴヤドーム)でライト側フェンスに設置した環境標語バナー



全国各地の会場に環境標語バナーを設置
(左:伊集院総合運動公園 右:秋津球場)



●2015 JAPAN CUP国際女子ソフトボール大会

開催期間：2015年8月7日(金)～9日(日)

会場：岐阜県・大垣市北公園野球場



会場各所に設置のゴミ箱前に環境啓発ポスターを貼付し、ゴミの分別収集を呼びかけた

●公益財団法人 日本ソフトボール協会 事務局



クールビズ、ウォームビズ、紙の削減やゴミの分別廃棄、エアコンのこまめな温度調整、ファイルの再利用を心掛けている



(公財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●平成27年度全日本総合バドミントン選手権大会

開催期間：2015年11月30日(月)～12月6日(日)
会場：東京都・代々木第二体育館／参加人数：400名



左から朴ヘッドコーチ、松友美佐紀選手(女子複優勝)、綿貫民輔会長

●バドミントン日本リーグ高岡大会開幕戦

開催期間：2015年10月31日(金)～11月1日(日)
会場：富山県・高岡市民体育館／参加人数：450名



左から垣岩令佳選手(再春館製菓)、高橋正樹高岡市長、前田美順選手(再春館製菓)

●全英選手権2016

開催期間：2016年3月7日(月)～15日(火)／会場：英国・パークレアー・インドアスタジアム／参加人数：294名



左から奥原希望選手(女子単優勝)、WANG Shixian選手(CHINA)



左から高橋礼華選手、松友美佐紀選手(女子複優勝)

●バドミントンスーパーシリーズファイナルズ2015

開催期間：2015年12月9日(日)～13日(日)
会場：アラブ首長連邦共和国・ドバイ・ハマダンスポーツコンプレックス
／参加人数：62名



奥原希望選手(女子単優勝)

●第65回全日本実業団選手権大会

開催期間：2015年7月1日(水)～5日(日)
会場：京都府・京都府立体育館／参加人数：1,100名



大会プログラムに環境活動ポスター掲載



(公社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●第70回国民体育大会(ライフル射撃競技)

開催期間：2015年9月27日(日)～30日(水)／会場：和歌山県・県ライフル射撃場



和歌山国体での坂本会長らの環境呼びかけ



競技会場でのチーム射撃体験会

●全日本小学生ライフル射撃競技選手権大会

開催期間：2015年8月1日(土)～2日(日)／会場：東京都北区・味の素ナショナルトレーニングセンター



講習会場に環境ポスターを掲示



講習風景

(公財)日本ゴルフ協会

JAPAN GOLF ASSOCIATION

●第25回日本シニアオープンゴルフ選手権

開催期間：2015年10月29日(木)～11月1日(日)／会場：三重県・COCOPA RESORT CLUB白山ヴァレージゴルフコース／Queenコース



ゴミの分別収集を徹底(日本オープン、日本女子オープン会場においても同様に実施)



(一財)全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

●第63回全日本剣道選手権大会 決勝戦

開催日：2015年11月3日(日)
会場：東京都・日本武道館



●平成27年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会

開催期間：2015年7月25日(土)～26日(日)
会場：東京都・日本武道館



●環境ポスターの掲示



九段事務所の入口

●リサイクルボックスの設置



九段事務所の入口

●中古剣道具の活用



剣道具製造職人さんによる胴の補修



剣道具製造職人さんによる小手の補修



(公社)日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

●第3回近代3種大会in 野幌

開催日：2015年7月12日(日)／会場：北海道・道立野幌総合運動公園



環境ポスターの掲示



大会参加者とスタッフの集合写真

●第70回国民体育大会2015 紀の国わかやま国体

開催日：2015年8月23日(日)／会場：和歌山県・箕島中学校



鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用



参加選手、スタッフでBB弾を撤去

●第3回近代3種日本選手権大会in千葉 兼 JOCジュニアオリンピックカップ

開催日：2015年9月6日(日)／会場：千葉県・生命の森リゾート



会場内にてゴミの分別を実施



鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用



(公社)日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

●ジュニア登山IN立山

開催期間：2015年8月16日(日)～19日(水)
会場：富山県・立山



●第39回自然保護委員総会

開催期間：2015年9月12日(土)～13日(日)
会場：福島県・磐梯青少年交流の家



●IFSCワールドカップトロント大会

開催期間：2015年5月30日(土)～31日(日)
会場：カナダ・トロント



●IFSCワールドカップ重慶大会

開催期間：2015年6月20日(土)～21日(日)
会場：中国・重慶



●第18回JOCジュニアオリンピックカップ大会

開催期間：2015年8月14日(金)～16日(日)
会場：富山県・南砺市



●アジアユース選手権大会マレーシア大会

開催期間：2015年12月2日(水)～6日(日)
会場：マレーシア・プルタジャヤチャレンジパーク





(公社)全日本アーチェリー連盟

ALL JAPAN ARCHERY FEDERATION

●全日本ターゲット選手権大会

開催期間：2015年10月23日(金)～25日(日)
会場：静岡県掛川市



ゴミの分別収集を実施

●全国指導者講習会

開催期間：2015年11月28日(土)～29日(日)
会場：鹿児島県・かごしま第一ホテル鴨池



講習会場に環境ポスターを掲示

●全日本室内選手権大会

開催期間：2016年2月20日(土)～21日(日)
会場：和歌山県・和歌山市ビッグホエール



会場内に環境ポスターを掲示

●JOCジュニアオリンピックカップ

第34回全国高等学校アーチェリー選抜大会

開催期間：2016年3月27日(日)～28日(月)／会場：静岡県掛川市



終了後、全員で会場を清掃



(公財)全日本空手道連盟

JAPAN KARATEDO FEDERATION

●日本空手道会館内の様子

(右上)廊下は必要最低限の明かり
 (左下)掲示物を貼り、節電の呼びかけ
 (右下)冬場は上着を着て業務



●大会プログラムや大会会場内で環境ポスターの掲示

(左上)第13回アジア空手道選手権大会 9月4日(金)～6日(日)横浜文化体育館
 (左下)第43回全日本空手道選手権大会 12月12日(土)東京武道館
 (右)第43回全日本空手道選手権大会 12月13日(日)日本武道館





(公社)全日本銃剣道連盟

ALL JAPAN JUKENDO FEDERATION

●第59回全日本銃剣道優勝大会

開催日：2015年4月19日(日)／会場：東京都・日本武道館



大会会場にバナーを掲示

●第15回全日本短剣道大会

開催日：2016年2月14日(日)／会場：東京都・日本武道館



大会プログラムにポスターを掲載

(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟

Japan Bodybuilding & Fitness Federation

●第49回アジア選手権大会

開催期間：2015年6月5日(金)～7日(日)
会場：福岡県北九州市



チーム優勝した日本選手団

●第19回日本クラス別選手権大会

開催期間：2015年4月18日(土)～19日(日)
会場：宮城県仙台市



フィットネス競技(男子フィジーク)



(公財)全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

●協会事務局



スイッチ盤近くにポスターと注意書きを貼付

●平成27年度JBC公認第3種審判員認定会

開催期間：2015年4月11日(土)～12日(日)
会場：東京都文京区・貸教室・貸会議室内海



会場内にポスターを掲示

●JOCジュニアオリンピックカップ 第39回全日本高校ボウリング選手権大会

開催期間：2015年7月28日(火)～30日(水)／会場：神奈川県・川崎グランドボウル



左から男子優勝者・夏目智樹選手、女子優勝者・坂本かや選手



大会プログラムに啓発用広告を掲載

●平成27年度第5回理事会

開催日：2016年3月18日(金)
会場：愛知県・稲沢グランドボウル



会場内にポスターを掲示

●平成27年度ジュニア強化コーチ研修会

開催日：2016年3月27日(日)
会場：東京都・港区立勤労福祉会館



会場内にポスターを掲示



(一財)全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

●第88回選抜高校野球大会

開催期間：2016年3月20日(日)～31日(木)
会場：兵庫県・阪神甲子園球場



八田BFJ副会長(高野連会長)

●第86回都市対抗野球大会

開催期間：2015年7月18日(土)～29日(水)
会場：東京都・東京ドーム



野端BFJ常務理事

●第41回社会人野球日本選手権

開催期間：2015年10月30日(金)～11月9日(月)
会場：京セラドーム大阪



市野BFJ会長他常務理事

●アオダモ植樹キャンペーン2015

開催日：2015年7月18日(土)
会場：北海道・苫小牧国有林



苫小牧植樹の参加者

●アオダモ植樹キャンペーン2015

開催日：2015年8月3日(土)
会場：北海道・栗山町 栗の木ファーム



北海道日本ハムファイターズ栗山秀樹監督の植樹風景

●2015年度野球指導者講習会

開催期間：2016年1月22日(金)～24日(日)
会場：千葉県・幕張メッセ



講習会会場にポスターを掲示



(公社)日本カーリング協会

JAPAN CURLING ASSOCIATION

●JOC強化指定選手対象合宿

開催期間：2015年7月～8月／会場：北海道・アドヴィックス常呂カーリングホール、どうぎんカーリングスタジアム



会場に環境啓発ポスターを掲示



女子強化指定の「LS北見」



男子強化指定の「SC軽井沢クラブ」



女子強化指定の「北海道銀行」

(公社)日本ダンススポーツ連盟

Japan Dance Sport Federation

●2015全日本選手権10ダンス

開催日：2015年6月7日(日)

会場：名古屋市公会堂



会場内にJOC環境横断幕を掲示

●2015ダンススポーツグランプリin北海道

開催日：2015年8月30日(日)

会場：北海道・道立総合体育センター 北海きたえーる



会場内にJOC環境横断幕を掲示



(公社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●グリーントライアスロンin横浜

開催日：2015年4月18日(土)／会場：神奈川県・山下公園



ムラサキ貝を使用した水質浄化の説明



海底から回収されたゴミ

●東京ベイクリーンアップ大作戦

開催日：2015年6月・9月・11月 計3回／会場：東京都・お台場海浜公園



「東京ベイクリーンアップ大作戦」PRバナー



海浜清掃の様子

●カーボンオフセットの取組

開催期間：2015年5月16日(土)・17日(日)／会場：神奈川県・山下公園特設トライアスロン会場



カーボンオフセットの告知 オフセット宣言(後日ポスターに)



EXPO会場での実施もよう



(公社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第26回全日本アンダー23選手権大会

開催期間：2015年6月6日(土)～7日(日)
会場：埼玉県・さいたまスカッシュスタジアムSQ-CUBE



高校生、大学生が参加する大会。どんな大会でもごみの分別と後始末を実施。

●第29回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

開催期間：2015年7月31日(金)～8月2日(日)
会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



多くの海外からの選手やコーチ・保護者の方を迎えての大会。エコポスターでアピール。

●第44回全日本スカッシュ選手権大会

開催期間：2015年11月20日(金)～23日(月・祝)／会場：栃木県・セントラルフィットネスクラブ宇都宮



木村仁常務理事・全日本選手権大会実行委員長ゴミの分別はしっかりと。



青柳隆志全日本選手権実行委員。笑顔でエコをアピール。

●JOCジュニアオリンピックカップ 第20回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会

開催期間：2016年3月27日(日)～29日(火)／会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



ジュニアからエコの意識を。子供から大人へ。



女子アンダー19決勝戦。酒井真美選手(手前)対 渡邊聡美選手(奥)



(一社)全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

●第8回全日本ジュニアテコンドー選手権大会

開催日：2015年7月26日(日)／会場：長野県・松本市総合体育館 メインアリーナ



開会式:牧野環境委員長から環境啓発活動の呼びかけ



大会パンフレットの裏表紙に環境啓発の内容記載

●第9回全日本テコンドー選手権大会

開催日：2015年10月4日(日)／会場：滋賀県大津市・ルネサンスセミコンダクタマニュファクチャリング(株)体育館



大会会場入口にてポスター掲示



開会式:牧野環境委員長から環境啓発活動の呼びかけ

●第9回全日本テコンドー選手権大会 兼 第22回アジアテコンドー選手権大会 日本代表選考会

開催日：2016年2月21日(日)／会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館



大会パンフレット裏表紙に環境啓発の内容記載



(一社)日本バイアスロン連盟

Japan Biathlon Federation

●第25回東日本バイアスロン競技大会

開催期間：2016年1月22日(金)～24日(日)／会場：岩手県八幡平市・田山バイアスロン競技場



大会の競技風景



競技会内のゴミ分別状況



(一社)日本セパタクロー協会

JAPAN SEPAKTAKRAW FEDERATION

●平成27年度全日本セパタクローオープン選手権大会

開催期間：2015年7月11日(土)、12日(日)／会場：東京都・墨田区総合体育館



大会におけるポスター掲示(選手出入口)



大会におけるポスター掲示(観客出入口)



(一社)日本カバディ協会

JAPAN KABADDI ASSOCIATION

●第9回東日本カバディ選手権大会

開催期間：2015年8月1日(土)～2日(日)
会場：東京都・帝京中学・高等学校



大会会場に環境ポスターを掲示

●第26回全日本カバディ選手権大会

開催期間：2015年10月3日(土)～4日(日)
会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター



男子の部優勝「大正仏陀」チーム



女子試合



男子試合

(特非)日本クリケット協会

Japan Cricket Association

●協会事務局



事務局内で環境ポスターの掲載およびクールビズの実施



(公社)日本チアリーディング協会

Foundation of Japan Cheerleading Association

●第9回チアリーディング アジア インターナショナル オープン チャンピオンシップ 第2回アジア ジュニア チアリーディングチャンピオンシップ

開催期間：2015年5月9日(土)～10日(日)／会場：東京都・国立代々木競技場 第一体育館



環境バナーを掲げる総合優勝チーム



会場内バナー掲示

●JAPAN CUP 2014チアリーディング日本選手権大会

開催期間：2015年8月28日(金)～30日(日)／会場：東京都・国立代々木競技場 第一体育館



環境ポスターを手に記念撮影する世界選手権大会派遣チーム



環境ポスターを手に記念撮影する高校部門優勝チーム



大会パンフレットに環境広告を掲載

●協会事務室内



事務局内に環境ポスターを掲示



(公社)日本オリエンテーリング協会

Japan Orienteering Association

●第4回全日本ミドルオリエンテーリング大会

開催日：2015年11月22日(日)／会場：兵庫県神戸市・再度公園 野外会場



野外会場でのテントサイトに環境ポスターを掲示



●第8回全日本スプリントオリエンテーリング大会

開催日：2015年10月31日(土)／会場：長野県松本市・やまびこドーム 信州スカイパーク



やまびこドーム内に環境ポスターを掲示



●第42回全日本オリエンテーリング大会

開催日：2016年3月20日(日)／会場：愛知県岡崎市・岡崎中央総合公園 武道館



種別	種別	種別	種別	種別	種別
男子	女子	混合	少年	少女	幼児
1000m	1000m	1000m	1000m	1000m	1000m
2000m	2000m	2000m	2000m	2000m	2000m
3000m	3000m	3000m	3000m	3000m	3000m
4000m	4000m	4000m	4000m	4000m	4000m
5000m	5000m	5000m	5000m	5000m	5000m
6000m	6000m	6000m	6000m	6000m	6000m
7000m	7000m	7000m	7000m	7000m	7000m
8000m	8000m	8000m	8000m	8000m	8000m
9000m	9000m	9000m	9000m	9000m	9000m
10000m	10000m	10000m	10000m	10000m	10000m

※大会要項を参照してください。



大会プログラム内に環境ポスターを掲載



(公社)日本パワーリフティング協会

Japan Powerlifting Association

●スポーツ庁鈴木長官表敬訪問

開催日：2015年12月10日(木)
会場：東京都・スポーツ庁



世界パワーリフティング選手権大会47kg級優勝福島友佳子選手が鈴木長官を表敬訪問

●2015紀の国わかやま国体

開催日：2015年9月20日(日)
会場：和歌山県・広川町立体育館



開会式で国歌斉唱する80歳の藤田選手



国体公開競技パワーリフティング開会式

●第16回全日本障がい者パワーリフティング選手権大会

開催日：2016年1月10日(日)／会場：東京都・日本体育大学記念講堂





(一社)日本フライングディスク協会

JAPAN FLYING DISC ASSOCIATION

●ビーチアルティメットフレンドシップ湘南2015 第16回EBASAH-CUP

開催期間：2015年5月9日(土)～10日(日)／会場：神奈川県藤沢市・湘南鵠沼海岸



大会タイトル幕とビーチクリーン風景



ビーチアルティメット、プレー風景。遠方からの参加者も多い、人気の大会



参加選手全員での壮観なビーチクリーン



手作りのゴミ分別表とビーチクリーン学生スタッフ。学生達の運営協力のお陰で、大会が成り立っている



フライングディスクにゴミを集める参加選手。1人1枚持っているスポーツの道具がクリーン活動に役立つ

●協会事務局IT化による、ペーパーレス化推進



タブレット導入により事務所内だけでなく、大会会場でも活躍



(一社)日本サーフィン連盟

Nippon Surfing Association

●全国一斉ビーチクリーン活動

開催日：2015年9月13日(日)／会場：全国サーフポイント 120カ所



東京都神津島 前浜



富山県 岩瀬浜



千葉県 鴨川



岐阜県 久美原



(公財)日本体育協会

Japan Sports Association

●生涯スポーツ・体力づくり全国会議2016 一人・スポーツ・未来―

開催日：2016年2月5日(金)／会場：福島県郡山市・ホテルハマツ

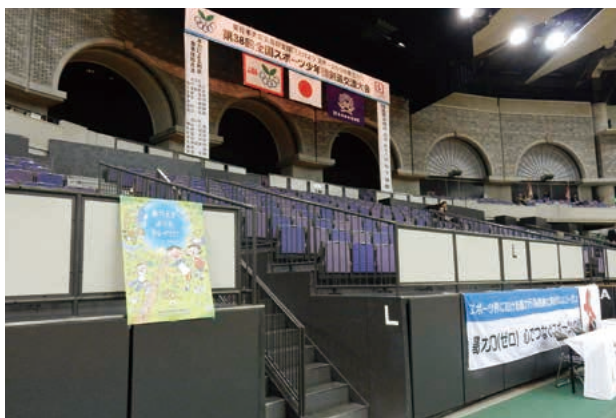


本会担当の分科会会場にて環境ポスターを掲示。参加者に対し環境保全を喚起



●第38回全国スポーツ少年団剣道交流大会

開催期間：2016年3月26日(土)～3月28日(月)／会場：鹿児島県鹿児島市・鹿児島アリーナ



事業期間中の主会場に環境ポスターを掲示。参加者及び運営スタッフに環境保全を啓発



●平成27年度日本スポーツ少年団シニア・リーダースクール

開催期間：2015年8月6日(木)～8月10日(月)／会場：静岡県御殿場市・国立中央青少年交流の家



事業期間中の主会場に掲示。参加者及び運営スタッフに環境保全を啓発



(特非)日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●JOAセミナー

開催日：2015年5月16日(土)
会場：東京都・学習院女子大学



後列左より、中森康弘(JOA理事)、望月敏夫(JOA理事)、芹澤恵(日本スポーツ振興センター)、緒方慎吾(東海大学学生)、久保アンリ(筑波大学学生)、前列左より、大津克哉(JOA理事)、舛本直文(JOA理事)、木村江巳香(東海大学大学院修了)、須田春菜(東海大学学生)

●JOAオリンピック・レクチャー 026

開催日：2015年5月31日(日)
会場：東京都・明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン



会場正面にポスターを掲出(司会の荒牧亜衣氏)



左からJOA笠原会長、結城氏(JOA会員、読売新聞編集委員)、JOA荒井専務理事

●第38回JOAセッション

開催日：2015年12月5日(土)
会場：東京都・武蔵野大学有明キャンパス



受付(壁面)



会場(壁面)



登壇者の皆さんとJOA笠原会長、同 藤原副会長、同 荒井専務理事

平成 27 年度 スポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2015

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
Photographic Report of Activities on Sport and Environment	

本文目次 Contents

1. JOC スポーツ環境専門部会活動の意義について	53
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	
2. 第 11 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー 開催報告	54
Report of the 11th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	
3. 第 12 回スポーツと環境担当者会議 開催報告	57
Report of the 12th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment	
4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について	59
Issues Regarding Awareness and Implementation Activities	
(1) 各競技団体等の活動	60
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	
(2) JOC スポーツ環境専門部会員の活動	110
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	
(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	114
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Activities of NFs	
(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿	117
Lecture draft on Sport and Environment	
5. IOC 持続可能性とレガシー委員会について	124
IOC Sustainability and Legacy Commission	
6. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組み	125
Activity for Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games	



7. 関連資料	130
References	
(1) JOC スポーツ環境活動者一覧	130
JOC Activities Person of Sport and Environment Commission	
JOC スポーツ環境専門部会	130
JOC Sport and Environment Commission	
本会加盟団体（スポーツ環境担当者）	131
National Federation	
(2) IOC 持続可能性とレガシー委員会	134
IOC Sustainability and Legacy Commission	
(3) OCA スポーツと環境委員会	134
OCA Sport and Environment Commission	
(4) IOC スポーツ環境委員会小史	135
Brief History of the IOC Sport and Environment Commission	
(5) JOC スポーツ環境専門部会小史	136
Brief History of the JOC Sport and Environment Commission	
(6) オリンピック・アジェンダ 2020 20 + 20 の提言（抜粋）	137
OLYMPIC AGENDA 2020	



1

JOCスポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

2015年度（平成27年度）の公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）スポーツ環境専門部会の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

2001年度から始まったJOCスポーツ環境専門委員会（2011年度からJOCスポーツ環境専門部会）も14年が経過し、今年度は、偉大な先人の方々が積み上げて来られた礎の上に立って、いよいよ東京2020大会の開催に向け始動した年となりました。



JOCが環境問題に取り組む姿勢は、2001年度から変わっておりませんが、過去のスポーツ環境専門部会のスローガンをみますと、次のとおりです。

- 2002年度 この星にスポーツを
 - 2003年度 資源循環型社会に
 - 2004年度 パートナーシップで清々しいスポーツを
 - 2005年度 さわやかなスポーツを！
 - 2006年度 みんなで保とうさわやかな地球
 - 2007年度 温暖化でスポーツを消さないで！
 - 2008年度 子供たちに健やかなスポーツ環境を！！
 - 2009年度 ストップザ温暖化
 - 2010年度 快適なスポーツを！
 - 2011年度 スポーツでつなぐあした
 - 2012年度 スポーツの力でさわやかな未来を
 - 2013～
 - 2015年度 来たときよりもキレイに！
- ～スポーツの心、環境と未来へ～

このように、環境問題は地球規模的な問題から一般社会生活に至るまでグローバルであり、なかなか成果が目に見えるものではありません。私たち一人ひとりが、自然環境の価値や人間社会と環境とのかわり方の認識を深め、スポーツ界の中で、環境保全の大切さを、果てしなく継続的に啓発すると共に、模範となる環境保全の活動を実践していくことが、本部会の使命と考えております。

東京2020大会まであと4年。今後は、東京2020大会組織委員会や環境省とも連携を深め、スポーツ関係者への「環境に対する意識や取り組みの向上」を強化するため、今年2月に開催された総務委員会フォーラムでの皆様のご意見を活かし、毎年ステップを踏みながら、着実に成果を挙げていかなければなりません。今後とも皆様のご協力のほど宜しくお願いします。

公益財団法人日本オリンピック委員
スポーツ環境専門部会
部会長 野端啓夫



2

第11回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of the 11th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

1.趣 旨：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、平成13年度からスポーツ環境専門部会を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進してまいりました。この度、その活動のひとつとして、第11回の環境地域セミナーをJOCパートナー都市の帯広市で開催することとなりました。このセミナーでは、帯広市を中心としたスポーツ関係者の皆様とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくか、スポーツ団体の具体的な実践例を交え一緒に学ぶことを目的に実施致します。

2.主 催：公益財団法人日本オリンピック委員会

3.共 催：帯広市（JOCパートナー都市）

4.後 援：文部科学省、環境省、公益財団法人日本体育協会、帯広市体育連盟

5.日 時：平成27年11月21日（土） 13:30～16:15

6.場 所：帯広市 とかちプラザ レインボーホール（帯広市西四条南13丁目1番地）

7.参加者：JOC、帯広市、日本体育協会、帯広市体育連盟の関係者及び加盟団体、スポーツ関係団体、JOCパートナー都市 他 192名

8.プログラム：

13:30 開会

主催者挨拶

平岡英介 JOC 専務理事

米沢則寿 帯広市長

13:50 基調対談「スポーツと環境の関わり」

上田 藍 オリンピアン（トライアスロン）

鈴木 靖 オリンピアン（スケート／スピードスケート）

鶴岡剣太郎 オリンピアン（スキー／スノーボード）

コーディネーター：宮下 純一 オリンピアン（水泳／競泳）

JOC スポーツ環境専門部会部会員

JOC スポーツ環境アンバサダー

15:00 休憩

15:15 プレゼンテーション「スポーツを通じた環境に関する取り組み」

「十勝管内の総合型スポーツネット活動と環境」

小田新紀 NPO 法人幕別札内スポーツクラブ代表

16:00 閉会の挨拶

野端啓夫 JOC スポーツ環境専門部会部会長／理事

16:15 閉会



■セミナー概要

JOC パートナー都市である帯広市のとかちプラザで「第 11 回 JOC スポーツ環境・地域セミナー」を開催。本セミナーは、帯広市を中心としたスポーツ関係者とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくか、スポーツ団体の具体的な実践例を交え、一緒に学ぶことを目的に行われ、今年度は地元のスポーツ関係者や高校生 192 名が参加した。

はじめにセミナー開催にあたり、平岡英介 JOC 専務理事が「昨今、地球温暖化がますます加速し、自然環境への影響はスポーツ界においても他人事ではないという思いです。このような中で、環境問題において全国をリードする環境モデル都市である帯広市の皆さまと環境保全の必要性について改めて考えることは意義が深いことです」とあいさつ。続けて、開催地を代表して米沢則寿帯広市長は、第 8 回アジア冬季競技大会のスピードスケート会場が帯広市に決まったことに触れ、「私たちの暮らし、社会活動はあらゆる面で地球環境と密接な関わりを持っており、スポーツの分野でも同様です。今回のセミナーはスポーツ分野における環境保全の取り組みなどについて、皆さまといっしょに考える貴重な機会となるでしょう」と述べた。

●基調対談「スポーツと環境との関わり」

第 1 部の基調対談では「スポーツと環境との関わり」をテーマに、上田藍選手（トライアスロン）、鈴木靖氏（スケート／スピードスケート）、鶴岡剣太郎氏（スキー／スノーボード）の 3 名のオリンピックがパネリストとして登壇、同じくオリンピックで JOC スポーツ環境アンバサダーならびに、JOC スポーツ環境専門部会員の宮下純一氏（水泳／競泳）がコーディネーターとして進行し、それぞれの競技経験などから、環境保全についてディスカッションを行った。

まず、上田選手から自然環境と関わりの深いトライアスロンについて、千葉県手賀沼の環境活動を取り上げ、1970 年代には汚染度ナンバーワンの沼と呼ばれていた手賀沼で、トライアスロンの大会を開催したいと願う地域の人たちが、水質改善活動に 30 年以上努め、ついに 2006 年、大会を開催でき

るようになった事例を紹介。

「小さなことから始めた結果、水質を変えるという大きなことにつながった。スポーツが環境を変えた大きな一歩になりました」とコメント。また、東京 2020 大会のトライアスロン会場を予定しているお台場での水質改善の活動についても触れ、現在お台場にアサリを放流して水をろ過する作業をしているが、その効果としてアサリ 1 個につき 1 年間で約 4 トン以上の水をろ過出来ると説明した。

続いて、フランスに 2 年間在住していた鶴岡氏が、「僕は現役時代、夏はヨーロッパの水氷地帯で練習していたのですが、以前は 8 月初旬でも練習できていたのに、1 年ごとに 7 月、6 月と時期を早めないと、良い雪質のコンディションで滑れなくなりました」と、地球温暖化を肌で実感した体験を語った。

また、フランスでの生活で強く意識するようになったのは、「リサイクル」「リユース」「リデュース」の『3R』。華やかで最先端を追っているように見えるパリの人たちも、すぐに物を捨てるのではなく、驚くほど大切に長持ちさせていることを紹介し、そんなパリの人たちの生活スタイルを目の当たりにし感じたことを踏まえて、「私たちスポーツ選手も、道具や自然に敬意を払うこと、そして一つひとつのことに心を込めることが大切です、それが環境保全につながっていくと思います」と呼びかけた。

鈴木氏は 2017 年に札幌で開催されるアジア冬季競技大会の組織委員会という立場から、スポーツと環境について話をした。札幌は 1972 年にオリンピック冬季大会を開催し、それまでのオリンピック開催都市の中で初めて環境について考えた都市であるという歴史から、札幌オリンピック時に建設された施設の大部分を再利用し、また、電気照明の LED 化、太陽光発電、地中熱の利用、ハイブリッド車の配備など、地球環境保全を全面に押し出した大会を



2017年のアジア冬季大会では目指していると説明した。

そうした活動を進めている中で、最近街中でゴミを拾う人を多く見受けられるようになったことについて触れ、それをきっかけに「ゴミ1つ 拾う気持ちで おもてなし」を自身のスローガンにしたと紹介。そして、「ゴミ拾いをしている姿を見て、私自身もいいなあと優しい気持ちになりました。ゴミを1つ拾うという小さなことが周りの人たちに伝わり、それが大きな心になっていく。もっと言えば、社会が良くなり、国が良くなり、環境に対する意識も変わっていくのではないかな。そのような気持ちでアジア大会では各国の皆さまをお迎えしたい」と述べた。

「この基調対談はスポーツと環境について考えるきっかけにすると同時に、なぜ環境保全はスポーツにとって大事なのかを考える場でもあります」と、進行を務めていた宮下氏は述べ、「今日は高校生の皆さんも来て来ていますが、さらに下の世代、生まれてくる子どもたちに、私たちの時代と同じようなスポーツ環境を整えられるのか？ 例えば水質問題や水不足でトライアスロンができない、水泳ができないというように、選択肢がなくなってしまうのはすごく悲しいことだと思います。私たちはスポーツで色んなことを学んできましたので、子どもたちのためにたくさんのスポーツができる環境を作ることが、環境問題を考えることだと私は思います」と語った。

また、宮下氏はオリンピックで学んだこととして、「エクセレンス（卓越）」、「フレンドシップ（友情）」、「リスペクト（敬意／尊重）」の3つのオリンピックの価値を子どもたちに伝えていきたいと考えている。「オリンピックの価値を感じることができるスポーツの舞台を崩さないためにも、自然環境を整えていきたい。そして、スポーツと環境保全について感じたことを一人が二人に伝えて、二人が三人に伝えていけば、それがどんどんムーブメントとして広がっていくと思います。そういう意味でも、スポーツ環境というものを改めて考えてもらえればと思います」と呼びかけた。

●プレゼンテーション

「スポーツを通じた環境に関する取り組み」

第2部では「スポーツを通じた環境に関する取り組み」として、「十勝管内の総合型スポーツネット活動と環境」をテーマにNPO法人幕別札内スポーツクラブ代表の小田新紀氏がプレゼンテーションを行った。

まず小田氏は、十勝管内にある50面以上の天然芝コート、国内2番目の屋内リンクである十勝オーバル、さらに、雪も北国の大切な資源であることから、冬に凍らせた氷を夏に利用する世界初のカーリング場など、日本有数のスポーツ施設を紹介。その一方で、自然の地形や廃工場を再利用して作られているなど、環境と向き合った簡素な施設も多く見られるヨーロッパの現状から「必ずしも施設が立派なことが大事ではない」ということも学んだと語った。

また、小田氏は、同じくヨーロッパから、スポーツは衣食住、音楽、文化とすべていっしょにあるという精神も学んだと語り、今後の十勝管内のスポーツ活動の展望として「十勝には世界に誇れる自然環境、自然エネルギー、食材、また世界に劣らない施設があります。ありのままの食や自然を生かしながら楽しめるスポーツの場を創出することを大切にしながら、そのことを次世代につないでいきたい。自然と共生しながら、十勝らしいスポーツ文化を作っていけると思っています」と、十勝のスポーツ環境が持つ大きな可能性に期待を込めた。

●閉会挨拶

セミナーの最後に、野端啓夫 JOC スポーツ環境専門部会部会長が閉会のあいさつを行い、これまでのプログラムを振り返りながら「環境保全の取り組みはある意味、ゴールの見えない活動でもあります。しかし、スポーツを楽しめる環境を50年後、100年後の子どもたちに残すためにもアクションを起こさないといけない。そのためにも、今回のセミナーで感じられた環境保全を啓発することの意義を、皆さんの仲間にもぜひ伝えていただきたい」とメッセージを送り、セミナーを締めくくった。



3

第12回 JOCスポーツと環境担当者会議 開催報告

Report of the 12th IOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣 旨：スポーツにおける持続可能性への理解を深めると共に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）に向けた関係者・関係団体との地球環境保全への連携、実践活動の推進を図るために標記会議を開催する。
2. 主 催：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）
3. 後 援：文部科学省
4. 日 時：平成 28 年 2 月 22 日（月）13：00～15：00
※「総務委員会フォーラム」のプログラムで実施をした。
5. 場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター 1 階研修室 2～4
6. 出席者：本会役員、本会スポーツ環境専門部会員、本会加盟競技団体環境担当者他 91 名
7. プログラム：
 - 13：00 開会挨拶 野端啓夫 JOC 理事／JOC スポーツ環境専門部会部会長
 - 13：05 問題提起『スポーツと環境』IOC の現状報告等
田中丈夫 IOC 持続可能性とレガシー委員会 委員
JOC スポーツ環境専門部会 部会員
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 持続可能性部長
 - 13：25 グループディスカッション：「2020 年に向けた環境保全活動について」
コーディネーター：野端啓夫 JOC 理事／JOC スポーツ環境専門部会部会長
 - 15：00 閉会

■会議概要

日本オリンピック委員会（JOC）は 2 月 22 日、「JOC スポーツと環境担当者会議」「JOC 女性スポーツフォーラム」「JOC アントラージュフォーラム」の 3 つを合同した「平成 27 年度総務委員会フォーラム」を味の素ナショナルトレーニングセンターで開催。JOC、加盟競技団体（NF）の役員らが参加した。

午後から行われた「スポーツと環境担当者会議」では、はじめに、野端啓夫 JOC 理事／スポーツ環境専門部会長があいさつに立ち、「JOC スポーツ環境専門部会では、2020 年の東京大会のレガシーとして、スポーツを通じた環境保全の大切さを残すために、2020 年に向けて日本のスポーツ関係者やアスリートに、より一層の環境保全の意

識啓発を進めたいと考えております。今回の担当者会議ではまず、スポーツと環境をとりまく現状を知っていただいた上で、環境保全の意識啓発のための取り組みについて、忌憚の無い意見を聞かせていただきたい」と述べた。

会議の前半は、IOC 持続可能性とレガシー委員会の委員でもある JOC スポーツ環境専門部会の田中丈夫部会員から、「『スポーツと環境』IOC の現状報告等」が発表された。プレゼンの冒頭では、持続可能性とは、将来世代のことを考えて環境や社会、経済のバランスを考慮した行動を選択することであるという説明があり、続いて IOC の取り組み、そして東京 2020 大会における持続可能性に配慮した運営計画などが発表された。

後半は、9 グループに分かれて事前に用意され



た「指導者を通じたアスリートへの啓発」「スポーツと環境に関するNFでの目標設定」「環境啓発ポスターの大会プログラムへの掲載」「スポーツと環境に関するアスリートメッセージ映像の作成」「NFと連携した、スポーツと環境啓発イベントの開催」の5つのテーマについて議論が行われた。「スポーツと環境に関するアスリートメッセージ映像の作成」を選択したグループからは、SNS等が発達している状況から映像による情報発信の重要性が挙げられ、NFとJOCが連携した映像の制作を訴えた。また、「NFと連携した、スポー

ツと環境啓発イベントの開催」を選択したグループからは、ゴミ拾いなどのイベントが提案され、そういったイベントを個々のNFだけではなく、地域別にNFやNPOの団体と一緒に取り組むことでさらに可能性が広がる、といった意見が出された。

最後に野端部会長が閉会あいさつを行い、「本日のグループディスカッションで出た意見を参考に、2020年に向けた取り組みを検討していきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いしたい。」と呼びかけた。

■出席者一覧

所属先	出席者名
(公財) 日本オリンピック委員会	松丸喜一郎
	大塚真一郎
	小風明
	高橋尚子
	竹内浩
	野端啓夫
	藤原庸介
	村津敬介
	川原貴
	沖美穂
	高橋和子
	高峰修
	大津克哉
	鎌賀秀夫
	齋藤由紀
	迫田義人
	田中丈夫
	玉利聡一
	永井真美
	宮沢賢一
山崎秀樹	
(公財) 日本陸上競技連盟	鈴木英穂
(公財) 日本水泳連盟	丸笹公一郎
(公財) 日本テニス協会	鷺見全弘
	飯田藍
(公社) 日本ボート協会	武正八重子
	苅谷裕子
(公社) 日本ボート協会	加藤直美
(公社) 日本ボート協会	佐々木峰世
(公社) 日本ホッケー協会	織井隆司
(公財) 日本体操協会	森田弘文
(公財) 日本スケート連盟	本間康彦
	森村直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	中村慎
(公財) 日本ハンドボール協会	津川昭
(公財) 日本卓球協会	羽生綾子
(公財) 全日本軟式野球連盟	吉岡大輔
(公社) 日本馬術連盟	佐藤信博
(公社) 日本フェンシング協会	江村宏二
	中田玲子
(公財) 日本ソフトボール協会	久下知宏
	青木敬祐
(公財) 日本バドミントン協会	能登則男
(公財) 全日本弓道連盟	浅見卓
(公社) 日本ライフル射撃協会	岸高清
(一財) 全日本剣道連盟	岩坂守

所属先	出席者名
(公社) 日本近代五種協会	横田麻里子
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	高野敬一郎
(公社) 日本山岳協会	松隈豊
(公社) 日本カヌー連盟	中野忍
(公社) 全日本アーチェリー連盟	宮崎利帳
	溝井利和
(公財) 全日本空手道連盟	石田航
(公社) 全日本銃剣道連盟	鈴木健
(一社) 日本クレイ射撃協会	大江直之
(公財) 全日本なぎなた連盟	畠瀬美佐子
(公財) 全日本ボウリング協会	宮内久美子
(一財) 全日本野球協会	柴田穰
(特非) 日本スポーツ芸術協会	相原茂明
(公社) 日本武術太極拳連盟	渡辺敏雄
(公社) 日本カーリング協会	長谷川庄一
(公社) 日本トライアスロン連合	元島直子
(公社) 日本スカッシュ協会	神谷典子
(公社) 日本ビリヤード協会	西尾学
(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟	岩崎靖
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	岸尾政弘
(一社) 日本カバディ協会	河合陽児
(一社) 日本セバタクロール協会	野田由
(特非) 日本クリケット協会	窪田真
(公社) 日本チアリーディング協会	北野綾子
(公社) 日本パワーリフティング協会	物江毅
	戸松篤
(公社) 日本ベタンク・プール連盟	滝澤隆
	入澤隆
(一社) 日本フライングディスク協会	齋藤勇太
	弓田恵里香
(一社) 日本サーフィン連盟	酒井厚志
	日比野哲郎
(公財) 日本オリンピック委員会事務局	萩原直樹
	永島真由美
	山崎貴子
	鈴木美穂
	阿部幹雄
	黒川仁美
	木村岳史
	須川智弘
	尾畑雄志
	森田紗穂子
	中森康弘
	安由利子
	中川敬介



4

スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1) 各競技団体の活動

(公財) 日本陸上競技連盟……………	60	(公財) 全日本弓道連盟……………	87
(公財) 日本水泳連盟……………	61	(公社) 日本ライフル射撃協会……………	88
(公財) 日本サッカー協会……………	62	(一財) 全日本剣道連盟……………	89
(公財) 全日本スキー連盟……………	64	(公社) 日本近代五種協会……………	89
(公財) 日本テニス協会……………	65	(公財) 日本ラグビーフットボール協会…	90
(公社) 日本ボート協会……………	66	(公社) 日本山岳協会……………	91
(公社) 日本ホッケー協会……………	67	(公社) 日本カヌー連盟……………	92
(公財) 日本バレーボール協会……………	68	(公財) 全日本空手道連盟……………	93
(公財) 日本体操協会……………	69	(公社) 全日本銃剣道連盟……………	94
(公財) 日本バスケットボール協会……………	70	(公財) 全日本ボウリング協会……………	94
(公財) 日本スケート連盟……………	71	(一財) 全日本野球協会……………	95
(公財) 日本アイスホッケー連盟……………	72	(公社) 日本カーリング協会……………	96
(公財) 日本レスリング協会……………	73	(公社) 日本トライアスロン連合……………	98
(公財) 日本セーリング連盟……………	74	(公財) 日本ゴルフ協会……………	99
(公社) 日本ウエイトリフティング協会…	75	(公社) 日本スカッシュ協会……………	99
(公財) 日本ハンドボール協会……………	76	(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟…	100
(公財) 日本自転車競技連盟……………	77	(一社) 全日本テコンドー協会……………	101
(公財) 日本ソフトテニス連盟……………	78	(公社) 日本ダンススポーツ連盟……………	102
(公財) 日本卓球協会……………	79	(一社) 日本バイアスロン連盟……………	103
(公財) 全日本軟式野球連盟……………	80	(一社) 日本カバディ協会……………	104
(公財) 日本相撲連盟……………	81	(一社) 日本セパタクロー協会……………	105
(公社) 日本馬術連盟……………	82	(特非) 日本クリケット協会……………	105
(公社) 日本フェンシング協会……………	83	(公社) 日本チアリーディング協会……………	106
(公財) 全日本柔道連盟……………	84	(公社) 日本パワーリフティング協会…	107
(公財) 日本ソフトボール協会……………	85	(一社) 日本フライングディスク協会…	108
(公財) 日本バドミントン協会……………	86	(一社) 日本サーフィン連盟……………	109

(2) JOC スポーツ環境専門部会 部会員の活動

西山雄二 部会員……………	110
松岡修造 部会員……………	112
宮下純一 部会員……………	113

※(公財)＝公益財団法人、(公社)＝公益社団法人、(一財)＝一般財団法人、(一社)＝一般社団法人、(特非)＝特定非営利活動法人



(1) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(公財) 日本陸上競技連盟

1. 実施概要

日本陸連が取り組む環境活動として、事務局員・大会関係者・選手が環境マネジメントシステムを当たり前のよう実施する意識づけと活動を積極的に行い、今後も大会でのPRや合宿・普及活動の中でも発信していく。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会表彰時・普及活動での集合時に環境啓発バナーの掲示
- 大会及び事務局内でのポスター掲示
- 大会時競技場内のクリーン化
- 大会誘導車両のハイブリッドカー使用
- タブレットを使用した大会時のペーパーレス化
- Google アカウントによるペーパーレス化の推進
- 事務局内のゴミ分別の徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会表彰時・普及活動での集合時に環境啓発バナーの掲示

本連盟主催大会である第 46 回ジュニアオリンピックを日産スタジアムで開催し、その際、表彰時に選手に環境啓発バナーを持ってもらい、観客にアピールをして写真撮影を行った。

②大会及び事務局内でのポスター掲示

本連盟主催大会で環境啓発ポスターを掲示し、大会関係者・選手を中心に環境活動の重要性を意識づけできるようにした。また、事務局内の打ち合わせスペース・会議室にも本連盟にお越しいただく関係者・企業の方々にポスターが目にとまるよう掲示している。

③大会時競技場内のクリーン化

大会時コンコース内の見回りを行って競技場内での場所確保や整理がなされているか確認を行い、環境面を含め違反している場合は注意をしてルールを守るように促した。

④大会誘導車両のハイブリッドカー使用

マラソン大会を中心に大会の誘導車や選手収容車についてハイブリッド車を導入しており、環境に配慮したモデルを採用している。

⑤タブレットを使用した大会時のペーパーレス化

大会時に選手のエントリー情報やリザルト、ラウンドの組み分けや試技順など、タブレットを使用して大会関係者に情報が配信できるように設定し、ペーパーレス化を実施している。

⑥ Google アカウントによるペーパーレス化の推進

事務局内のインフラ整備を行い、事務局員はもちろん本連盟理事や加盟団体に対し、今まで会議出席や加盟団体からの情報収集について紙ベース及び FAX で行っていたが、本連盟専用の Google アカウントを取得し、Google フォームで会議の出欠確認や各種情報提供収集、及びメールも最大限



使用しながら WEB 化を実施して郵送や資料のペーパーレス化を図った。

⑦事務局内のゴミ分別の徹底

事務局内のゴミについて、資源ごみと燃える・燃えない・ビン/カン/ペットボトルに分け、ペットボトルはラベルを剥がしキャップも外して分別をするようにしている。

4. 全体的な成果と今後の課題

今後、大会・イベントや事務局内でも IT 化を推進し、運営時に発生する消耗品の使用を抑え、より環境に配慮したインフラ整備を積極的に考えていきたい。また、ハード面においても環境に配慮したモデルや機種を選択し、運営面で環境に配慮していることを環境バナーやポスター等と併せて広報しながら、参加者や競技者、メディア等も利用しながら観戦者や一般の方々にもアピールしていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 風間明

大気汚染や温暖化によるスポーツ活動の影響は大きく、光化学スモッグや豪雨や台風等による被害は近年、より深刻化しており、継続的に練習や試合を行うことが危ぶまれている。

個々人による環境に対する対応が、今後のスポーツ活動につながることを意識しながら、教育啓蒙活動を続け、将来のスポーツ界の発展に寄与していきたい。

(公財) 日本水泳連盟

1. 実施概要

『水』を介したスポーツ競技団体として、地球を取り巻く環境整備を常に心がけるよう、持続可能で身近な小さな活動を心がけ、また水泳 4 団体と共催事業を実施するなどして、次世代を中心にした啓発活動の更なる拡大・促進に努め、連携の輪を広げる。

2. 平成 27 年度事業活動

- 「水泳の日」(2015 年 8 月 14 日) 総合イベント内にブースを設置、展示と場内での参加型啓発イベント(スタンプラリー)企画、および、エココンテスト作品の普及活動への積極的利用(ポスター、Tシャツ他)
- ペーパーレス・マイボトル推進運動
- 競技会等における継続的環境活動
 - 1) 大会監督者会議での活動告知、環境啓発ページのプログラム掲載 等
 - 2) 場内での来場者への、啓発ポスター・バナー掲示、チラシ配布、ゴミ分別等

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①「水泳の日」総合イベント内展示および啓発スタンプラリー

水泳 4 団体共催で「水泳の日」総合イベントを辰巳国際水泳場にて開催。そのイベント内でブースを設け委員会活動内容を掲示、同時に場内をエリアとした水泳独自の標語を使用したスタンプラ



ラーを開催。来場者約 1000 名中、約 800 名参加のうち約 500 名がゴール。標語を唱えながらラリーに参加する小学生から大人まで楽しめるイベントとなった。

②『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化

インターネットを利用した即時結果配信システムの充実進化により、更なる紙による情報配信の最小化と削減。大会会場でのウォーターサーバーの設置とマイボトル推進。

③競技会等における環境活動

監督者会議でのレクチャー、各大会終了時にバナーとともに役員集合写真を撮影。休憩時間を利用した場内ビジョンシステムでのアピールメッセージ露出。また、ゴミの削減を前提とし、例年通りの所轄自治体ルールに則した分別と、持ち帰りを奨励、実施した。そのほか、月刊機関紙『水泳』へのポスターページ掲載。

4. 全体的な成果と今後の課題

スタンプラリーは水泳 4 団体で活動する初年度、初めてのチャレンジとして「水泳の日」＝全国規模で多くの愛好者が参加したイベントであったが、来年度に向けて来場を予想される水泳ファン層へ直接アピールする参加イベント企画を更に発展させたい。2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け、直接「水」を利用する種目である事から、より積極的に持続可能で身近な事から積み上げ、同時に将来のトップスイマーたちにもアピールしていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 齋藤由紀

スポーツ環境委員会が連盟内に発足して 11 年を機に、『水泳の日』内での新イベントを企画したが、基本的活動内容とその理念は、小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスがかなり浸透したことを受け、初めての一般観客参加型企画として成功、環境活動を膨らませ持続可能な活動の輪を、特に若年層を含めた水泳愛好者にも広げる事を目指すものとなった。また今後、より積極的にトップ選手にも協力を仰ぎ、発信力のあるプログラムも企画・具体化したい。

(公財) 日本サッカー協会

1. 実施概要

JFA の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境 3 原則（2009 年 7 月に署名）、そして、環境省「チャレンジ 25 キャンペーン」（2010 年 1 月に登録）に基づき活動を継続。

2. 平成 27 年度事業活動

- 主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- JFA グリーンプロジェクトの推進
- 旧環境プロジェクトを通じた各種啓発活動の推進
- アジアサッカー連盟の社会貢献活動における国内活動の推進
- オフィス（JFA ハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）



3. 具体的な活動実施内容とその成果

① JFA 事務局内での代表的な活動

継続してペーパーレスを推進、理事会、常務理事会、事務局内管理職会議における削減枚数は A サイズにて約 8 万枚に留まった。CO2 削減量としては、109kg 程である。その他、指導者講習会、登録業務関連説明会、事務局職員会議など、ペーパーレス文化は定着しつつあるが、一方、全体の活動量が増加傾向であり、総使用枚数は 285 万枚から 315 万枚へと増量している。

② JFA グリーンプロジェクト

引き続き、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。

③ その他社会貢献、環境活動に関する活動

JFA 組織改革活動の一環として、2016 年度から社会貢献活動委員会として専門組織を再編することとなった。また、アジアサッカー連盟の社会貢献活動（栄養改善キャンペーン）に協力、一部の活動では直接子どもたちに食料廃棄や食べ残しの問題を啓発し、環境負荷削減につながる講義も実施した。

④ 地域/Jリーグ

大宮アルディージャ	ホームゲームやイベント開催時にクラブオリジナルのゴミ袋を使用。このゴミ袋は、焼却時に発生する CO2 を従来一般的なゴミ袋より約 60%削減する地球に優しいもの。
ヴィッセル神戸	毎年 6 月下旬の海開きの間近に「須磨海岸クリーン作戦」を実施。市民ボランティアに加え、モーヴィやサポーターも参加。
ヴァンフォーレ甲府	9 月 19 日開催のホームゲームでは、グリーン電力購入によるカーボンオフセットとソーラーパネルで電力を供給する太陽光発電ステージを実施。
横浜 FC	基本方針に即し、清掃活動等に加え、手作り石鹸教室や古本回収など独自活動も推進している。また、それぞれ、太陽油脂(株)、武松商事(株)といった企業パートナーを迎え、サステナブルな活動としている。
レノファ山口	11 月 14 日のホーム最終ゲームでは、宇部高校 SGH コース 2 年生の提案を受け、ゴミの分別等 3R ステーションを設置、調査や啓発活動を実施。スタッフに加え、塚本泰史クラブアンバサダーも参加（310 名）。
ギラヴァンツ北九州	6 月と 10 月に「曽根干潟クリーン作戦」を実施。越冬のため飛来するズグロカモメ（絶滅危惧Ⅱ類）やカブトガニなどの多種多様な生物が生息する貴重な自然保護にギランも協力。
栃木 SC	以前にご紹介した「足尾緑化事業」に加え、引き続き、開幕前の恒例行事としてのグリーンスタジアム周辺清掃活動、ホームゲーム清掃活動を継続。

4. 全体的な成果と今後の課題

● JFA

継続してペーパーレス化を推進しているが、事業数の増加に対応が追いついていない課題もみられる。各種競技会等での活動はごみ分別、持ち帰り等、最低限の活動にとどまる。

● Jリーグ

各クラブの取組が継続的に続いている。一部クラブについては活動定着に合わせ、参加者の増加等取組が根付いていることが成果として出ている。



5. JOC スポーツ環境専門部会員 玉利聡一

JFA、Jリーグ等全国的に継続して活動を継続している。JFA では、ワークフローシステムの導入を進め、一部の申請・決裁業務についてさらにペーパーレス対応を進めることができた。まだ紙利用の多い職場であるため、今後も本取組を推進したい。また、全体を俯瞰し、環境活動が根づいた反面、停滞化しているとの声、相談もいただいているため、今後着手したいと考える。

(公財) 全日本スキー連盟

1. 実施概要

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し 11 年目を迎えている。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「スキー選手」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

2. 平成 27 年度事業活動

- Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動
- 「I LOVE SNOW」 One's Hands キッズフェスタ 2016

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

Fun to Share 宣言『スノースポーツを通して自然の大切さを伝えることで、低炭素社会へ。』を行い、環境保全に対する啓発活動を行った。

② 「I LOVE SNOW」 One's Hands キッズフェスタ 2016 の開催

神奈川県川崎市にある屋内スキー場 スノーヴァ溝の口にて、近隣在住の子供たちを対象とした雪上イベントである「I LOVE SNOW」 One's Hands キッズ・スノーファンフェスタ 2016 を開催した。今シーズンは雪不足のため、例年の様な屋外スキー場でのイベント開催ができなかったが、逆にこの状況を参加した子供たちに伝えることで、地球温暖化防止の啓発活動ができました。参加した子供たちがイベントを通してスキーや雪遊びを楽しむことで、スノースポーツの楽しさや雪（自然環境）の大切さを実感してもらう機会を提供した。

〈成果〉

上記の活動により、雪（自然環境）を守ることの大切さ、日常的に意識することが環境保全につながることを発信できた。

4. 全体的な成果と今後の課題

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し 11 年目を迎え、本キャンペーンの主旨や活動が定着し、継続の重要性を感じている。今後は、この状況をベースにし、更なる啓発活動にステップアップを行いたい。



5. JOC スポーツ環境専門部会員 宮沢 賢一

昨年度は、噴火災害が発生し、噴火地域にあるスキー場で開催を予定していたスキー競技会を中止せざるを得なかった。今年度は、近年稀にみる雪不足に見舞われた。ここ数年、スノースポーツは、大変厳しい環境にさらされているが、この様な時こそ世界に向けて環境保全のアピールが有効だと考えられる。冬季スポーツ競技団体として、今後も、今まで以上に「雪」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信し、自らも継続して活動を行っていきたいと考えている。

(公財) 日本テニス協会

1. 実施概要

本協会では、テニス界における環境保全、啓発、実践活動の3つの柱を掲げている。そのツールとして、週刊少年マガジンに連載中のテニス漫画『Baby Steps』に登場する主人公をモデルにした広報用のポスターを活用し、「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに日々の生活の中でも環境意識を持ってもらえるよう活動に取り組んでいる。

2. 平成27年度事業活動

- 「JTA 環境保全基本方針」を策定（新規）
- 日本テニス協会主催大会をはじめ、カンファレンス、大会等で環境バナーを掲示
- テニス界における環境保全と整備を目的とした活動（3R 推進）
- 子どものマナーアップにつながる継続的なキャンペーンとして「ごみゼロ運動」を実施
- 日本で行われる国際大会での啓発活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① 「テニスの日」イベントでの啓発活動

毎年9月23日に全国で展開されているテニス普及イベントにおいて、「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに啓発活動を実施した。

② テニス指導者、選手、観客の方々への環境啓発活動

日本テニス協会主催大会をはじめ、カンファレンス等で環境ポスターを掲示して啓発活動を行った。

③ グローバル・スポーツ・アライアンス（GSA）との協同事業

「テニスの日」有明メイン会場では、中古テニスボールの回収（3,000個）と不要になったラケットの回収（60本）を行った。テニスボールのリユース活動として、使い古したボールを全国の学校機関に提供している。ボールは、教室内の騒音対策として机やイスの脚の先に取り付けられ、子どもたちの教育環境づくりに役立つだけでなく、大量に廃棄していたごみの削減にもつながっている。また、ラケットは、GSAと国連環境計画（UNEP）によるサポートのもとケニア・ナイロビで毎年開催されている貧困地域の子どもたちを対象とした環境教育プログラム『GSA ドリームキャンプ（Nature & Sport Training Camps）』で活用するために会場となる現地スポーツクラブに寄贈された。* GSA ホームページ：<http://www.gsa.or.jp>



4. 全体的な成果と今後の課題

地域・都道府県テニス協会には環境担当者がおり、各地で様々な取り組みの実践がなされている。例えば大会会場では、松岡修造氏の環境啓発ポスターや Baby Steps のポスターを掲示して環境意識の向上を図っている。さらに、大会の募集要項やパンフレットにもこれらのポスターを活用している。

今後も日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会などで環境バナーやスポーツと環境のシンボル旗「エコフラッグ」、環境ポスターを掲出し、環境保全調査及び啓発・実践活動に取り組んでいく。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 大津克哉

今年度、日本テニス協会（JTA）では、これまでの教育・啓発活動を中心とした環境保全の取り組みを見直し、具体的な成果に通じる活動のための基本方針をまとめ採択した。テニス界は、生涯スポーツ、競技スポーツそして観るスポーツという3つの異なった形態で環境問題とのかかわりを持っている。環境への取り組みは、生涯スポーツあるいはレクリエーションスポーツとしてテニスをするテニス愛好者、競技スポーツとしてテニスの競技会に出場する選手あるいは大会運営に携わる大会主催者、そして競技会を観戦する観客として、更にはテニスの強化や普及に従事しているテニス協会関係者や指導者として、さらにテニスクラブやテニススクールを運営するテニス事業者がかかわる問題であり、それぞれが異なった立場や違った形で環境保全に取り組むことが求められている。各々がまず「努力目標」を設定し、私たちテニスを愛するものとして環境保全の大切さを理解し、エネルギー・資源の節約やゴミの分別など、できることから実行することを促していく。

JTA 環境保全基本方針について：

<https://www.jta-tennis.or.jp/information/tabid/498/Default.aspx>

（公社）日本ボート協会

1. 実施概要

ボート競技は例外なく自然の中で行われる競技であり、自然環境の悪化は競技環境の悪化に直結する。また、地球温暖化が原因と言われる「ゲリラ豪雨」など急激な天候悪化の発生はボート競技のインフラを破壊し、選手の安全を損なう可能性がある「大きな脅威」であると言える。

そのためボート関係者は他競技以上に「環境活動」の重要性を認識する必要がある、当協会としてはその点をアピールしながら活動を行ってゆくこととしている。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会時、会議開催時での環境ポスターの掲示
- 大会プログラムへの環境啓発 PR の掲載
- 競技会場におけるゴミ分別収集などの環境活動実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①ポスター等による PR、啓発活動



- ・本会主催大会にて環境啓発ポスターを掲示するなど、啓発活動を行った。
- ・大会プログラムへの環境啓発ポスターを掲載した。

②講習会における啓発活動

- ・全国セーフティアドバイザー講習会席上において、環境について言及し、啓発活動を行った（埼玉県戸田市、愛媛県今治市で開催）。

4. 全体的な成果と今後の課題

上記1. 記載の「ボート競技における環境活動の重要性」についての認識は高まってきている。現在は、各地のボート関係者の自主性に任せた活動を行ってきたが、アンケートに記載したような「具体的なテーマを設定した全国統一の取り組み」を行っていきたいと考える。

(公社) 日本ホッケー協会

1. 実施概要

当協会は環境保全活動の重要性について広報活動を行うとともに、当協会自らも主催大会において実践した。また各都道府県協会および各連盟との連携を図り啓発・実践活動を行うように努めてきた。今後も全国のホッケープレーヤー及び関係者に広めることを目標にさらなる広報・啓発・実践活動に取り組んでいく。

2. 平成27年度事業活動

- 大会開催時の環境保全啓発ポスター、横断幕（バナー）の掲示
- 競技会会場等における環境保全活動の実施
- 研修会開催時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示
当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。
- ②競技会等における環境保全活動
当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。
- ③研修会時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示
当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が実り、選手・開催地等の関係者に環境保全活動の重要性が徐々に理解されてきた。今後はさらにスポーツと環境保全のかかわりを理解していただき、一人一人が実践活動を自主的に行えるように促していきたい。



(公財) 日本バレーボール協会

1. 実施概要

本協会では、バレーボールを介して環境保全や意識の啓発を推進するべく、従来から実施してきた大会会場での啓発活動やゴミの分別回収等を継続するとともに、本協会独自の取り組みとして「バレーボールバンク」事業を展開してきた。

今後も、加盟団体やバレーボーラー、バレーボールファンの皆様と積極的に連携し、環境活動に取り組みたい。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会における環境啓発活動
- 大会におけるゴミの分別
- 大会におけるエコキャップの回収及び関係先への寄付
- 事務局における取り組み
- バレーボールバンク事業

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会における環境啓発活動

- ・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出
- ・大会プログラムにおける環境啓発
- ・春高バレーにおける、環境啓発のアナウンス実施

②大会におけるゴミの分別

- ・すべての大会会場においてゴミ分別を実施
- ・トライアルとして幾つかの大会においてエコキャップの分別回収を実施

③事務局における取り組み

- ・メール、プロジェクターの活用によるペーパーレス化の推進
- ・クールビズ、ウォームビズの実施
- ・事務所内に環境啓発ポスターを掲示

④バレーボールバンク事業

バレーボールバンク事業は、廃棄せざるを得なくなったボールの回収・再利用を主な目的とした、本協会独自の社会貢献プロジェクトであり、2010年の開始より6年が経過した。国内の学校やクラブ、個人のバレーボーラー及び本協会が使用したボールの回収総数は、平成27年度においては7,990球となり、国際貢献・国際交流を目的に海外のNF、国際協力機構（JICA）、スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局（SFTC）やSFTC会員のNPO団体を通じて20カ国を超える国々に寄贈された。

その他にも、ネット、ボール籠、ユニフォーム、シューズなど多くのご協力をいただいた。

4. 全体的な成果と今後の課題



バレーボールバンク事業を今後とも継続可能な事業とするために、事業運営費用の見直しを進めている。2016年1月には委託費用の軽減を目的として、保管倉庫の整理・縮小を行った。今後は、管理費用及び国内輸送費についても見直しを実施したい。

さらに、諸外国への輸送費用については、現状では受取国の負担となっているが、これらを軽減する手段として助成金の活用や本事業の活動主旨に賛同いただける企業並びに団体を募る等の取組みを検討したい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 迫田義人

平成28年度より全国小学生バレーボール大会を通じて、指導者と子供達に向けた環境啓発活動を進めるとともに、ビーチバレーボールでは、「来たときよりもキレイに」の合言葉を確実に実現できる大会の開催を目指したい。

バレーボールバンク事業も益々拡大するよう広報活動に重点を置き、国内各地で開催されるバレーボール大会において、使用済ボール・用具等の回収協力を呼びかけ、この活動を世界へとつなげて行きたい。

(公財) 日本体操協会

1. 実施概要

日本体操協会では、これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施していく。選手を活用した啓発活動を展開する。

2. 平成27年度事業活動

- 環境啓発横断幕（バナー）の設置
- 炭酸マグネシウム対策
- ゴミ分別回収

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①環境啓発横断幕の設置

これまで同様に、国内で実施されてきた競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。この活動は、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業における横断幕設置として慣例化されている。

②炭酸マグネシウム対策

炭酸マグネシウム対策は、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を継続実施している。

③ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを会場に設置し、継続的な分別意識を啓発した。

④常務理事会でのペーパーレス化

常務理事会において、会議資料のペーパーレス化を図り紙資源の節約に努めた。



⑤強化選手への啓発活動協力要請

内村航平選手、白井健三選手の協力を得て、環境啓発活動参加の呼びかけ実施。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発横断幕設置や会議におけるペーパーレスの慣例化については、継続性が重要な本活動にとって意義あることである。今回は現役選手による活動展開の一步を踏み出した。ただし、まだまだ場当たりの取り組みであり、体制について継続して審議していく必要がある。

(公財) 日本バスケットボール協会

1. 実施概要

本協会では、【次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！】をスローガンに、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないことを自覚し、バスケットボールファミリーが共有出来るような環境関連のメッセージ発信を使命と考え、積極的に取り組んでいる。

2. 平成 27 年度事業活動

- 『環境啓発ポスター』及び『環境 PR 横断幕 (バナー)』の掲示
- 『環境取組みメッセージ』広告の掲載
- 大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
- 協会内部における環境活動強化

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①『環境啓発ポスター』及び『環境 PR 横断幕』の掲示
 - ・各年代別、カテゴリー別の大会及び、タレント発掘合宿、日本代表強化合宿で徹底。
- ②『環境取組みメッセージ』広告の掲載
 - ・日本協会主催大会公式プログラムに、環境ページを掲載し拡く訴求。
(第 91 回天皇杯・第 82 回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会)
- ③大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
 - ・子供にも解るようなゴミ分別及び、大会スタッフの巡回によるゴミ回収を実施。
- ④協会内部における環境活動強化
 - ・クールビズ (夏季期間)、ウォームビズ (冬季期間) の実施。
 - ・会議資料の電子化及び、不要電気削減徹底…事務所移転を機にさらに強化。

4. 全体的な成果と今後の課題

平成 27 年度は、例年通り実施している環境活動の取組み (横断幕、ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告) を重点的に実施した。平成 28 年度は事務所移転により電気量の抑制、グループ集合効果の検討等を行う。又、選手・バスケットボールファンが常に自然に環境を意識できるような取り組みを考案し実践していきたい。



(公財) 日本スケート連盟

1. 啓発対象競技会

【フィギュア】

国内競技会	全日本ノービス選手権	27年10月	ポスター
	全日本ジュニア選手権	27年11月	ポスター バナー
	全日本選手権	27年12月	ポスター バナー
	全日本シンクロ選手権	28年2月	バナー
国際競技会	グランプリ NHK トロフィー	27年11月	ポスター バナー

【スピード】

国内競技会	全日本選手権	27年12月	ポスター バナー
	全日本スプリント選手権	27年12月	ポスター バナー

【ショート】

国内競技会	全日本選手権	28年1月	ポスター バナー
国際競技会	ワールドカップ名古屋大会	27年12月	ポスター バナー

2. フィギュア審判セミナー

テクニカルオフィシャルセミナー	27年8月	邦和セミナープラザ	ポスター
東審判員セミナー	27年9月	フォーラムエイト	ポスター
西審判員セミナー	27年9月	大阪府立体育館	ポスター

3. フィギュア新人発掘合宿

野辺山 27年7月 ポスター
A・Bコース開校式でスポーツと環境とのかかわりについて（ゴミの分別他）
レクチャー

4. 実践活動

- 東・西セミナー スポーツと環境保全セッションにて啓発スピーチ 349名参加
- 競技会におけるゴミ分別の徹底
- ペーパーレスの推進
 - ・テクニカルオフィシャルセミナーテキスト廃止 デジタルデータでネット配信し受講者各自が必要な部分をダウンロードする方式をとり紙の使用量を削減 120名参加
 - ・競技会結果等をHP掲載閲覧に振り替え記録紙の使用量削減
 - ・競技会により公式練習TO用予定要素表を削減
- シールタンブラーを推奨し紙コップ・ペットボトルの使用削減に努めた



(公財) 日本アイスホッケー連盟

1. 実施概要

日本アイスホッケー連盟では、「この星にスポーツを」をスローガンに、主催大会開催期間中のバナー掲示やポスター掲示等を通じて、大会参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。

また、地方大会においても、加盟団体並びに競技施設を管理する行政機関や事業者と連携しながら、バナー掲示やポスター掲示等を通じて環境保全活動普及啓発に努めるとともに、ゴミの分別回収等の周知徹底を図った。

2. 平成 27 年度事業活動

- 本連盟主催大会における啓発ポスターやバナー掲示による普及啓発
- 加盟団体を通じた地方大会での環境保全活動の展開
- 印刷用紙の使用量の削減

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①本連盟主催大会における啓発ポスターやバナー掲示による普及啓発

本連盟主催大会において、「この星にスポーツを」のバナーや環境啓発ポスターの掲示を行うとともに、出場記念写真の撮影の際にそれらを全員で掲げることにより、大会参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。

②加盟団体を通じた地方大会での環境保全活動の展開

地方連盟の主催大会においても、「この星にスポーツを」のバナーやポスターを活用して、環境保全活動の普及啓発に努めた。また、ゴミの分別活動やゴミ持ち帰り活動の展開を図った。

③印刷用紙等の使用量の削減

加盟団体や役員等への通知文は、原則として、すべて電子ファイルにしている。

また、会議資料の作成に当たっては、内容の簡素化や集約化に努めるとともに、両面印刷の徹底を図ることにより、印刷用紙等の使用量の削減に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターやバナーを活用した環境保全啓発活動や印刷用紙等の使用量削減の取り組みでは一定の成果が上がっている。

今後は、ゴミの分別・持ち帰り運動の徹底に加え、植樹・緑化活動や河川の環境保全活動など、より能動的な活動に取り組んでいきたい。また、数値目標を設定するほか、それを本連盟ホームページに掲載するなどして、環境保全活動の「見える化」を進めていきたい。



(公財) 日本レスリング協会

平成 27 年度の取り組みは、前年同様に大会時における啓発活動が中心であった。その他、指導者講習会のカリキュラムの一つに環境問題を取り入れ、受講者の皆さんに、自身の実践活動について発表してもらう時間をとった。

日本レスリング協会環境委員会が設立され 10 年を迎えた。設立当初は他の競技団体の模倣活動が中心で、この報告書が随分役に立った。具体的には協会独自にエコバックを作成し参加賞として配布、子供たちに理解してもらえよう大会プログラムに 3R のエコに関する漫画を掲載、会場内の環境パネルとポスターの掲示、世界女子選手権では協会の環境活動の写真展示コーナーを設けるなど、啓発活動を行ってきた。

ここ数年は「来たときよりキレイに」を合言葉に、パネルとポスターの掲示、大会パンフレットへの掲載、館内放送による、選手、大会関係者、観客に対して環境保全を実践するように呼びかけ放送が基本的な活動となっている。‘継続は力’というが、そんな地道な活動が少しずつ思った方向へ進んでいる。大会会場のゴミの減量化も含め、10 年前と比較し、随分きれいな使い方をしてくれるようになってきた。宗教ではないが、環境活動を実践してくれるエコ信者を、いかに時間をかけて増やしていけるか、根気よく訴えかけていけることがポイントである。

いま、個人的に強く感じることもある。それは岸記念体育会館内のゴミの分別方法で、特に目につくのがペットボトルの処理方法である。ちゃんとラベルを剥がし、キャップを取った後処理がされたのもあれば、中に残ったものがそのままの状態であることがある。本来、啓発活動を推進していかなければならない館の人たちが、このような状態では誰が同じ方向性に歩んでくれるだろう。また、一番情けなかったのは、JOC 環境部会が時間をかけて作成した環境ポスターが使用されないまま箱ごと破棄されていたことである。

2019 年には新しい事務所に移転するが、ごみの分別方法も含め、この文章を読んだ方が少しでも何かを感じて活動していただければと、強く願う次第である。

温暖化の影響は海面上昇、風や水害の発生、干ばつなど、直接的、間接的に我々に猛威を振るう。温暖化対策は今後、ほぼ永続的に取り組むべきことで、自分たち一人ひとりが考えて行動していかなければならない。

緑の大地、青い空、澄んだ空気と清らかな水、今ある大切な自然を未来の子供たちに渡せるよう、自分ができることから活動できるよう取り組んでいこうと思う。

JOC スポーツ環境部専門部会員 鎌賀 秀夫



(公財) 日本セーリング連盟

1. 実施概要

海、湖で行うセーリング競技は直接環境からの影響が跳ね返ってくるスポーツであり、常に、また積極的に環境保全への取り組みを推進していく義務があると考えている。平成 27 年度も「残したいのはきれいな海」をスローガンに全国で環境保全活動を推進してきた。

2. 平成 27 年度事業活動

- 35 の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
- Used Sail の活用
- アイドリングストップステッカーの配布による環境保全啓発活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 全日本クラスの 35 大会について環境キャンペーンを実施、支援
 - ・ 環境フラッグ、横断幕（バナー）等の掲示により選手はもとより、大会運営関係者、観客も含め環境保全への意識の向上を促進
 - ・ レースの帆走指示書にレース中に海にゴミを捨てた場合のペナルティ、失格条項等を記載、厳しく対処
 - ・ 競技参加者、運営関係者、観覧者等延べ約 4700 名に広くキャンペーンを浸透
- ② Used Sail の活用
 - ・ 廃棄予定のヨットの帆からトリプルエコバッグを作るワークショップを国体で企画。和歌山国体において午前、午後 20 名の定員にて開催。毎回満員の盛況であった
 - ・ 環境啓蒙活動の一環として物を大切する意識の向上も図る
 - ・ 余った Used Sail で独自にトートバッグも作成し国体で販売
- ③ アイドリングストップステッカーの配布による環境保全啓蒙活動
 - ・ 大きな大会、イベント、講話等の機会を利用しステッカーを配布、CO2 削減のためアイドリングストップを呼びかけた
- ④ JOC 環境啓発ポスターの掲示
 - ・ 国体、インターハイ等大きな大会において JOC 環境啓発ポスターを掲示し、環境保全活動を推進した

4. 全体的な成果と今後の課題

環境キャンペーンも徐々に選手、及び運営関係者には浸透してきたが、より簡便で分かりやすいものにしていきたい。H28 年度は海のゴミに焦点をあてて、環境啓蒙活動を全国展開していきたいと思う。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 永井真美

セーリングというスポーツは海、湖にかかわらず自然環境の中で行うスポーツであり、環境そのも



のインパクトがダイレクトに競技に降りかかってくるものである。環境保全のためにできること、しなければならない事は数限りなくある。セーリング連盟は工夫を凝らし啓発活動に努め、選手、関係者も協力的であり、今までも様々な取り組みを行ってきた。しかしながら、例えば目で見える水質の向上等についてはボランティアレベルでは限界があり、行政等とも連携を図る必要もあり、今後2020東京オリンピックに向けて具体的な方策につき検討課題と考えている。

(公社) 日本ウエイトリフティング協会

1. 実施概要

日本ウエイトリフティング協会は、これまで継続してきた環境保全活動を引き続き実施していく。スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

2. 平成27年度事業活動

- 競技会での環境啓発活動
- 競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① 競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示

前年度より継続して、各競技会や催事等において環境意義啓発のポスター、バナーを会場内に設置した。

② 競技会等におけるペーパーレス化

全日本選手権大会や全日本ジュニア選手権大会においては大会要項を協会ホームページにアップし、ウェブからのダウンロードによる配信を行った。

大会リザルト等については、公式記録員から各都道府県事務局への配信を行い、ペーパーレス化に向けての実践を図っている。

③ 競技会等における環境活動

当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器についても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。金沢市で毎年開催される全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会においては、選手・役員の弁当に紙と経木でできた容器の使用を継続している。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生新人大会・全日本大学対抗選手権大会(2部)では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会などでは、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。



全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部へ2カ所の取り出し口のあるものを活用するとともに、滑りにくいプラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用することなく競技会を実施し、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナー掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今後も、会場地元等と協力のもと、環境保全の活動を実践するとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、さまざまな取り組みを展開していきたい。

(公財) 日本ハンドボール協会

1. 実施概要

全世界的な環境問題を改善していくためには、我々一人ひとりの自覚が不可欠である。そこで、スポーツ団体に取り組み可能な環境活動として、多くの方々が集まる大会等での啓発が効果的であると考え、会場へのバナー・ポスター掲示、プログラムへのポスター掲載等を行った。今後も、各都道府県協会、各連盟とも積極的に連携し、個人レベルから環境問題への意識が更に高まるように取り組みたい。

2. 平成 27 年度事業活動

- 全国大会開催時の会場に環境バナー、ポスターを掲示
- 大会プログラムへの環境ポスター掲載
- 「Fun to Share」宣言・推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会における環境啓発活動
 - ・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出し広報した
 - ・環境ポスターを大会プログラムに印刷するようにした
- ②Fun to Share の宣言・推進
 - ・「ハンドボールで、低炭素社会へ」と宣言
 - ・事務局で製作する名刺には Fun to Share のロゴを印刷した
- ③事務局におけるクリーン購入・エネルギー節約
 - ・事務用品の利用にあたり、エコ商品の購入に努めた
 - ・資料配付にあたりメール添付を多用し、ペーパーレス化に努めた
 - ・夏季はクールビズとした



4. 全体的な成果と今後の課題

環境バナー、ポスターの大会や集会会場への掲出により環境問題への啓発活動を行って来たが、必ずしも十分に意識浸透したとは言えない。これからは、より目立つ啓発活動を行うことが必要と考え、アスリート委員会と共同し、トップアスリートを介した啓発活動をしていきたい。

(公財) 日本自転車競技連盟

1. 実施概要

近年、自転車は有害物質を排出しない、健康的かつ環境にやさしい乗り物として注目を浴びる存在となっている。その自転車を利用したスポーツである自転車競技は、環境にやさしいスポーツとしての定着を目指し、競技と環境のかかわりを一層深めることをめざす。

2. 平成 27 年度事業活動

- 紙消費量の削減（インターネットによる大会申込の推進など）
- ボディナンバー用安全ピン配布の中止
- 環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①紙消費量の削減

大会申込を紙面の郵送によるものから、インターネット上に開設した特設サイトを利用。掲示やウェブアップの活用により紙面配布物を削減した。

②ボディナンバー用安全ピン配布の中止

主要大会において、ボディナンバーを止める安全ピンを選手持参とし、主催者による新たな配布を中止した。

③環境啓発ポスター、バナーの掲示

大会会場での環境啓発ポスター、バナー掲示による啓発活動を行った。

④ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底

レース中に摂取した補給飲食物の包装紙等をむやみに廃棄することが無いように、廃棄区間を設定、各チームによる回収の徹底をコミュニケにて告知するとともに、違反者にペナルティを課した。

4. 全体的な成果と今後の課題

前年度に引き続き、大会等イベント開催時における環境活動を重点的に行った。本年度についても次の 2 点については進展が見られた。

1 点目は安全ピンの選手持参がさらに徹底された点である。全日本選手権相当のトラックレースでは既に定着したと言えるが、ロードレースについても同様の措置で問題なく運営することができた。

2 点目は紙消費量の削減を引き続き進めた点である。大会要項や申込書についてはメールや HP からの発信に完全移行がなされていたが、申込についても印刷や郵送が必要な大会を減らし、インター



ネット上に新規開設したエントリーサイトによる手続きで、紙と事務作業を削減することができた。

本連盟の環境活動は基礎的な取り組みが中心となっているが、限られた予算や人員でできる活動を今後も進め、多くの参加者・観客に浸透していくよう引き続き継続していきたい。

(公財) 日本ソフトテニス連盟

1. 実施概要

公益財団法人としての高い社会的信用を維持し、公益目的事業を行うために、環境と教育に取り組んできた。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレーの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図った。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会時に環境宣言・フェアプレイ宣言の横断幕の掲示
- 競技会等における環境活動
- 日本ソフトテニス連盟機関誌、大会プログラムへの JOC 環境ポスターの掲載
- 環境保全に関する研修の実施および会議への参加
指導者研修会での環境・フェアプレイについての意見交換
- フェアプレイマナー BOOK の発行

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時に環境宣言・フェアプレイ宣言の横断幕の掲示
平成 27 年度には、下記の全国大会会場で「環境宣言『来たときよりも美しく!』フェアプレー宣言『ありがとう あなたの笑顔と そのマナー』」の横断幕および環境ポスターの掲示を行った。
- ②競技会等における環境活動
大会会場での資源ごみの持ち帰り及び分別推進、マイボトルを推進した。
- ③日本ソフトテニス連盟機関誌、大会プログラムへの JOC 環境ポスターの掲載
JOC のポスター「来たときよりもキレイに」を日本ソフトテニス連盟機関誌、大会プログラムに掲載した。
- ④環境保全に関する研修の実施および会議への参加
全国から小・中・高の指導者を集めて行う全国指導者研修会(平成 28 年 2 月に大阪で実施)において、下記のフェアプレイマナー BOOK の内容紹介と併せて環境保全・フェアプレイについて指導者に周知するとともに、意見交換を行った。また環境保全シンポジウム等、会議に積極的に参加した。
- ⑤フェアプレイマナー BOOK の発行
日本連盟主催大会、各支部大会での役員、選手、保護者、応援者のマナーの実態調査等を踏まえ、フェアプレイマナー BOOK を作成した(平成 28 年 2 月に完成)。上記の全国指導者研修会で紹介後、各都道府県連盟、全加盟団体宛に送付するとともに、日本連盟のホームページにも掲載した。



主な大会名	開催日	会場	主管団体
全日本シングルス選手権大会	5/16～17	千葉県千葉市	千葉県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	7/24～26	岩手県北上市	岩手県ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	7/30～8/2	富山県高岡市	富山県ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	7/28～8/4	奈良県明日香村	奈良県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	8/21～23	山形県天童市	山形県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	9/5～6	愛媛県松山市	愛媛県ソフトテニス連盟
JOC 杯全日本ジュニア選手権大会	9/19～20	広島県広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シニア選手権大会	9/11～13	宮城県仙台市	宮城県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	10/23～25	滋賀県長浜市	滋賀県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	7/11～12	千葉県白子町	千葉県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	7/18～19	熊本県熊本市	熊本県ソフトテニス連盟
国民体育大会	9/27～30	和歌山県白浜町	和歌山県ソフトテニス連盟
日本実業団リーグ	10/30～11/1	京都府福知山市	京都府ソフトテニス連盟
全日本クラブ選手権大会	10/31～11/1	千葉県白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	11/13～16	宮崎県宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	12/17～20	愛知県豊田市	愛知県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	28・1/17	大阪府大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

4. 全体的な成果と今後の課題

横断幕の掲示、ポスターの掲載、研修会での周知、マナー BOOK の配布等を行うことにより、スポーツ活動を通して青少年の環境保全等の自己責任やフェアプレーの精神などを身につけると共に、仲間との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成や他人に対する思いやりなど、豊かな人間性を育てる青少年の健全育成に取り組んだ。

平成 28 年は特にフェアプレイマナー BOOK の普及についてフォローアップしていくとともに、内容についての見直しも行い、スポーツと環境保全、フェアプレーの推進をさらに進めていきたい。

(公財) 日本卓球協会

1. 実施概要

日本卓球協会として、昨年 11 月パリ開催された COP21（国際気候変動会議）協定に基づき地球温暖化・大気汚染防止等卓球界に地球環境改善活動を積極的に参加かつ実践、全国的に啓発活動を行う事とする。



2. 平成 27 年度事業活動

- 大会時環境保全・改善に関するアナウンス
- 大会時会場内に環境啓発ポスター・パネルの掲示
- 大会プログラムに気候変動キャンペーンを寄稿

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本協会主催の全国大会にて環境啓発ポスター掲示・パンフレット配布
プログラムには気候変動キャンペーンを寄稿する

高校→ ①全国高校選抜大会（'16・3月 福島県郡山総合体育館）

表彰式にて 環境改善ポスター PR

プログラムに温暖化対策の為の国民運動「COOL CHOICE」を掲載

②全国高校総体（インターハイ）（'15・8月 滋賀県立体育館）

プログラムに気候変動キャンペーン「FUN to Share」を寄稿

大学 ①全日本総合卓球選手権・団体の部（'15・7月 愛媛県武道館）

会場内環境改善ポスター（来た時よりキレイに）掲示

プログラムに気候変動キャンペーン「FUN to Share」を寄稿

全日本選手権（'16・1月 東京体育館）

温暖化対策の為の国民運動「COOL CHOICE」パネル展示

ウォームビズパネル展示

ゴミの分別回収

4. 全体的な成果と今後の課題

本協会主催の主な全国大会会場における環境に関するポスター・パネル掲示・配布物等を通じ、選手はじめ関係者そして観客に環境改善・保全の重要性を訴える啓発活動を実施し、これまで以上に卓球関係者の意識改善が定着しつつあるものの、実践に於いては一人ひとりの活動をさらに進める活動をめざしたい。

（公財）全日本軟式野球連盟

1. 実施概要

全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成 17 年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観戦者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

平成 19 年に始めた各支部より使用済軟式野球用具を集め、野球用具の入手困難な国や地域へ寄贈する活動も 8 年目を迎えた。

平成 24 年度から、一部の事務連絡等の文書配布において、ペーパーレス化を図り、加盟団体支部（47 支部）に電子メールで配信を実施している。



2. 平成 27 年度事業活動

- 競技会等での環境啓発活動と環境活動（中古用具の海外寄贈）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

【競技会等での環境啓発活動】

連盟主催大会及び講習会にて JOC 環境啓発ポスター、JOC 環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、全軟連環境チラシの配布を行った。

また、競技会場においては、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、選手や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

【環境活動】

日本ではゴミとなる使用済み野球用具が海外の国や地域によっては、まだ使用でき、野球の普及にもつながるといった観点から、国際協力機構（JICA）の「世界の笑顔のために」プログラムに参加する形でグラブ、バット、ボール、キャッチャー用具、ヘルメット、ユニフォームなどを寄贈している。本年度の寄贈国は、ウガンダ、ザンビア、アルゼンチン、ソロモン、ホンジュラス他、合計 20 カ国である。

その他、他団体や個人で海外の野球を支援している方々を通じ、使用済み野球用具の寄贈を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境パンフレットの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び掛けにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上につながってきた。今後は、各都道府県大会においても積極的な環境啓発活動を実施されるよう、加盟団体支部へも呼び掛けていきたい。

屋外スポーツである軟式野球では、地球温暖化等による異常気象や大気汚染の進行が競技に与える影響を理解した上で、改めて環境保全に対する取り組みを積極的に行っていきたい。

（公財）日本相撲連盟

1. 実施概要

相撲大会会場は、国技館や各県の県立武道館特設土俵など屋内の場合と靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれている。

本連盟として、環境活動の重要性を認識し、それぞれの大会では、一般のゴミの分別の徹底と持ち込んだゴミは、持ち帰るといった活動を今後も継続的に実施していく。

いくつかの大学においては、相撲部の合宿所においてゴミの分別の徹底を図るとともに相撲部員が最寄の駅から合宿所の道程にゴミの無いように、ゴミ拾いを実施している。

今後このような取り組みが、加盟大学に広がるよう推進していきたい。

2. 会場別対策

- 屋内の大会でゴミが放置されている例はほとんど見当たらない。



- 屋外においても持ち帰りを指導しているため、ゴミについての問題はない。

3. 相撲競技に特異な注意点

- 屋内相撲場では、特に砂の扱いに注意が必要である。
小中学生の大会では、少年選手たちが砂を付けたまま観覧席に入ることがある。
砂は足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の枡席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。砂を取るための清掃費は、数十万円かかる場合がある。
監督会議で注意をするほか、大会当日の放送や見回りを繰り返しており、現在ではほとんど問題がなくなっている。

4. 平成 27 年度の具体的な取り組みと今後の取り組み

国体競技（和歌山県和歌山市）や全日本選手権（東京都・国技館）の会場において、『来たときよりもキレイに！』のポスターを掲示するとともに、環境活動の重要性を喚起し選手、監督、役員などの関係者全員に、ごみの分別と持ち帰りの徹底を促した。
これからは今までの取り組みを継続するとともに、スポーツと環境が大きなかかわりを持つことを多くの方に理解してもらえるように、大会会場等にポスターや横断幕等を掲示して環境保全に努めていきたい。

（公社）日本馬術連盟

1. 実施概要

子どもたちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成 27 年度事業活動

- 馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ジュニア競技大会時に子どもたちに対し環境活動の啓発
- 連盟機関誌「馬術情報」に、定期的に「スポーツの力でさわやかな未来を」の JOC スポーツ環境専門部会ポスターを掲載。同様に全日本大会プログラムへも掲載し、環境への啓発活動を実施

3. 具体的な活動実績内容とその成果

- ①馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター及びバナーの掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動に努めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。
- ②ジュニア競技大会においても子どもたちに対し、環境活動の啓発
ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った。



大会名（開催場所）	参加選手数
第 32 回全日本ジュニア馬場馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	約 90 名
第 36 回全日本ジュニア総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	約 30 名
第 39 回全日本ジュニア障害馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	約 170 名

4. 全体的な成果と今後の課題

平成 27 年度は、引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を積極的に続けることにより、啓発から実践につながるものとする。今後も馬術競技大会を通じて、多くの方に環境に対する啓発活動を続けていきたい。

（公社）日本フェンシング協会

1. 実施概要

競技者、指導者等に対して環境保全の啓発を図り、環境活動に関する理解を深める運動を展開した。今後は全国で積極的かつ継続的な活動を目標に取り組む。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会時に環境啓発ポスター、バナーを掲示
- 競技会における環境活動（安全、整理整頓、ゴミ収集等）
- 国立スポーツ科学センター内、フェンシング道場の節電を実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①毎日、実施できる取り組みとして、国立スポーツ科学センター内、フェンシング道場の練習時間外に節電を実施。
- ②高円宮杯フェンシングワールドカップ 2015(平成 27 年 11 月 6 日～8 日)にて環境ポスター、バナーを掲示して啓発を図るとともに、ペットボトル、ビン、可燃ゴミの分別を呼びかけ、ゴミ収集への協力を喚起した。
- ③第 68 回全日本選手権大会 / 平成 27 年 12 月 18 日～21 日、および日本フェンシング協会主催大会において、環境ポスター掲示を奨励した。
- ④JOC ジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会（平成 28 年 1 月 8 日～11 日）において環境ポスターを掲示して啓発に努めた。年齢が若い選手が対象であり、会場内で『周辺を清掃する。ゴミを出さない。』ようアナウンスして注意喚起を図った。
- ⑤各大会時に破損した装備品・用具の回収を一元化して再資源化を図っている。用具取扱業者の協力により、鋼鉄製の競技用剣の破損処分を集中して実施、推進した。

4. 全体的な成果と今後の課題



- ・毎日、実施できる取り組みとして、国立スポーツ科学センター内、フェンシング道場の節電に努めた。
- ・昨年よりも多くの大会でのポスター掲示を図り、より多くの啓発活動を実施した。
- ・試合終了後にペットボトルやゴミ等が片付けられていないこともあり、来年度も引き続き、各所属との連携について方策を検討していく。
- ・今後、更に開催団体・主管団体と協力して啓発活動を拡げていく努力が必要である。

(公財) 全日本柔道連盟

1. 実施概要

全日本柔道連盟では、前年度に引き続き、事務局が中心となって、環境保全にかかわる啓発・実践活動に取り組んだ。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会時の環境啓発ポスター、バナー掲示
- 大会プログラムへの掲載
- 大会・イベント時の会場内におけるゴミ分別の徹底
- リサイクル柔道衣、畳の供与

3. 具体的な活動実施内容とその成果

当連盟主催の大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場や観覧席においては、担当の係員を配置し、選手や観客による自発的なゴミ分別を徹底した。また、平成 27 年度より国際貢献事業として、各国へリサイクル柔道衣及び畳の供与を行っており、本年度は 11 カ国へ贈呈した。

4. 全体的な成果と今後の課題

全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会においても、多くの都道府県において、大会時の観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動、あるいは社会奉仕として地元地域の清掃活動を実施している。

また、今年度より国際貢献の一環として、柔道衣が不足している地域等 11 カ国へリサイクル柔道衣及び畳を供与する活動を実施している。

本連盟においては、2014 年 4 月に「柔道 MIND プロジェクト」を発足し、柔道の本質である礼節／品格のある柔道人を育成することを目的として活動している。嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 山口香

全日本柔道連盟では、柔道を行うことによって競技面の上達のみならず人間的な成長を目指している。これを実践するために 2014 年から柔道 MIND プロジェクト活動を立ち上げ、嘉納治五郎師範



の柔道精神を実生活でも生かしていくように働きかけを行っている。環境への取り組みは、自他共栄の柔道精神に則った活動であると考え、柔道の指導者、選手はもちろん、試合会場においても啓発を行っている。環境を配慮した活動と言っても様々なアプローチがあるため、具体的には大会会場のゴミの分別や持ち帰り、公共交通機関を使用するの往来など、負担を感じることなく行動できるような取り組みを呼びかけている。私自身も、指導者講習会や講演会などで、国際オリンピック委員会がなぜ環境問題に取り組むのか、スポーツと環境の関係などを説明するように心がけた。環境への取り組みに終わりはなく、一人ひとりが小さな努力を積み重ねることが重要だと考え、今後も啓発に取り組んでいきたい。

(公財) 日本ソフトボール協会

1. 実施概要

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOC 環境委員会のスローガンである「この星にスポーツを」、また日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし!」を、大会毎にバナー掲示するなど、継続的活動を積極的に展開した。さらに、一昨年度より各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めた。また、本協会主催のソフトボール講習会、ソフトボールフォーラムにおいて、環境啓発活動を行った。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れる
- 講習会等でのオリンピックを中心とする講師による環境啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本協会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。また、本協会が主催する各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れ（別添）、啓発活動を行った。さらに、本協会が全国 9 地区で行うソフトボールフォーラムにおいて、講師を務める指導者（主にオリンピック）に、講習の際、環境問題の啓発のためのソフトボール版「5 分間スピーチ原稿」（別添）を作成配布し、環境啓発を講演の内容に織り込んだ。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、ソフトボールフォーラムにおける講演などの啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

ただ、平成 28 年度についてはソフトボールフォーラムを実施しないことから、著名な指導者による講習会の場がない為、代替となる場面での実施を検討しなければならない。

来年度以降も引き続きより多くの方々の環境に対する理解を求めて、より積極的な環境保全に努めていきたい。



ソフトボールと環境について

○ ソフトボールを愛する私たちも、地球人

○ ソフトボールを愛するのには、あれこれ努力し「試合や練習の場に響きわたる良い声」を一年中保ちたいというソフトボールの心算です。また、人間として大切な生きとしなめるものは地球環境です。環境問題を考えるのは、地球環境を愛する私たちも当然の義務です。環境問題を考えるのは、地球環境を愛する私たちも当然の義務です。

○ 私たちがソフトボールをやるうえで実行できることとして、環境ソフトボール大会は、環境ソフトボール大会の開催を促しています。

○ ソフトボール大会開催中、できる限り大会の会場内を自転車で移動し、徒歩で行く。

○ 全てのゴミ（缶・瓶・紙、ゴミ、ビニール袋等）は、設置されているゴミ箱に分別して捨てるか、袋に入れて持ち帰り、リサイクルするもの・燃棄するものに分別する。

○ トラック、またはチームとして、会場内・地域の環境、緑豊かな環境づくりに参加する。参加が難しい場合は、そのよき活動を実施して貢献する。

○ 使い古した服装は洗濯せず、洗濯可能なものを、分別しての回収で処理する。

★ ソフトボール大会環境啓発啓発委員会（山形県山形商高）
『チーム・マン・ス・のスタンス』『ゴミは出し』

大会プログラム

第67回全日本総合女子ソフトボール選手権大会 (第71回国民体育大会ソフトボール競技レギュラー大会) 出場チーム一覧表

順位	チーム名	所属県	ソフトボール部	監督
1	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
2	東海大学	(静岡県)	藤原 幸博	藤原 幸博
3	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
4	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
5	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
6	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
7	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
8	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
9	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
10	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
11	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
12	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
13	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
14	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
15	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
16	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
17	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
18	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
19	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
20	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
21	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋
22	トヨタ自動車	(愛知県)	原野 隆博	高田 洋

ソフトボールと環境について

ソフトボール大会開催中、できる限り大会の会場内を自転車で移動し、徒歩で行く。

全てのゴミ（缶・瓶・紙、ゴミ、ビニール袋等）は、設置されているゴミ箱に分別して捨てるか、袋に入れて持ち帰り、リサイクルするもの・燃棄するものに分別する。

トラック、またはチームとして、会場内・地域の環境、緑豊かな環境づくりに参加する。参加が難しい場合は、そのよき活動を実施して貢献する。

使い古した服装は洗濯せず、洗濯可能なものを、分別しての回収で処理する。

5分間スピーチ原稿

(公財) 日本バドミントン協会

1. 実施概要

一スポーツ団体として環境活動の重要性を認識して、環境委員会を中心に新しいことはできないものの地道に「出来ることから始める」をスローガンに登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めることを中心に地道ながら継続的な活動を実施した。そこから本会だけの活動に止まらず、より多くの人々に発信していけるような活動を目指し取り組む。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスターの掲示
- 大会の要項に環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動
- 環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスターの掲示

本会評議員会、日本リーグ全国 16 カ所他、主催 20 大会において、環境啓発ポスター、パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。
- ②大会の要項に環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動

本会主催 20 大会及び日本リーグの要項に以下の三つの事項を必ず記載し、環境活動の重要性を認識させている。

 - ・ゴミの分別収集に協力してください
 - ・部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください
 - ・マイ歯ブラシを持参して大会に参加してください

また、大会開催にあたり、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などについては電子メールを活用し、紙の削減を行い、より環境保全の意識を高めることを徹底した。



③環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

大会時における役員、参加選手へゴミの分別を徹底させている。

本会強化合宿のナショナルチームからジュニアナショナルチームまでの選手に対しては味の素ナショナルトレーニングセンターの練習における年間のドリンク類の使用量の多さに注目し、キャップと本体の分別、ゴミの分別を徹底し、環境活動の重要性を認識させている。

4. 全体的な成果と今後の課題

本会では環境委員会を正式に平成 18 年 4 月 1 日より立ち上げ、主に大会時におけるのポスター掲示、パンフレット配布など地味な活動を中心に行ってきた。選手をはじめ、加盟団体の関係者、登録会員には環境啓発の知識、理解を得られたと認識している。今後は継続的に現在の活動を続けるとともに環境にやさしい、具体的な実践活動を目指して、スポーツと環境のかかわりを多くの方に理解していただくように活動していきたい。

(公財) 全日本弓道連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動参加の重要性を認識し、行事参加者各位へ啓発活動を行った。

2. 平成 27 年度事業活動

- 主催行事における環境啓発活動
- 主催行事における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①主催行事における環境啓発

本連盟主催大会にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。

本連盟主催講習会において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。

②主催行事における環境活動

ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。

照明、空調の調整をこまめに行い、CO2 削減について取り組んだ。

大会速報を掲示のみにとどめ、紙の使用を削減した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示などの啓発活動により、役員・選手・観覧者等広く環境保全を促すことが出来た。特に平成 27 年度は国内最高位の大会での役員・選手が一体となった啓発活動によりスポーツと環境への意識を高めてもらえたと考えられる。選手は地元では一流の指導者でもあり、啓発活動の更なる広がり期待できる。

これからも個々の意識を高め、実践活動につなげていくことが必要だと考えている。



(公社) 日本ライフル射撃協会

1. 実施概要

日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会を中心に環境保全を目的とする取組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2. 平成 27 年度事業活動

- 国体、全日本小中学生大会等の競技会、会議等での環境ポスター掲示
- 射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施
- 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業
- 環境保全に関する内容を講習会等で実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技会、会議等での環境ポスター掲示

全国加盟団体や関係団体に環境ポスターを配布するとともに和歌山国体や全日本小学生大会などの競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともにゴミを持ち帰ることによる施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明電力等の省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会をとらえて行うことにより、会員の意識の向上に成果が見られた。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌や協会ウェブサイト上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を引き続き実施する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理は全国で適切に処理されている。

施設利用時の場内清掃の励行（クリーン運動）やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践、グリーン購入について、会員の理解と協力を得るなかで拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示しつつ、身の周りのできることから実施する。



(一財) 全日本剣道連盟

1. 実施概要

平成 27 年度も、全国の剣道愛好家から中古剣道具をいただき、剣道具の入手が困難な海外の剣道連盟や団体への寄贈を継続的に実施することを通して、身近なところから「地球規模の環境保全意識」を啓発・実践することに力を注いだ。

2. 平成 27 年度事業活動

- 中古剣道具の海外への寄贈を継続
- 環境保全啓発ポスターの活用
- 大会等でのゴミの分別回収等の実践

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①中古剣道具の海外への寄贈を継続

平成 27 年度も全国から寄せられた中古剣道具を補修し、タイ、チュニジア、マラウィ、トリニダード・トバゴ、モンゴル、インドネシア、トルコ、クロアチアの 8 カ国に寄贈した。

②環境保全啓発ポスターの活用

全国剣道大会等の開催時、また職場においてもポスターを掲示して環境保全意識の高揚に努めた。

③大会等でのゴミの分別回収等の実践

全国剣道大会等でのゴミの分別回収(弁当箱・ペットボトルの専用回収)、事務所内のリサイクルボックスの利用を促進した。

4. 全体的な成果と今後の課題

中古剣道具の補修・活用により剣道の国際的普及の一翼を担うことができた。国内においては、更なる「剣道と環境保全」意識の高揚と活動内容の検討を進めていきたいと考えている。

(公社) 日本近代五種協会

1. 実施概要

当協会は下記 2. のごとく、開催した各競技会において、参加選手とその家族ならびに運営役員及び観戦者に環境保護の呼びかけと協力依頼を行った。

2. 平成 27 年度事業活動 (アピール啓蒙活動を行った競技会)

- ・ 4 月 21 日 長野県大桑村大会
- ・ 7 月 12 日 北海道野幌市大会
- ・ 8 月 2 日 愛媛県松野市大会
- ・ 8 月 23 日 紀の国わかやま国体 (有田市)



- ・9月6日 近代3種全国大会（千葉県）
- ・9月27日 近代五種全日本選手権大会（静岡県）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

競技会参加申込受付時に公共交通機関利用や車両の相乗り等での来場を推奨し、競技当日は啓蒙ポスターを掲示してゴミの分別や持ち帰りとリサイクルの呼びかけを実施した。

運営役員の移動及び行動にも同様の配慮をした。

地方都市では環境保護に対するアピールが頻繁になされてはいない状況だが、呼びかけに対して多くの人の理解と協力を得て意識向上にも寄与出来たものとする。

4. 今後の課題

スポーツ分野における環境保護への意識は一定のレベルまでは到達したと考える。

更なる啓発を目指すには物品とエネルギー消費を抑えることが競技主催者と参加者の互いの経済的な負担の軽減につながる事を訴える必要がある。

また各NF個別の訴求力には限度があり、2020年の東京オリンピック開催を大きな契機として全競技横断的なアピールが更なる効果をもたらすものとする次第である。

（公財）日本ラグビーフットボール協会

1. 実施概要

日本ラグビーフットボール協会は、総務委員会に環境部門を設置して9年目を迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組み事例の研究及び検討を行い、『社会貢献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして下記の事業を実施した。

2. 平成27年度事業活動

- 日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- 地球温暖化防止のための『Fun to Share キャンペーン』（環境省主管）加盟メンバーとして環境保全活動への協力
- 協会内各委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進を図る
- 日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
- 2016年2月22日開催のJOCスポーツ環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例を研究
- 2016年リオデジャネイロオリンピック(男・女7人制ラグビー公式競技出場決定)2019年ラグビーワールドカップ（日本開催）、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての環境PRの発信

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①広報活動（環境啓発PR）

広報委員会との連携によりホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により



関係者、ファンへの環境保全運動を推進した。

- ・「FOR ALL, FOR EARTH」の日本協会環境タイライン活用
- ・「Fun to Share キャンペーン」の露出PR

②試合（競技場）を観客・ファンへの環境啓発活動のチャンスと捉えてのPR推進、場内アナウンスにより、ゴミ分別回収協力の呼び掛け

③秩父宮ラグビー場での「エコキャップ運動」を展開

ペットボトルキャップを回収し、資源の再利用を促進することでCO₂排出量の削減、キャップの再資源化で得る売却益をもって発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動を行った。また、キャップを回収した総数、それを焼却した際に発生するCO₂の量、提供できるワクチン数は定期的にホームページ等で報告している。

④トップリーグ参加チームと日本協会による「TRY for GREEN プロジェクト」を展開

トライ数に応じた寄附により、網走市の植林ならびに森林保全活動「トップリーグの森」への支援を行う（1月25日ジャパンラグビートップリーグ年間表彰式にて北海道網走市水谷市長へ網走市の植林活動ならびに森林保全活動への寄附金を寄託）。また併せて(公社)国土緑化推進機構を通じ、東日本大震災で被害を受けた岩手県の海岸林の再生活動にも寄附を行った。

⑤省エネルギー、エコ商品利用、試合観戦時の公共交通機関利用を推奨

FOR ALL, FOR EARTH.

(公社) 日本山岳協会

1. 実施概要

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域での自然環境保護活動を主体とし、自然保護委員会を組織してスポーツ環境活動に取り組んでいる。

2. 平成27年度事業活動

- 独自制度である「自然保護指導員制度」（現在1,500名を超える登録数）の普及
- 自然保護委員総会（各都道府県に委員を1名配置）の開催
- 環境省や日本を代表する山岳団体などと連携しての山岳自然保護活動
- 山岳地域におけるゴミ持ち帰りやトイレマナーの向上などを推進
- 各地における清掃登山や登山道の補修などを実践
- 環境省自然公園指導員を推薦し、自然公園内の適正利用や安全指導の推進など年間を通して活動している。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

平成27年度の特記すべき活動としては、「いわはしやま(会津磐梯山)の自然保護と火山防災に学ぶ」をテーマに、山岳自然保護の集い全国集会（第39回自然保護委員総会）を平成27年9月12日～13日に福島県耶麻郡猪苗代町で開催し、全国から110名の委員が集まり、山岳環境について意見交



流を行った。

当協会では独自の制度として、「自然保護指導員制度」を運営している。この制度は、登山をとおして、日本の素晴らしい山岳自然を後世に引き継いでいくよう、全国各地の加盟団体から 1,500 名の登録を受けて、正しい登山者マナーを広く呼び掛け、自然環境の保護に向けた活動を推進している。また、この指導員制度をさらに拡大展開を進めるべく、全国に情報発信をしている。

◆登山者マナー

1) 自然を大切にす

この恵み多い自然を、末永く後世に伝えるため、自然と友達のように接し大切にす。

2) 水資源を大切に

水は山からの恵みであり、あらゆる生命の源であるから、水源を汚さない。

3) テイクイン・テイクアウト

山に持ち込んだものは必ず持ち帰る。山にはゴミを残さない。

4) トイレマナーを守る

登山口で用を済ませて、携帯トイレの使用を習慣付ける。山岳トイレでは利用ルールを守る。

5) ローインパクトを心がける

野生動物への配慮（餌やり、ペット同伴など）、移入植物の侵入への配慮（靴の泥に混入）。

（公社）日本カヌー連盟

1. 実施概要

本連盟では環境保全並びに美化推進の重要性の観点に基づき、とりわけ水辺環境について「クリーンリバー」運動を継続的に実施した。今後は本連盟加盟団体下にとどまらず一般カヌー愛好者および非加盟団体等へも発信していくよう努める。

2. 平成 27 年度事業活動

すべての主催競技会における啓発活動を実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

主催競技会における実施内容

- ①競技会実施以前に環境点検を主管団体と共同して実施
- ②危険箇所回避、瑕疵については排除し、設営に着手
- ③水質については事前の公認検査の項目に照らし、汚濁・悪化防止に配慮
- ④監督会議、開会式において必ず環境保全についてその重要性を発信
- ⑤原則、ごみは持ち帰りとし、やむを得ず会場処理する場合は自治体や宿泊業者とタイアップし処理体制を整備
- ⑥会場内のゴミ拾い等は大会日程に合わせて一斉もしくは参加団体ごとに実施



現在では上記活動が恒常化しているため、あらためて活動イベント化していない。競技会のスタイルに合わせて自主的に実施できている。

4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動はおおむね浸透している。カヌー競技場の設置により以前より水辺の環境が整備され、かつ水質が格段に改善され周辺住民に歓迎され公園化されているところも出てきており、こうした事例を全国に広めたい。

今後の課題は、本連盟傘下ではない一般カヌー愛好者への啓発活動が急務である。レクレーションとして普及することは大いに歓迎であるが、マナー欠如による環境汚濁については当該地域の加盟団体および自治体と協調して対応したい。

(公財) 全日本空手道連盟

1. 実施概要

昨年度に引き続き、日本空手道会館内の節電や、その他会館内外で環境保全に関する取り組みを行った。

2. 平成 27 年度事業活動

- 徹底した節電
- 大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ
- ナショナルチームによる早朝ゴミ拾い活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①日中は廊下の電灯を一部消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を貼り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行った。冷暖房の使用を控えたり、設定温度を控えめにしたほか、階段で移動を行う姿が多く見られた。また、職員は日常の業務においても、夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめに設定し、上着を着たりひざかけを使用するなど、節電に努めた。
- ②大会会場や日本空手道会館を利用するすべての団体に対し、ゴミの分別を呼び掛けた。
- ③ナショナルチーム合宿において、宿舎まわりの早朝ゴミ拾い活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟では継続して徹底した節電を行っている。本館を使用する団体の中には、エレベーターの使用を控えることはもちろん、真夏にもかかわらず冷房を使用せず窓の換気のみで対応するという、協力的な団体も見られた。今後も節電に対する取り組みを継続していく。

また、掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、講習会参加者は自発的にゴミの分別を行う姿が見られるようになった。

さらに今年はナショナルチーム強化合宿において、選手が宿舎周辺のゴミ拾い活動を行った。



(公社) 全日本銃剣道連盟

1. 実施概要

環境保全活動の重要性を認識し、当連盟主催の各種大会・講習会において、参加者に対し積極的な啓発活動を行った。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会会場に環境啓発ポスターを掲示
- 大会プログラムに環境啓発ポスターを掲載
- 照明、空調等の調整による節電

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会会場に環境啓発ポスターを掲示し、選手や関係者に対し啓発活動を行った。
- ②事務室や道場の電気、空調をこまめに管理し、使用していない電化製品のプラグは抜く等、節電に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全の重要性を幅広く PR することができ、選手や関係者の意識も向上してきている。今後もこの活動を継続して行い、環境保全に貢献できるよう努めていきたい。

(公財) 全日本ボウリング協会

1. 実施概要

スポーツと環境保全への啓発活動は「普及・広報部会」が担当した。「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」というテーマを継続し、具体策としての大会における活動は「競技委員会」の協力のもと実施した。

2. 平成 27 年度事業活動

- 協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示
- 協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導
- 大会成績公表方法の効率化と印刷コスト・資源使用の削減

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示
平成 27 年度の協会主催大会、理事会、審判員資格認定会等において、環境啓発ポスターを掲示した。また協会事務局内にも同ポスターを掲示し、資源の無駄づかい抑制に努めながら業務を遂行した。会にかかわるすべての人がマナーを意識し守るよう促すことを目標とし実施した。



②協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

協会主催行事におけるポスター掲示と併せ、一部の大会ではプログラム冊子に環境啓発の広告を掲載した。また全ての協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」において、競技環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンス等により、選手、役員、観客など、大会にかかわるすべての人がマナーを意識し守るよう導くことを目標とし実施した。

③大会成績公表方法の効率化と印刷コスト・資源使用の削減

「web サイトでの成績公開」と「データ活用によるスコアシート使用削減」を前年度に引き続いて推進した。大会の最終成績一覧表は、データによる提供（メール送付対応）が標準化し、印刷コストおよびコピー用紙使用量の削減効果があった。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全のためのルール・マナーについては、競技に不慣れなジュニア選手や、指導者・審判員養成の場面で指導に力を入れることが先々の徹底につながると考えている。今後は審判員資格の認定会、ジュニアコーチ研修会といった事業の中で、より積極的に意識づけを行っていけるよう、各事業の担当部会に働きかけていきたい。

協会主催大会を主管する都道府県連盟では、連盟が主体的に「後片付け推進タイム」を設け、選手による場内のごみ集め・忘れ物確認・競技エリアの現状復帰を指導するなどの活動を実施しており、今年度はより多くの大会で同様の対応が見られた。各ブロック、各県レベルの大会でも同様の動きが出ることを期待し、推奨していきたいと考えている。

(一財) 全日本野球協会

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動の重要性を認識し、総務委員会環境部会から各加盟団体に情報発信し、野球界全体における啓発活動に取り組んでいる。

特に野球で使用する木製バットは自然の恵みであり、自然環境の保全是野球界のメインテーマとなっている。平成 27 年度は「～愛する自然と野球のため～アオダモ植樹キャンペーン 2015」をスローガンに北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取組みを展開した。

2. 平成 27 年度事業活動

- 各加盟団体主催行事における環境ポスターの掲示
- バット材（アオダモ）の植樹活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①主催行事における環境ポスターの掲示

- ・7月－第86回都市対抗野球大会 東京ドーム
- ・10月－第41回社会人野球日本選手権 京セラドーム大阪



- ・1月—第21回野球指導者講習会 幕張メッセ
- ・3月—第88回選抜高等学校野球大会 阪神甲子園球場
- ・通年 社会人野球並びに学生野球の各地方大会 各地主要球場

②バット材（アオダモ）の植樹活動（4回）

- ・日 程：平成27年7月18日（土）10:00～11:30
場 所：苫小牧国有林 1357 林班い2 小班
植樹数：200 本（鹿対策との同時並行作業）
参加者：佐藤由規（東京ヤクルトスワローズ）、北海道苫小牧中央高校野球部員、苫小牧スポーツ少年団野球部・新生台イーグルス野球少年団、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 140 名
- ・日 程：平成27年8月3日（月）10:00～11:30
場 所：栗山町 栗の木ファーム
植樹数：100 本
参加者：栗山英樹（北海道日本ハムファイターズ）、地元ボランティア、栗山中学校野球部員、角田リトルタイガース、栗山ロッキーズ、継立ロビズ及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 130 名
- ・日 程：平成27年9月26日（土）10:00～11:30
場 所：由仁町道有林 119 林班2 小班
植樹数：500 本
参加者：北海学園札幌高校野球部員、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 100 名
- ・日 程：平成27年10月3日（土）10:00～11:30
場 所：新冠国有林 2101 林班る 小班
植樹数：1000 本
参加者：北海道静内校野球部員、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 100 名

4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きなかかわりを持つことを以前から考え啓発し、実践してきた。植樹活動を推進している「NPO 法人アオダモ育成の会」も設立から10年以上経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

（公社）日本カーリング協会

1. 実施概要

カーリング競技にかかわる全ての人（選手・スタッフ・観客など）に対して環境保全活動に対する意識の向上を促すことを目的とし、各種の啓発活動に取り組んだ。



2. 平成 27 年度事業活動

- カーリング施設への環境啓発ポスター掲示
- 主要大会における大会参加者・スタッフによる環境活動
- 環境委員会の設置

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①カーリング施設への環境啓発ポスター掲示

以下の全国のカーリング専用ホールへ、環境啓発ポスターの掲示を行った。

- ・ とうぎんカーリングスタジアム（北海道）
- ・ アドヴィックス常呂カーリングホール（北海道）
- ・ 妹背牛町カーリングホール（北海道）
- ・ 北海道立サンピラーパークカーリング場（北海道）
- ・ みちぎンドリームスタジアム（青森県）
- ・ 軽井沢アイスパーク（長野県）
- ・ カーリングホールみよた（長野県）

②主要大会における大会参加者・スタッフによる環境活動

以下の本会主催大会にて、大会参加者・スタッフによるゴミの分別回収の徹底をし、環境への意識の向上を図った。

- ・ 全農 2015 パシフィックアジアカーリング選手権大会 日本代表決定戦
2015年9月16日（水）～21日（月）北海道：アドヴィックス常呂カーリングホール
- ・ 第24回ジュニアオリンピックカップ 日本ジュニアカーリング選手権大会
2015年11月24日（火）～29日（日）長野県：軽井沢アイスパーク
- ・ 第6回全日本大学カーリング選手権大会
2015年12月4日（金）～29日（日）北海道：とうぎんカーリングスタジアム
- ・ 第33回 全農 日本カーリング選手権大会
2016年2月6日（土）～13日（土）青森県：みちぎンドリームスタジアム
- ・ 第11回全国高等学校カーリング選手権大会
2016年2月18日（木）～21日（日）青森県：みちぎンドリームスタジアム
- ・ 第9回日本ミックスダブルスカーリング選手権
2016年2月24日（水）～28日（日）北海道：妹背牛町カーリングホール
- ・ 第13回日本シニアカーリング選手権大会
2016年3月3日（木）～6日（日）北海道：とうぎんカーリングスタジアム

③環境委員会の設置

本年度より環境委員会が設置され、協会としてのより一層の環境保全の取り組み に向けた体制の整備を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示、大会における環境活動の実施などの取り組みは継続的に実施され、着実に浸透してきている。今後、大会に留まらずカーリング競技にかかわる全ての人に対して環境意識の向上をより



高める施策について、環境委員会を中心として検討を進めていく。

(公社) 日本トライアスロン連合

1. 実施概要

①「グリーントライアスロン」※をスローガンとする環境保全活動の継続実施

②東京ベイクリーンアップ大作戦

③カーボンオフセットの取組の拡大（横浜シーサイド大会から世界シリーズ横浜大会へ）

※「グリーントライアスロン」とは、国際トライアスロン連合 (ITU) と日本トライアスロン連合 (JTU) が共同で取り組む、「トライアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース（減らす）、②リユース（再利用）、③リサイクル（再資源化）の3つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

2. 平成 27 年度事業活動

●グリーントライアスロン in 横浜〔2015 年 4 月 18 日（土）山下公園〕

●東京ベイクリーンアップ大作戦〔2015 年 6 月・9 月・11 月 計 3 回 お台場海浜公園〕

●カーボンオフセットの取組〔2015 年 5 月 16 日（土）・17 日（日）山下公園特設トライアスロン会場〕

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①グリーントライアスロン in 横浜

大会開催 1 カ月前（大会開催：5 月 16 日・17 日）大会会場となる山下公園にて、スタッフ、協賛社、一般来場者の協力のもと環境保全活動を実施。主な活動内容は、スイムコースの山下公園前面海域の海底清掃や会場内清掃、海中実況中継、スイムコース試泳など。

②東京ベイクリーンアップ大作戦

「東京港を泳げる海に！」をスローガンに年 3 回（毎年 6 月・9 月・11 月予定）、地球環境の保全と泳げる海をめざして、お台場海浜公園で クリーンアップキャンペーンを実施。2013 年（平成 25 年）からの継続事業で、3 度目の開催となる。

③カーボンオフセットの取組

昨年の横浜シーサイドトライアスロン大会に引き続き、横浜市との協働による地球温暖化対策「横浜ブルーカーボン事業」を実施。参加者の会場までの移動により生じる CO₂ 排出量を金額換算し、寄付金（任意一人 200 円）などでオフセット（埋め合わせ）する取組で、今大会では 71.5%の方に賛同を得た（1,061 件× 200 円 = 212,200 円）。本事業による寄附金は、CO₂ 削減を目的にワカメの地産地消や水質浄化、海の環境改善支援等に充当される。

4. 全体的な成果と今後の課題

①横浜大会を中心とした「グリーントライアスロン」をスローガンとした環境保全活動がスタッフおよび参加者へ確実に浸透した。このプロジェクトを平成 28 年度以降、大会開催時に実施する環境活動として全国への浸透を図る。



②大会実行委員会および全国加盟団体へ「グリーントライアスロン」啓発ツールの提供を検討する。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 山崎秀樹

トライアスロン競技は自然界を競技会場とし、スイム会場・トランジションエリア、観戦スタンド、フィニッシュガントレーなどビーチ、公園等に競技会場が設営される。JOC 環境のスローガン「来たときよりキレイに」にもあるように、自然を会場として利用する競技としての意識を各大会に強く周知させることが必要となる。今後は今年度実施した海底清掃や周辺の清掃活動を全国すべての大会会場で実施できるよう働きかけていきたい。

(公財) 日本ゴルフ協会

1. 実施概要

スポーツ団体として、環境に配慮した活動を行った。

2. 平成 27 年度事業活動

- 環境啓発ポスターの掲示
- 大会会場における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- 事務所内に環境啓発ポスターの掲示
- トーナメント会場において、環境配慮を目的に、日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープン会場のギャラリー飲食場所を中心に、分別用ゴミ箱を設置

4. 全体的な成果と今後の課題

- 事務所内におけるペーパーレス化の意識付け
- トーナメント会場では、今後、環境に配慮した食器（リサイクル食器等）の使用や食材の地産地消に取り組みたい

(公社) 日本スカッシュ協会

1. 実施概要

今年度は昨年のキャンペーンを継続して行った。コートを保有するクラブ利用時の心構え「来たときよりもキレイに！」実践など、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるよう取り組んだ。

また、全国の地区支部への浸透を深めるために会議等でも説明を行った。

2. 平成 27 年度事業活動



- 大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施（マイカップ・靴袋リユース）
- 大会会場に JOC 制作の環境啓発ポスターを掲示
- 大会表彰式において環境啓発のスピーチを入れる
- 協会公式サイトで啓発
- 平成 28 年度に向け、さらに地球温暖化防止とスポーツの取り組みとして、大会運営マニュアルやプログラムへ環境ポスターを掲示する予定で準備中

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会開催時の実施状況

当協会主催の全ての大会で JOC 啓発ポスターを掲示。当協会エコキャンペーンは 6 年目に入るため周知されているが、さらなる啓発を行った。全国の支部への浸透が少しずつではあるが実施されてきたが十分ではなかったため、今年度もさらに支部長に協力を依頼した。

②エコキャンペーンの具体的な内容

JOC の啓発ポスターを各大会会場に掲示。

ジュニア大会ではドリンクはマイボトル、マイカップを利用するように給水タンクを用意する。この活動は何年も継続してきているため、すでに定着している。

各大会スタッフは持参のマグカップやマイボトルでドリンクゴミを減らす努力を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

7 年目となるエコキャンペーンは、ジュニア大会では意識が定着し、子どもたちが率先してキャンペーンへ参加している。大人を対象とした大会でもスタッフを中心にエコ意識の向上が見られている。この意識が選手や観客に波及し、より広がって行く事を期待したい。

当協会主催の全ての大会では上記のように実施しているので、全国の支部でも少しずつ浸透してきたので、全国の全ての支部に再度協力依頼を行った上で、JOC の環境啓発ポスターのデータを送付して 4 月以降の各支部大会にて協会同様にさまざまな環境エコ活動の実施をお願いし、写真を送っていただくようにした。

その結果スカッシュコートのあるスポーツクラブや会場になっているスカッシュクラブでも年間を通じてポスターを掲示してエコ活動に協力的になってきている。大会での実施だけでなく今後年間を通じた取り組みを全国に広げていきたい。

(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟

1. 実施概要

役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っている。

2. 平成 27 年度事業活動

- 事業局での書類を削減



- 競技会等における環境美化活動
- 大会プログラムへの啓発資料の掲載
- 大会会場での広報活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①事業局での書類を削減

選手、審査員、指導員等の管理データベース化により書類を削減

②競技会等における環境美化活動

ボディビル全日本選手権大会をはじめ各ブロック大会、地方大会等年間約 50 回開催される大会会場でのゴミの分別化

③大会プログラムへ啓発資料の掲載

大会プログラムに環境ポスターを掲載

④大会会場での環境啓発活動

環境標語横断幕（バナー）、ポスター掲示等による環境啓発活動

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載など啓発活動を行った結果、役員、選手、観客等に徐々に環境問題意識が高まってきた。
- ・「出来ることからやる」「STOP！ 地球温暖化」をスローガンに役員一丸となり環境問題に積極的に取り組む。

（一社）全日本テコンドー協会

1. 実施概要

全日本テコンドー協会において環境委員会が設置された。

昨年 5 月からの約 1 年の活動の中で、スポーツ団体が環境に対する意識づけと取り組める活動の実践を都道府県団体ならびに会員に啓発を図るため、全国規模の競技大会にて行った。

平成 28 年度は環境委員の増員と全国の地方大会での活動に枠を拡げ活動したい。

2. 平成 27 年度事業活動

- 競技大会時のポスター、パンフ掲示
- 競技大会時の環境への取組みの呼びかけ

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技大会時のポスター、パンフ掲示

全国規模の大会時に「来たときよりもキレイに！」のポスターを掲示。パンフレットの表 4 にも表示し、啓発活動を行った。

②競技大会時の環境への取組みの呼びかけ



競技大会の開会式のなかで「環境委員会より注意」の時間を設け、スポーツ団体として可能な環境対応の一步である、会場のゴミの分別や持ち帰りや会場周辺の美化とマナーを呼びかけた。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示やパンフへの環境啓発ポスターのプリントを行い大会時の開会式での環境活動の呼びかけを行い啓発活動を行ってきた。特に開会式の中に環境啓発の時間を設けることは、回数を重ねるごとに開会式の恒例のプログラムとして認識されている。

実際の会場で撤収時のゴミの量も着実に減少しており、啓発活動の成果が出ていると判断できる。今後はこれを継続するとともに、各地方大会やオープン大会にも発展させていきたい。

(公社) 日本ダンススポーツ連盟

1. 実施概要

2015年1月から12月までに当連盟（JDSF）が公認して開催されたダンススポーツ競技会は309回で、これらの大会ではゴミの分別・持ち帰りを啓発するとともに、実践を促した。また、主な主催競技会で環境横断幕（バナー）やポスターを掲示したほか、指導員研修会において、スポーツと環境活動の関連および重要性について訴えた。

2. 平成27年度事業活動

- JDSF 及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出
- JDSF 事務所会議室への環境啓発ポスター掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動
- 指導員研修会における環境活動の啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発横断幕等の掲示

JDSF 主催の競技会においては、従来の三笠宮杯及び東京オープン競技会に加え、北海道、仙台、静岡、大阪、沖縄で開催されたダンススポーツグランプリ及び和歌山で開催された全国都道府県対抗ダンススポーツ大会のほか、加盟団体主催の競技会において、JDSF ロゴマークをも配した JOC 環境横断幕を掲出し、環境保全の必要性と運動の意義について訴えた。

②事務所会議室への環境啓発ポスターの掲示

来客があった場合等に JOC の環境保全活動について説明し、理解を求めた。

③指導員講師養成講習会等における啓発

JDSF には、全国に約 4,000 人のダンススポーツ指導員がいて、毎年 1 回の研修受講を義務付けている、一部研修会において「スポーツと環境」と題する講義を行い、環境保全について啓発活動を進めるよう促した。



4. 全体的な成果と今後の課題

大会時のゴミ分別は、引き続き多くの会場で実践しており、主催者及び会員の環境保全に対する意識向上がかなり実感された。引き続き JDSF 及び加盟団体の各イベントにおいて、JOC ポスターの貼り出しや環境横断幕の掲示などを行い、環境保全の重要性を訴えていきたい。特に今後は、全国各地で開催する指導員研修会においても啓発していきたい。

また、事務所や大会開催時での紙使用及びコピー数の削減の必要性をこれまで以上に訴えていきたい。

(一社) 日本バイアスロン連盟

1. 実施概要

日本バイアスロン連盟は環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に展開した。

2. 平成 27 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 競技会等における環境活動と清掃活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

本会主催大会にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動と清掃活動

東日本選手権競技大会・日本選手権大会等の競技会においては、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。さらに、札幌市等の自治体の行ったイベントを通じて、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。

また、北海道上川郡東川町、札幌市、虻田郡倶知安町、富山県南砺市で開催したミニバイアスロン競技大会及び小・中学生を対象としたバイアスロン体験講習会を実施し、その中で、参加者に環境とスポーツとのかかわりや、環境保全・啓発活動の重要性を訴えるとともに周辺地域の清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会場内へのポスター、バナーの掲示など啓発活動を行ってきた成果が徐々に実り、選手をはじめ多くの関係者に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

今後も、競技者、啓発活動から実践活動へ意識を変え、より具体的な活動を行っていく。スポーツと環境が大きなかかわりを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえよう、これからも積極的に環境保全に努めていきたい。



(一社) 日本カバディ協会

1. 実施概要

日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置以来、引き続いてスポーツ団体が取り組み可能な環境保全の啓発、実践活動を行っている。これから、より積極的な活動を全国に展開できるよう、地方支部を含め組織を強化していく。

2. 平成27年度事業活動

- 国内大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、インドア大会、他）での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布

当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、インドア大会、他）、後援した大会（西日本大会、学生大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行った。

②競技会等における環境活動

ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項を記載した。また、式典でのアナウンスも併せて行った。

③事務所における環境活動

ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXによる送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減も心がけている。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布など長い間続けてきた啓発活動により、選手や関係者に環境啓発への理解を得ることができた。また、大会の会場では、自主的にゴミの分別を行う選手が多く見られた。

カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツといえる。そのようなスポーツだからこそ、今後環境問題への意識付けをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。また、地方支部に呼びかけ、全国規模で展開していけるよう、より一層の環境保全に努めていきたい。



(一社) 日本セパタクロー協会

1. 実施概要

日本代表選手やチームを通じて、環境保全のメッセージを伝えたり、競技会場にスポーツと環境に関するポスターを掲示するなど環境啓発活動を推進する。また環境省が推進する「チャレンジ25キャンペーン」を引き継いだ「Fun to Share」の賛同団体として、地球温暖化防止策を念頭に置いて今年度も引き続き活動していく。

2. 平成27年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境保全

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター掲示

本会主催大会および各地方大会において環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレット配布を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動

選手及び来場者へのゴミの削減、分別、持ち帰り等の環境保護の呼びかけを開会式や館内放送等で行った。

③事務所における環境保全

ペーパーレス化の推進で、紙の無駄遣い等をなくしてゴミの削減、クールビズ等で冷暖房などのエネルギー（電気等）節約など環境保全に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスター等の啓発活動により、選手や関係者に理解を得ることができた。また、大会会場ではゴミの持ち帰りや分別が図られるようになってきた。今後は地方大会での啓発活動を含め全国規模で、より一層の環境啓発および環境保全に努めていきたい。

(特非) 日本クリケット協会

1. 実施概要

日本クリケット協会では、環境保全活動の重要性を認識し、スポーツ団体としてできることを考え、活動への取り組みを図った。今後も大会関係者やクラブ関係者にとどまらず、より多くの人に環境保全の啓発を促進し、環境保全意識の向上を図っていきたい。

2. 平成27年度事業活動



- 各種大会やイベントなどにおける啓発活動及び省資源活動の実施
- 事務局における環境啓発ポスターの掲示及び省エネ・省資源活動の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①各種大会やイベントなどにおける啓発活動及び省資源活動の実施
会場において、ゴミの分別や持ち帰りを呼びかけた。また、ドリンクサーバーを用意し、水分補給の際のゴミをできるだけ出さない工夫をした。
- ②事務局における環境啓発ポスターの掲示及び省エネ・省資源活動の実施
事務局の入り口に環境啓発ポスターを掲示した。また、事務局の間取りを変え無駄な照明の消灯、会議等でのペーパーレス化、ゴミの分別やリサイクル、クールビズ及び空調の温度管理を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動の成果として、選手や関係者の意識向上が見られた。また、事務局における省エネ・省資源活動により、節電及びゴミの減少につながった。今後もこうした活動を継続し、スポーツを通じた環境保全に努めていきたい。

(公社) 日本チアリーディング協会

1. 実施概要

日本チアリーディング協会は、地球環境問題の重要性を認識し、スポーツ活動における環境保全に関する啓発と実践活動を推進する。

2. 平成 27 年度事業活動

- ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ②大会プログラムにポスターを印刷・配布
- ③大会会場における分別回収の実施とゴミ持ち帰り運動の促進
- ④省エネ・省資源活動の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
 - ・本協会主催大会において環境啓発ポスター及びバナーを掲示した。
- ②大会プログラムにポスターを印刷・配布
 - ・本協会主催大会プログラムにポスターを印刷・配布し、啓発活動を行った。
- ③大会会場における分別回収の実施とゴミ持ち帰り運動の促進
 - ・本協会主催の大会において会場内のダストボックスの分別を徹底し、ビニール袋使用による回収を実施した。
 - ・大会のアナウンスにおいて、「来たときよりもキレイに！」を呼びかけた。
- ④省エネ・省資源活動の実施



- ・大会会場や控室の照明、空調温度を調整し省エネを実施した。
- ・大会会場の整理・清掃を行い、競技環境の整備を促進した。
- ・加盟団体等との各種事務手続きを電子化し、ペーパーレス、省資源を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスターを大会プログラムに印刷・配布するとともに大会会場に掲示し、啓発活動を行ったことにより、選手をはじめ関係者に環境啓発の理解を得ることができ、スポーツと環境問題に対する認識の向上を図った。

今後も、競技者を初め関係者・関係団体への啓発活動を推進するとともに、計画的な活動を実践し積極的に環境保全に努める。

(公社) 日本パワーリフティング協会

1. 実施概要

世界的にも希な長寿国の本邦に於いて、選手寿命が14歳から90歳に及ぼうとするパワーリフティングを一般社会に紹介しつつ、一般及び中高齢トレーニーの大会参加を促し、数あるスポーツの中でも生涯健康で健やかな生活を送るためのスポーツとして最たるものである旨をアピールする。

日本パラパワーリフティング連盟との連携を強化し、健常者・障害者との交流を図り、パラリンピック出場資格獲得者の増加を目指す。

大会会場として公共体育館・公会堂等をお借りする機会が多々あるが、競技中及び終了後の会場・施設の復原及び清掃・ゴミの持ち帰り等を徹底する。

2. 平成27年度事業活動

- 全日本・ジャパクラシック・ブロック・都道府県及び支部大会に於いて環境啓発ポスターを掲示した。
- 当該大会に於いて出場者のゴミ持ち帰りを開催要項に記載し、上記大会会場で、大会事務局から、大会使用器具撤収時に会場復原を呼びかけ、大会関係者（開催者・出場者）全員参加協力して原状を回復した。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

国体公開競技への昇格に伴い、和歌山広川町で9月20日にパワーリフティング大会を開催し、大盛況であった。

- ①全日本パワーリフティング選手権大会及びその他大会での、ゴミの分別収集を徹底。
- ②健常者・障がい者の交流大会を日本各地で数回実施し、お互いの相互理解を深めた。
- ③東京都春季ベンチプレス大会会場としてお借りした小学校の生徒たちに、体験コーナーにて、実際にベンチプレスの手ほどき等をパラリンピック出場者が実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題



- ・2018年度世界ベンチプレス選手権大会実施のための準備作業の本格化
- ・全日本規模の大会出場者数の増加
- ・施設提供者との良好な関係維持
- ・日本パラパワーリフティング連盟と連携し、障がい者がスポーツにいそしめる環境を構築していく

(一社) 日本フライングディスク協会

1. 実施概要

日本フライングディスク協会は、砂浜を使用して競技する『ビーチアルティメット』中心に環境活動に取り組み、競技者、関係者に対し環境保全意識の啓発活動を実施してきた。平成27年度からは、協会内に環境委員会を設置し環境活動に取り組み中。

2. 平成27年度事業活動

- 大会会場でのエコフラッグの掲示
- 大会参加者による会場周辺清掃活動
- ゴミの分別廃棄の徹底、及びゴミ持ち帰り推奨
- 協会事務局のペーパーレス化推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

〈ビーチアルティメットフレンドシップ湘南2015 第16回 EBASHI - CUP〉

2015年5月9日～10日

主催：かながわビーチディスクフェスティバル実行委員会

主管：神奈川県フライングディスク協会

会場：神奈川県藤沢市 湘南・鵠沼海岸

- ・参加者全員（男性436名 女性305名 合計741名）によるビーチクリーン（砂浜清掃）
- ・チームエントリー条件の一項目として「参加者全員で、ビーチクリーン活動を積極的に行うこと」を明記
- ・ビーチクリーン時に見つけた貝殻やビーチグラスを使って、ビーチコーミング* コンテストも実施、表彰
- ・正しく分別出来るよう、分別表を明示
- ・毎年継続して実施しており、参加者に浸透している

*ビーチコーミング（Beach combing）とは
海岸などに打ち上げられた漂着物を収集の対象にした
り観察したりする行為。漂着物を加工したり装飾に
して楽しむと同時に、環境問題への気づきの機会となる。





4. 全体的な成果と今後の課題

神奈川県藤沢市の鵜沼海岸で開催された競技会にて大学生から40歳代までの競技者（約750名）全員が同じ時間帯に清掃を実施。環境保全への意識の醸成につながった。

今後は大会会場での活動だけでなく、日常生活の行動に良い影響が与えられるよう、工夫して活動を推進していきたい。

（一社）日本サーフィン連盟

1. 実施概要

各支部が中心となり「NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT」を開催しゴミのないビーチ、ゴミを捨てないビーチの実現を働きかけ、全国一斉ビーチクリーンを開催している。

次の時代を担う、これから生まれてくる子ども達にも思いっきりサーフィンを楽しんでもらうために『サーファーはこの海を守る！キレイな海は私達が守る！』そうした気持ちを込めて活動している。

2. 平成27年度事業活動

●ビーチクリーン

平成27年9月13日（日）に全国一斉ビーチクリーンを実施

●広報活動

- ・日本サーフィン連盟オフィシャルHPに活動実績報告掲載
- ・全国のサーフショップへフライヤー、ポスター配布

3. 具体的な活動実施内容とその成果

主催：一般社団法人日本サーフィン連盟

協力：日本サーフィン連盟 70支部

実施日：平成27年9月13日（日）

実施場所：全国サーフポイント 120カ所

参加人数：約7,000名

平成27年、9回目（9年連続）を行い、サーファーだけではなく、地域の方々にも賛同・参加いただき、環境保全の大切さを呼びかけ、清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

全国一斉ビーチクリーンは平成27年で9回目を迎え、協力してくれる方も増えてきた。

現在7,000名のビーチクリーン参加者を増やし、多くの方々、企業、行政と手を組み、10,000名の参加者を目指し、サーファーだけでなくすべての人に海の清掃を日ごろから心がけてもらえるように努めていきたい。



(2) JOCスポーツ環境専門部会員の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

西山 雄二 部会員

「2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」参加選手を巻き込んだ環境活動

1. チャリティー募金の活用

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会では、スイム特設会場である山下公園海域の、より豊かな海づくりに寄与することを目的とし、チャリティー枠（150 枠）を設け参加者を募集した。

参加者からいただいたチャリティー募金を山下公園前海域の環境改善に向けた研究や清掃活動に取り組んでいる団体に贈呈することとし、2015 年度は、トライアスロンチャリティーで得られた資金を、30 年以上にわたり「山下公園海底清掃大作戦」を実施してきた「海をつくる会」と横浜市立大学と民間企業が行っている共同研究「山下公園前海域等における海域環境改善の調査研究」に贈呈した。



山口宏横浜市体育協会会長（右）より「海をつくる会」への贈呈

2. トライアスロン大会開催による二酸化炭素（CO₂）排出量の削減

大会運営者や参加者の会場までの移動により生じる CO₂ 排出量を金額に換算し、参加選手による任意の寄附金で CO₂ をオフセットする取組である。2015 年大会では、参加選手の約 70% の賛同をいただいた。

CO₂ をオフセットする参加選手及び大会事務局側のメリットとしては、

【参加選手】

- ・競技環境の向上（大会の実施に不可欠な「きれいな海」の確保）
- ・参加者の満足度向上（環境活動に参加している意識向上）

【大会事務局】

- ・大会運営の方向性…「環境に配慮した持続可能大会運営」の方向性と一致
- ・先進的な取り組み…ブルーカーボンをクレジット化する世界初の取組に参加

クレジット購入が CO₂ 削減による温暖化防止だけでなく、水質浄化や親しみやすい海づくりにもつながる。

- ・地域貢献…大会会場の周辺で環境活動を行う団体等を支援。

がある。

3. グリーントライアスロン（大会 1 か月前イベント）の開催

自然環境にやさしいトライアスロン大会をめざして、大会 1 か月前の平成 27 年 4 月にメイン会場である山下公園、及びスイム会場となる山下公園前海域を会場に開催した。

トライアスロン大会という注目されるスポーツイベントを通じて、より多くの方に地球環境、特に海への環境への意識を高めていただくことを目的とし、ダイバーによる海底清掃、横浜海上保安部・



グリーントライアスロンでの開会挨拶（西山雄二横浜市市民局長）



海底清掃で回収したゴミ



横浜市消防局による消防艇放水デモンストレーション、海中映像中継、そしてスイムコース試泳等実施した。

今後の大会運営の中でも、環境に優しいトライアスロン大会を目指して環境に特化したチャリティー募金及び二酸化炭素削減への取り組みを継続して行っていきたい。

《参考》

横浜市におけるトライアスロン大会開催を契機とした海域環境改善の取り組みの紹介

1960年代、横浜港の水質汚濁は頂点に達していたが、公共下水道の整備や工場排水の規制等により、水質は大幅に改善した。2009年、開港150周年を迎えた横浜市は、その記念事業として山下公園前海域をスイム会場とするトライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会を開催することとなり、海域のより一層の水質改善が求められた。

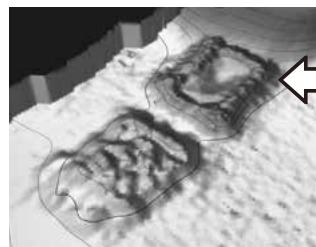
○海域環境改善の取り組み

2009年大会では、スイムコース全体を水中スクリーンで仕切った実験海域を設定し赤潮や降雨時の濁水の影響を排除しスイム会場とした。



現在では、海域生物の浄化能力に着目し、将来にわたり継続して効果が得られる多様な生物の生息する浄化能力の高い海づくりを目標に、海域の生物、水質、海底地形などの調査と共に再生資材等を用いた生物付着基盤の設置や底質改善の実験に取り組み、その効果を確認しつつある。

海域環境改善の取り組みは、横浜市環境創造局、温暖化対策統括本部、横浜市立大学、市民団体等と連携し進めているが、山下公園前の海底に浄化能力改善に向け設置した再生資材による浄化実験施設では、水質浄化に寄与する藻類や魚貝類の生息数や種類に増加が確認された。また、海底の深浅測量の結果から、公園護岸から100mほどの地点に水深3m以浅の海底が約2500平方メートルほどあることが判り、今後は、この浅場を利用し、さらなる浄化能力の拡大が出来ないか、検討していきたい。



海底に設置した再生資材の3D図



山下公園前海域の3D鳥瞰図(深浅測量)



山下公園前海底にワカメの海中林



マナマコ (多いところでは1mに10匹)



松岡 修造 部会員

日本テニス協会における啓発活動

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓発活動を積極的に行った。

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ開催概要

日程	対象	会場
2015年6月9日（火） ～12日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された12歳以下の男子ジュニア選手18名	クラブヴェルデ
2015年9月22日（火） ～27日（日）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された17歳以下の男子ジュニア選手23名	荏原湘南スポーツセンター
2016年3月1日（火） ～4日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手15名	味の素ナショナルトレーニングセンター





宮下純一 部会員

1. 実施概要

JOC スポーツ環境専門部会委員、JOC スポーツ環境アンバサダーとして、「第 11 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」において、コーディネーターをさせていただいた。JOC パートナー都市である帯広市のスポーツ関係者の皆さんと共に、3名のオリンピックパネラーとのディスカッションを通して、スポーツ界における地球環境保全の必要を感じていただいた。

2. 平成 27 年度の活動

「第 11 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」平成 27 年 11 月 21 日

場所：帯広市 とかちプラザ レインボーホール

3. 具体的な活動内容と成果

スピードスケートの鈴木靖さんとスノーボードの鶴岡剣太郎さん、トライアスロンの上田藍さん 3名のオリンピックパネラーの皆様と約 1 時間の基調対談を行い、3名それぞれの競技を通しての、競技と環境とのかかわりのエピソードを話していただいた。夏季、冬季と環境に関するエピソードが違い、競技を続けていくためには自然環境の維持が大切だということを感じた。

トライアスロンの上田藍さんは、大会誘致のために手賀沼が水質改善を行い、大会開催ができた事例を、スノーボードの鶴岡剣太郎さんは、フランスでの海外生活で感じた日本とフランスの環境への意識の高さを、環境に関するキーワード「3R」を紹介しながら説明された。スピードスケートの鈴木靖さんは、2017年に開催される冬季アジア大会札幌大会（帯広市ではスピードスケート開催予定）の運営委員として大会運営の中で、実際に話し合われている環境対策を紹介された。

セミナー開催前に、JOCの方を通して、話したい伝えたい内容を共有して、台本上に反映させることができたため、聞いている方々も聞きやすかったとの感想をいただいた。会場には地元の高校球児たちも参加して、これからの世代にも環境とスポーツを考える機会になったと感じている。

4. これからの課題

会場に空席が見られたので、もっと広報活動を行い、多くの方に聞いていただきたいと感じた。今実際に競技を行っている現役選手をパネラーに加えることで自身も競技を続けていく中で、自然環境を考えるきっかけになると思う。

平成 28 年度は、2016 年リオデジャネイロオリンピックメダリストに参加していただき、多くの子どもたちに、メッセージを伝えると大きな成果につながると思う。



(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

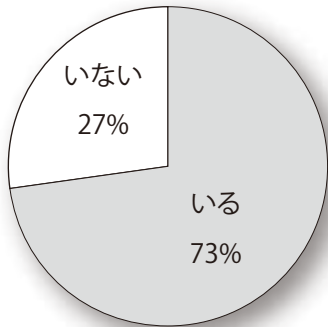
平成27年度JOC加盟団体63団体(準加盟団体、承認団体を含む)を対象に、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。本アンケートは、環境活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立っている。

その約7割以上の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると回答を得た。

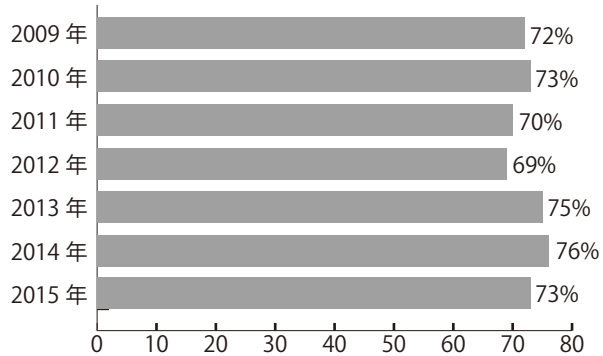
●環境委員・環境保全プロジェクトについて

スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか

(n=63)



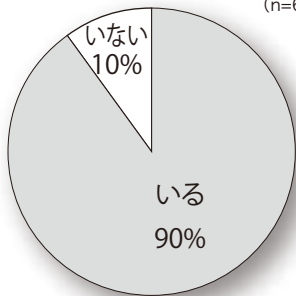
スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか



●日常活動の取組みについて

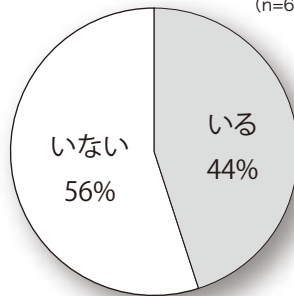
①啓発活動の一環として事務局に環境ポスターを掲示していますか

(n=63)



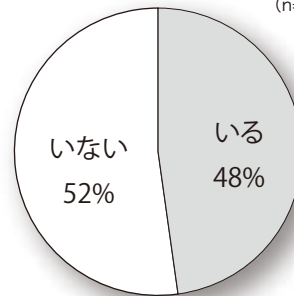
②機関誌等に環境保全に関する内容(環境ポスター等)を掲載していますか

(n=63)



③影響力のあるトップ選手等に環境保全への啓発を依頼していますか

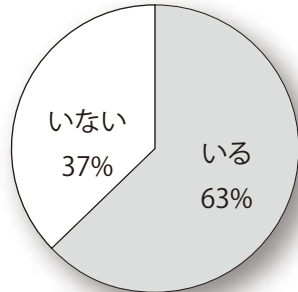
(n=63)





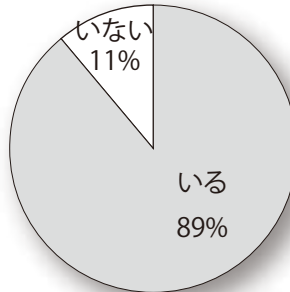
④都道府県協会や加盟団体と連携して環境保全の啓発活動をしていますか

(n=63)



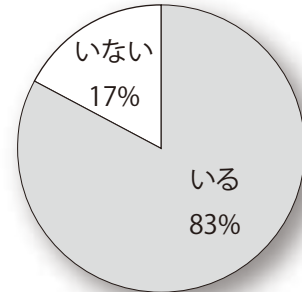
⑤事務局においてコピー用紙使用の削減の取組みをしていますか

(n=63)



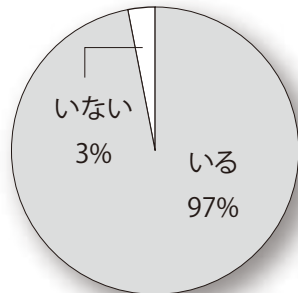
⑥事務局において環境に配慮した印刷の取組みをしていますか

(n=63)



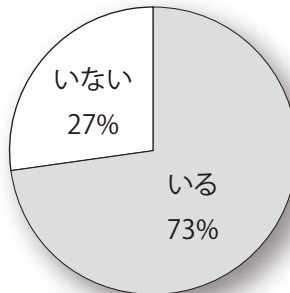
⑦事務局において電気使用量の削減の取組みをしていますか

(n=63)



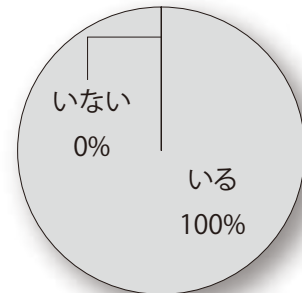
⑧事務局において環境に配慮した用品・用具の使用をしていますか

(n=63)



⑨事務局においてゴミの分別を実施していますか

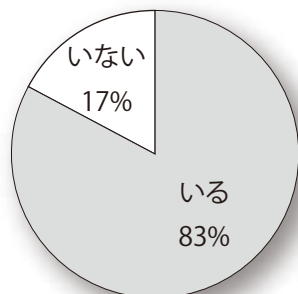
(n=63)



●主催イベント(大会等)の取組みについて

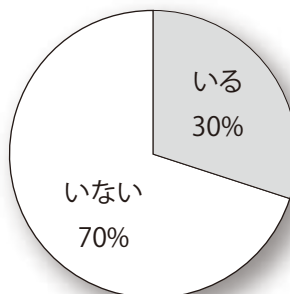
①イベント会場に環境ポスター・環境の横断幕を掲示していますか

(n=63)



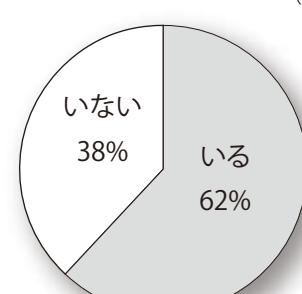
②イベント会場で環境保全に関する展示等をしていますか

(n=63)



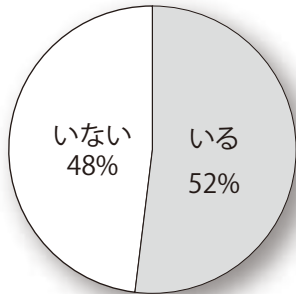
③参加者へのアナウンスの中で環境保全への協力を呼びかけていますか

(n=63)

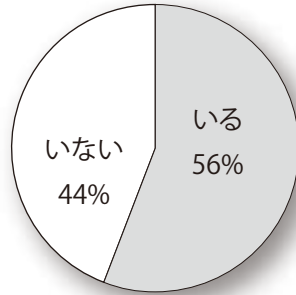




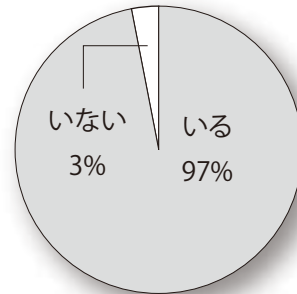
④競技・運営役員等に対し環境保全の重要性を認識してもらう取り組みを行っていますか (n=63)



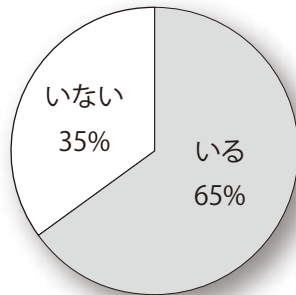
⑤主催大会のパンフレットに「環境ポスター」を掲載していますか (n=63)



⑥イベント会場において、ゴミの分別を行っていますか (n=63)

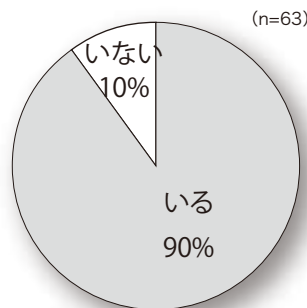


⑦競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮を何かしていますか (n=63)

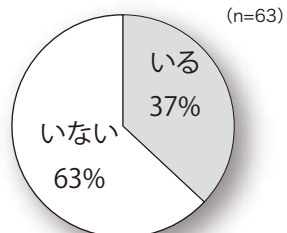


● JOCスポーツ環境専門部会活動報告書の活用について

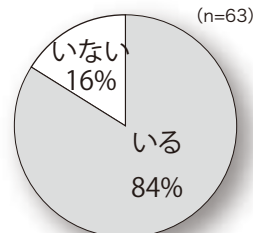
JOCスポーツ環境専門部会「活動報告書」を活用していますか



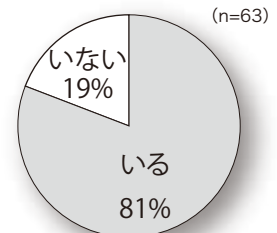
(ア) 報告書の一部をコピーして関係者に配布している



(イ) 活動の参考として参照している



(ウ) いつでも閲覧できるように設置している





(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

【プラス 1 分間スピーチ】

ご挨拶の中に1分間をプラスして、下記の『環境保全ポスター』の紹介と協力依頼をお願いします。

さて、最後に皆様はこのポスターをご存知でしょうか？

我々●●協会は、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携して、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感をもち、将来にわたってスポーツ（または競技名）を楽しめる環境を守るために、環境保全の啓発活動に取り組んでいます。

「来たときよりもキレイに！」というこのポスターのフレーズには、単純に「キレイにしましょう！」ということではなく、『スポーツの未来を考え、いまの環境を大切にしていこう！』という、スポーツを通じた持続可能な社会づくりへの大きなメッセージがこめられています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと●年、東京2020大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会でもあります。

皆様には、環境保全の大切さを理解し、エネルギー・資源の節減やゴミの分別など、できることから実行していただきたいと思います。そして、できれば我々スポーツ（または競技名）を愛するものが、模範的活動を推進し、社会の中で環境保全のリーダーとなることを願っています。





スポーツと環境について 15分レクチャー原稿

15分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私たちは全員地球人です（宇宙船地球号の乗組員）

- ① 46億年前に地球は形成されました。
- ② 300万年前に人類が地上に出現しました。
- ③ 1万年前に大家族制による農業革命が起こりました。
- ④ 20世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした。
- ⑤ 便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費することによって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。
- ⑥ 環境問題を列記してみましょう。
 - a. 地球温暖化
 - b. オゾン層破壊
 - c. 酸性雨
 - d. 野生生物種の減少
 - e. 森林の減少
 - f. 地球規模の砂漠化
 - g. 海洋汚染
 - h. 有害廃棄物の越境移動
 - i. 大気汚染

2. スポーツと環境についての理解

- (1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人
 - ① スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。
 - ② 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。
- (2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります
 - ① 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行くことは不可能なのです。
 - ② ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
 - ③ よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。
- (3) Think globally, Act locally（地球規模で考え、身の回りのできることを実行する）
 - ① 環境保全を推進するにあたり大切なことはまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、またその原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
 - ② そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。

3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

1. 1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。
2. 1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）。
3. 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
4. 1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。
5. 1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。



6. 1994年IOC100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催。
7. 1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。
8. 1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。
9. 1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
10. 1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオデジジャネイロ）でOlympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された。
11. 2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
12. 2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
“Give The Planet A Sporting Chance”Olympic Movement's Agenda 21の実践。
13. 2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者（選手、役員、IOC、IF、NOC、NF、OCOG、地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。
14. 2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
15. 2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
16. IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。
17. IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。
18. IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明
19. 2009年第8回IOCスポーツと環境世界会議をカナダ・バンクーバーで開催
20. 2011年第9回IOCスポーツと環境世界会議をカタール・ドーハで開催
21. 2013年第10回IOCスポーツと環境世界会議をロシア・ソチで開催
22. 2014年9月IOCスポーツと環境委員会にて新しくモナコ・アルベール王子が委員長に就任
23. IOCは2015年アジェンダ2020改革に持続可能性を非常に重要視し、40項目のうちの2項目を持続可能性を強調・協働することを明記した。

4. 協力依頼

- (1) まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう
- (2) 「持続可能な開発」と「持続可能性」
 - ① 『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。
 - ② 『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。
- (3) 循環型社会の形成
 - ① これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。



②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約 25 日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環していることになります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返すことにより新しい資源の節減が図られるのです。

(4) ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。

②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。

③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に 3R (Reduce、Reuse、Recycle) の実行。

a. ・削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)

b. ・再使用 (Reuse)。同じ物をできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着ることができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

c. ・リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)

(6) 夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

a. ・冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をすることで暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)

b. ・夏はできるだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げることができます。(クール・ビズ)

(7) 温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。



スポーツと環境について

1. 私たちは全員地球人です(宇宙地球号の乗組員)

2. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

(2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

(3) Think globally, Act locally(地球規模で考え、身の回りのできることを実行する)

3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

4. 協力依頼

(1) まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう

(2) 「持続可能な開発」と「持続可能性」

(3) 循環型社会の形成

(4) ゼロ・エミッション

(5) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

(6) 夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

(7) 温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう

【参考：レクチャーのレジュメ(例)】



レクチャーのための参考資料 (第11回スポーツと環境担当者会議資料より抜粋)

スポーツと環境の関係

1. スポーツが環境に与える影響

- 大規模なスポーツ施設の建設やスポーツ大会の運営による地球環境への影響
- スポーツへの参加を通じた自然環境や地球環境への関心の高まり
- 国際大会を通じた、多様な世界や人々との分かち合いの大切さの実感

2. 環境の変化がスポーツに与える影響

- 大気汚染・水質汚濁等の公害問題の進行による屋外競技への影響
- 地球温暖化の進行による冬季競技への影響
- 地球環境問題の深刻化による世界各国の不安定化

取組の考え方

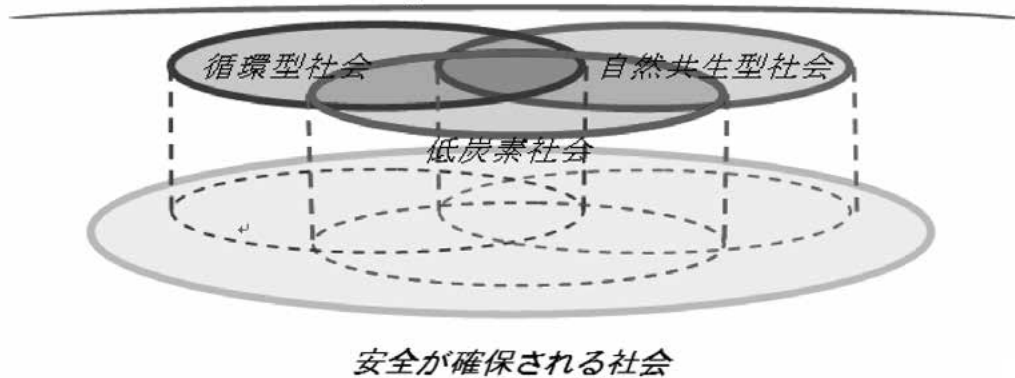
- スポーツ施設を環境への負荷の少ないものに
 - ・ 適正な規模、資材等を用いて、環境への負荷を最小限に
 - ・ 自然の力と最高の技術を活用した快適さの追求
- スポーツの大会を環境の負荷の少ないものに
 - ・ ゴミを出さない …… まずは、簡単なところから。来た時よりも美しく。
 - ・ 省エネ、リサイクル …… 大会主催者全員が真剣に取り組む。
 - ・ カーボンオフセット …… 大会が環境に与える影響をトータルで把握する。
- スポーツの機会を活用した環境教育・学習
 - ・ 普及啓発活動における影響力
 - ・ ESD(持続可能な開発のための教育)



持続可能な社会とは

- 今日の社会が地球規模での環境問題である「地球温暖化の危機」、「資源の浪費による危機」、「生態系の危機」の三つの危機に直面しており、それぞれの危機から脱却し、人間社会の発展と繁栄を確保していくためには、「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然共生社会」を構築することが、持続可能な社会を実現するために必要。
- これら三つの社会は独立しているものではなく、相互に関係していることから、それらに向けた取組を統合的に展開していくことが不可欠。
(第4次環境基本計画【平成24年4月27日閣議決定】より抜粋)

持続可能な社会



オリンピック・アジェンダ2020 20+20の提言(抜粋)

「オリンピック・アジェンダ2020」は、2014年12月にモナコで行われた第127次IOC総会において採択された20+20の改革案です。これら40の提言は、オリンピック・ムーブメントの未来に向けた戦略的な工程表を示しています。

提言4: オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性に関して、より一層積極的な姿勢を取り、指導的な役割を担う。また、持続可能性がオリンピック競技大会の開催計画の策定と、開催運営のすべての側面に取り入れられることを保証する。

提言5 オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する

IOCはIOCの日々の業務活動に持続可能性を取り入れる。

IOCは、オリンピック・ムーブメントの関係者に対して各自の組織内に、またその業務活動に持続可能性を導入させ、その援助を行う。

上記を実現するため、IOCはUNEPなどの関連する専門組織と協力する。



5

IOC 持続可能性とレガシー委員会について

IOC Sustainability and Legacy Commission

IOCは「オリンピック・アジェンダ2020」を2014年12月にモナコで採択し、持続可能性に関するIOCの取組を「提言4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する」と、「提言5：オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する」として明記するとともに、オリンピックにおける持続可能性の重視をより一層明らかにするため、「IOCスポーツと環境委員会」を「IOC 持続可能性とレガシー委員会」に改名いたしました。



2015年11月に開催された第1回目の「IOC 持続可能性とレガシー委員会」の冒頭でトーマス・バッハ会長から丁寧な挨拶とともに、2015年9月に国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の説明がありました。IOCは「持続可能性とレガシー委員会」の座長であるモナコ皇太子とともに、このSDGsの策定に向けた議論に加わり、SDGsの2030アジェンダ宣言のなかで「スポーツが社会の進歩に果たす役割」としてスポーツが持続可能な開発の重要な鍵になっていると明記されました。

その後、「オリンピック・アジェンダ2020」の持続可能性戦略の実施に向け、具体的な取組の紹介を含めた議論が交わされました。提言5のオリンピック・ムーブメントにおいて、持続可能性の目標達成には、IOCはIFやNOCなどとともに手を携えて進めていかなければならない認識を持っており、委員からも大きな期待が示されていました。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、提言4で示された通り持続可能な大会の実現に向けて、IOCを始め東京都や政府、さらには各種団体等と連携し、「持続可能性に配慮した運営計画」や「持続可能性に配慮した調達コード」等の策定を進めていきます。

IOC 持続可能性とレガシー委員会 委員
JOC スポーツ環境専門部会 部会員
(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会準備運営第一局 持続可能性部長
田中 丈夫



6

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組み

Activity for Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games

第12回スポーツと環境担当者会議資料より抜粋

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会準備運営局 持続可能性部長

田中 丈夫

■「持続可能性」とは何か

■「持続可能性」とは何か

【言葉の定義】

- 1987年に「国連環境と開発に関する委員会（通称：ブルントラント委員会）」が報告書『Our Common Future（我々共通の未来）』を発表
- その中で「Sustainable Development（持続可能な発展）」とは、「将来世代のニーズを損なうことなく 現在の世代のニーズを満たす発展」と定義

要するに、「将来世代のことを考えて、「環境」や「社会」、「経済」のバランスを考慮した行動を選択しましょう」ということ

【IOCの動向】

- 1994年、IOCは、パリで開催されたオリンピック100周年会議において、「スポーツ」「文化」に加え、「環境」をオリンピック精神の第三の柱とすることを宣言
- 2007年、IOCは、「ICOスポーツと環境・競技別ガイドブック」を作成。その中で、「環境」と「持続可能な開発」の両方への配慮が必要と明記
- 2014年12月、IOCは「環境」を含む大きな概念として「持続可能性」とを捉え、「Agenda2020」の中で、持続可能性に関するIOCの取組を明記し、オリンピックにおける持続可能性の重視をより明確化
- 2015年9月、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」において、スポーツがこの目標達成の重要なツールであることが明記されたことを受け、バッハ会長自ら国連にてスピーチ

【過去大会の状況】

- 2012年に開催されたロンドン大会は、「One Planet Living（地球1個分の暮らし）」をテーマに掲げ、「環境」以外の分野も含めた「持続可能性の確保」に最初に取り組んだ夏季オリンピックと称されている。



【大会における「持続可能性」の重要性】

- 今日の「持続可能性」の概念は、環境負荷の最小化や自然との共生、環境意識の啓発等、環境の側面だけでなく、人権や労働環境への配慮、サプライチェーンの管理等まで意義が拡大 ⇒ オリンピック・パラリンピック大会も例外ではない
- オリンピック・パラリンピックは世界中の注目を集めるイベントであり、NGOやNPOを含め多くの人々が強い関心を持つ。持続可能性に配慮した取組は、東京大会の準備・運営だけでなく、その後の評価に直結
 - 持続可能性に配慮しない行為があれば、東京大会の評価に大きな影響があるだけでなく、オリンピック・パラリンピックの価値をも棄損する可能性あり(＝レピュテーション・リスク)

■東京2020大会における持続可能性

・東京や日本の独自性のアピール(世界への発信)

持続可能性部門におけるタスク

- ・ 東京2020大会を持続可能なものにするための「計画」の策定
- ・ 東京2020大会において調達する物品サービスに関する「基準」の策定
- ・ 持続可能なイベントマネジメントに関する国際規格(ISO20121)の導入
- ・ 東京2020大会が及ぼす影響の調査(OGI調査)の実施

◆「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」の概要

- 「持続可能性に配慮した運営計画」の策定にあたり、具体的な内容を検討していくための道筋や論点を示したもの

< 東京2020大会が目指すべき持続可能性の方向 >

- 環境だけでなく、社会、経済の側面を含む
- 東京の特徴を活かす
(充実した都市基盤・安全性、おもてなし・もったいないといった日本的価値感、最先端テクノロジーの活用など)

< 想定される計画の論点 >

- 「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」を含む世界的な議論の潮流やDGでの議論を踏まえ、以下の5項目を主要なテーマとして想定
 - ・ 気候変動(ローカーボンマネジメント)
 - ・ 資源管理
 - ・ 水・緑・生物多様性
 - ・ 人権・労働・公正な事業慣行等への配慮
 - ・ 参加・協働、情報発信(エンゲージメント)



▶ 最後に

- 東京2020大会を持続可能性に最大限配慮した大会にするためには、関係者や選手の方々、各NFのご支援・ご協力が不可欠です。
- 持続可能性に配慮したアクションの中でも重要なものが、「環境に対する意識の向上や具体的な取り組み」です。
- 東京2020大会に向け、各NFの関係者と連携し・協働し、更なる「環境に対する意識の向上」を目指して、啓発活動に取り組んでまいります。

東京 2020 大会開催基本計画（2015 年 2 月）より抜粋

第4章 大会を支える機能(ファンクショナルエリア)

持続可能性 (SUS)

1. ミッション (Mission)

持続可能なオリンピック・パラリンピック競技大会を計画、運営できるよう東京 2020 組織委員会の活動をサポートし、東京都や他の主要な関係機関との連携の下、東京 2020 持続可能性計画を推進する。さらには国内外の将来にプラスの効果をもたらすレガシーの目標達成を促進させるために東京 2020 組織委員会各部門の取組をサポートする。

2. 主要目標 (Key Objectives)

- 1 多様で広範囲に渡る東京 2020 持続可能性計画について、早期から各 FA 及び外部のステークホルダー・パートナーに共有し、大会運営や組織運営全体に盛り込むこと。
- 1 持続可能な大会を実施し、大会後に残された持続可能な実践と運用の仕組等を未来へと伝えることにより、オリンピック・パラリンピックの価値を強化すること。
- 1 東京 2020 持続可能性計画を通して、レガシーを生み出すベストな環境を構築すること。
- 1 グリーンな大会の実施と環境にやさしい会場を確保することによって、持続可能な社会の重要性を日本に浸透させること。
- 1 ISO20121 の枠組を導入し、東京 2020 組織委員会内のイベントマネジメントシステムを構築すること。
- 1 持続可能な生き方、働き方、楽しみ方について意識を高め、社会的な啓発を行うため東京 2020 大会の計画や開催を活用すること。



3. 主要業務・役割 (Key Tasks)

業務・役割	大会前	大会中	大会後	パラリンピックにおける相違点
主要なステークホルダーと協力しながら、東京 2020 持続可能性計画を含む持続可能性に関する計画について戦略的な策定を主導する。	✓			
オリンピック大会影響調査（パラリンピック関連項目を含む）を実施する。	✓	✓		
ISO20121 の認証を含め、持続可能性マネジメントシステムを調整し、構築する。	✓	✓		
東京 2020 組織委員会スタッフ及びボランティアを対象とした持続可能性に関する研修プログラムを策定・提供し、組織内部の情報源として各 FA をサポートする。	✓			
関係 FA と連携し、持続可能性の取組や日本の伝統・文化・最先端テクノロジーなどの活用を通じて、先進都市の発展に貢献する。	✓	✓		
東京 2020 組織委員会全体の持続可能性の取組に関する進捗を確認するために、モニタリング及び状況報告の仕組みを構築する。	✓			
持続可能性に係るコミュニケーションやエンゲージメント活動の一環として、持続可能性教育と持続可能性に対する意識啓発プログラムを策定する。	✓	✓		

第6章 アクション&レガシー

6.1 アクション&レガシープラン

東京 2020 大会は、単に 2020 年に東京で行われるスポーツの大会としてだけでなく、2020 年以降も含め、日本や世界全体に対し、スポーツ以外も含めた様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会として成功させなければならない。そのためには、東京 2020 組織委員会のみならず、政府や東京都を含む地方公共団体、JOC・JPC 等のスポーツ団体、経済団体等のステークホルダーが、東京 2020 大会の成功に向けて「オールジャパン」体制で様々なアクションに取り組んでいかなければならない。

東京 2020 組織委員会は、多様なステークホルダーが連携して、レガシーを残すためのアクションを推進していくために、「スポーツ・健康」「街づくり・持続可能性」「文化・教育」「経済・テクノロジー」「復興・オールジャパン・世界への発信」の 5 本の柱ごとに、各ステークホルダーが一丸となって、計画当初の段階から包括的にアクションを進めていくこととした。

具体的には、これらの 5 本の柱ごとに「実務検討会議 (Working Team)」と「専門委員会 (Commission)」の 2 段階の会議を置く。

前者は、各ステークホルダーの実務担当者によって構成される会議であり、それぞれが具体的なアクションを提案する。後者は、主に専門家や有識者を中心として構成される会議で、ステークホルダーも参加し、実務検討会議で提案されたアクションに対して助言を加え、最終的には、2016 年から 2020 年までの具体的なアクションと 2020 年以降のレガシーを「アクション&レガシープラン」として 2016 年中期にとりまとめる。

各ステークホルダーは、2016 年のリオ・デ・ジャネイロ大会以降、それぞれプランに基づきアクションを本格化する。東京 2020 組織委員会は、以後、毎年 3 月に翌年度のアクションを中心にプランを更新し、アクションの成果や影響についても掲載していく。

アクションの成果であるレガシーについては、大会後のフォロー体制も含め、後に「レガシーレポート」としてとりまとめられる。

各ステークホルダーがレガシー&アクションプランに基づき、それぞれのアクションを推進し、大



会運営を成功させた暁には、東京大会のレガシーが様々な分野で継承されることになる。

16.2 プランに盛り込まれるレガシーとアクション

本項では、大会を成功させるためのアクションを、それを通じて実現、継承されるレガシーの方向性ごとに分類して例示した。

いずれもビジョン構築の過程で提案された東京大会によってつかみたい「Tomorrow」をベースとした現時点での例示であり、具体的な内容やどのステークホルダーが責任を持って実施していくのかについては、前項で述べた実務検討会議と専門委員会において、政府、東京都、JOC、JPC、経済団体等を交えて十分に論議し、アクション&レガシープランにおいて明確化していく。

6.2.2 街づくり・持続可能性

(1) 大会関連施設の有効活用

(アクションの例)

- ① 周辺地域の街づくりとの連携や大会後の有効活用を想定した大会関連施設の整備
- ② 仮設施設に用いられた資材、設備等の後利用の積極的な検討

(2) 誰もが安全で快適に生活できる街づくりの推進

(アクションの例)

- ① アクセシビリティを重視した競技施設や選手村の整備
- ② 交通機関や公共施設等のバリアフリー化の推進
- ③ 多言語対応の推進による外国人旅行者の言葉の壁の解消
- ④ 会場周辺等の道路、鉄道等の交通インフラや空港・港湾等の整備・充実
- ⑤ 会場周辺等における良好な景観、魅力ある公園、緑地や水辺等の保全・創出
- ⑥ 大会期間中の災害やテロ、サイバー攻撃等を想定した、官民一体となったセキュリティ体制の構築と治安基盤の強化
- ⑦ センター・コア・エリア内、競技会場周辺、主要駅周辺の道路、緊急輸送道路等の無電柱化の推進

(3) 大会を契機とした取組を通じた持続可能性の重要性の発信

(アクションの例)

- ① 3R (Reduce, Reuse, Recycle) の徹底や、燃料電池車、再生可能エネルギーといった環境技術の活用など大会の準備や運営への持続可能性の反映
- ② 大会での取組をモデルとした更なる省エネルギー化の推進
- ③ 路面温度の上昇を抑制する機能をもつ舗装の整備など、選手や観客への暑さ対策の推進
- ④ 水素などスマートエネルギーの導入に係る取組の推進



7

関連資料

Reference

(1) JOCスポーツ環境活動者一覧

JOC Activities Person of Sport and Environment

JOCスポーツ環境専門部会

JOC Sport and Environment Commission

平成 28 年 3 月現在

役職名	氏名	所属
部会長 Chairman	野端 啓夫 Hiroo NOBATA	一般財団法人 全日本野球協会 Baseball Federation of Japan
副部会長 Vice_Chairman	山口 香 Kaori YAMAGUCHI	筑波大学 University of Tsukuba
部会員 Member	大津 克哉 Katsuya OTSU	公益財団法人 日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	風間 明 Akira KAZAMA	公益財団法人 日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
〃	鎌賀 秀夫 Hideo KAMAGA	公益財団法人 日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
〃	齋藤 由紀 Yuki SAITO	公益財団法人 日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
〃	迫田 義人 Yoshito SAKOTA	公益財団法人 東京都バレーボール協会 Tokyo Volleyball Association
〃	田中 丈夫 Takeo TANAKA	公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games
〃	玉利 聡一 Toshikazu TAMARI	公益財団法人 日本サッカー協会 Japan Football Association
〃	永井 真美 Mami NAGAI	公益財団法人 日本セーリング連盟 Japan Sailing Federation
〃	西山 雄二 Yuji NISHIYAMA	横浜市市民局 Yokohama Civic Affairs Bureau
〃	松岡 修造 Shuzo MATSUOKA	IMG International Management Group LLC,
〃	宮下 純一 Junichi MIYASHITA	株式会社 ホリプロ Horipro Inc.
〃	宮沢 賢一 Kenichi MIYAZAWA	公益財団法人 全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
〃	山崎 秀樹 Hideki YAMAZAKI	公益社団法人 日本トライアスロン連合 Japan Triathlon Union



本会加盟団体(スポーツ環境担当者)

National Federation

平成 28 年 3 月現在

団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員ほか	事務局
(公財) 日本陸上競技連盟	事務局長/風間 明	鈴木 英穂、森谷 真咲、中村 仁	中村 仁
(公財) 日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長/齋藤 由紀	副委員長/— 委員/佐野 和夫、泉 正文、坂本 要、鷺見 全弘、 岩崎 恭子、伊藤 正明、山口 善久、守谷 雅之、 江口 和美、原田 由梨、草分 容子、長谷川 雪恵、 有久 暢、野原 亨、丸笹 公一郎、林 正洋	小川 知伸
(公財) 日本サッカー協会	社会貢献委員会 委員長/日比野 克彦	委員/村松 邦子	玉利 聡一
(公財) 全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長/宮沢 賢一	—	宮沢 賢一
(公財) 日本テニス協会	総務委員会 スポーツ環境担当 委員長/高橋 甫	副委員長/浅井 良樹 委員/大津 克哉、千葉 輝夫	大石 英代
(公社) 日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長/竹内 浩	副委員長/— 委員/小澤 哲史 (アドバイザー)、 赤津 杏奈 (スタッフ)、興梠 裕一 (スタッフ)、 尾崎 英夫 (スタッフ)、栗林 健太郎 (スタッフ)	荻谷 裕子
(公社) 日本ホッケー協会	総務委員会 環境部 委員長/瀧上 正志	副委員長/馬場 治男、濱田 清二、井上 貴志 委員/一谷 徹、宮田 知、織井 隆司	安岡 裕美子
(一社) 日本ボクシング連盟	環境委員会 委員長/山根 明	副委員長/古森 照夫 委員/山本 浩二、内海 祥子	内海 祥子
(公財) 日本バレーボール協会	環境委員会 委員長/迫田 義人	主 事/吉江 友秋 委員/大久保 裕二、徳武 聡、森田 利雄	鍛冶 良則
(公財) 日本体操協会	総務委員会 委員長/遠藤 幸一	—	八木沢 則子
(公財) 日本バスケットボール協会	総務部総務企画 G 総務部長/江藤 芳浩	副委員長/— 委員/長谷川 洸世	長谷川 洸世
(公財) 日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長/鈴木 民生	副委員長/本間 康彦 委員/佐々木 正隆、和田 正生、新田 俊彦、 富樫 惣一、山崎 弘雄、加藤 真弓	森村 直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長/中村 慎	副委員長/村上一元 委員/高橋 昇士、木野内 毅、小松 正樹、 佐々木 史郎、芳野 俊、新屋 清善	建部 彰弘
(公財) 日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長/鎌賀 秀夫	副委員長/白井 正良 委員/真田 栄作、本田原 明、森山 加世子、 丹下 一、吉澤 昌、関 貴史、笛田 公裕	鎌賀 秀夫
(公財) 日本セーリング連盟	環境委員会 委員長/永井 真美	副委員長/長嶋 匡之 委員/青山 篤 (アドバイザー)、菊地 透、 三浦 多満枝、芝田 崇行	大村 雅一
(公社) 日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長/守 昌宏	副委員長/加納 修 委員/後藤 節哉、篠 弘明、多小田 一紀、 小田 敏郎	守 昌宏
(公財) 日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長/大橋 則一	副委員長/兼子 真 委員/家永 昌樹、羽田 裕一、村上 隆	兼子 真
(公財) 日本自転車競技連盟	競技運営委員会 委員長/松倉 信裕	副委員長/飯田 太文 委員/奥田 悦司、中村 雅章、早坂 和弘	白崎 孝紀
(公財) 日本ソフトテニス連盟	環境・教育プロジェクト 委員長/川島 登	副委員長/篠邊 保 委員/柳下 秋久、安藤正美、林田 正信、 大川 京子、八木橋 勉、林 昭文、金岡 昭房、 林 研一	玉木 進
(公財) 日本卓球協会	環境委員会 委員長/鈴木 一雄	副委員長/小畑 幸生 委員/宮本 勝典、五十嵐 久美子、関川 治郎	登内 正吾



団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員ほか	事務局
(公財) 全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長/中村 敏治	副委員長/西澤 茂芳、後藤 成弥、宗像 豊巳 委員/—	清野 祐
(公財) 日本相撲連盟	総務委員会 委員長/竹内 晋岸	副委員長/櫛原 利明 委員/—	吉村 登
(公社) 日本馬術連盟	JOC スポーツ環境委員会 委員長/—	副委員長/— 委員/長友 満則	永原 茂
(公社) 日本フェンシング協会	環境委員会 委員長/中田 玲子	副委員長/河原塚 淳 委員/加藤 晴英	中田 玲子
(公財) 全日本柔道連盟	—	—	—
(公財) 日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長/竹島 正隆	副委員長/— 委員/—	久下 知宏
(公財) 日本バドミントン協会	環境委員会 委員長/能登 則男	副委員長/本多 修治 委員/近岡 昭、池田 公子	本多 修治
(公財) 全日本弓道連盟	—	—	清水 政範
(公社) 日本ライフル射撃協会	総務委員会 委員長/松丸 喜一郎	副委員長/大野 明敏、田村 恒彦 委員/—	佐藤 通
(一財) 全日本剣道連盟	医・科学委員会 委員長/宮坂 信之	副委員長/— 委員/秋山 知子、朝日 茂樹、越智 小枝、 佐々木 健、野見山 延、武藤 健一郎、森 伸雄	岩坂 守
(公社) 日本近代五種協会	環境委員会 委員長/長江 洋一	副委員長/野上等 委員/—	長江 洋一
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	総務委員会環境部門 委員長/高野 敬一郎	副委員長/— 委員/児玉 隆一郎、岩上 教行、中嶋 一義、 片山 良太、小宮山 弘	橘 登紀子
(公社) 日本山岳協会	自然保護委員会 委員長/松隈 豊	副委員長/西山 常芳、堀江 伸子 委員/田上 正敏、手塚 福寿、岩崎 繁夫、 増田 修、濱田 伸、小高 令子、廣田 博、小島 和徳、 猪狩 ノブ、紅葉 淳一、湯浅 達男、小林 貞幸	松隈 豊
(公社) 日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長/原 悦代	副委員長/北川 浩正 委員/—	岩上 禎宏 柳澤 恵子
(公社) 全日本アーチェリー連盟	—	—	—
(公財) 全日本空手道連盟	環境委員会 委員長/有竹 隆佐	副委員長/日下 修次 委員/喜島 智香子、三村 由紀、亀谷 誠康、 石田 航	石田 航
(公社) 全日本銃剣道連盟	環境委員会 委員長/鈴木 健	副委員長/片山 幸太郎 委員/竹添 静雄、住田 隆良、関 高、石井 実、 村井 敏夫、猪 友一、矢野 満、津田 昌泰、 井澤 継男、竹下 利一、上村 正、松本 栄一郎	平本 梯子
(一社) 日本クレイ射撃協会	環境問題対策協議会 座長/高橋 義博	副委員長/— 委員/上村 耕司、野口 省吾、見上 攻	大江 直之
(公財) 全日本なぎなた連盟	環境委員会 委員長/泉水 孝子	副委員長/千葉 眞弓 委員/菅野 佳子、松井 亮子	田室 美知子
(公財) 全日本ボウリング協会	総務委員会 普及・広報部会 部会長/松下 秀雄	副委員長/— 委員/富山 幸美	宮内 久美子
(公社) 日本ボブスレー・ リュージュ・スケルトン連盟	—	—	池田 芳正
(一財) 全日本野球協会	総務委員会 スポーツ環境部会 部会長/野端 啓夫	—	柴田 穰
(特非) 日本スポーツ芸術協会	—	—	相原 茂明
(公社) 日本武術太極拳連盟	—	—	—



団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員ほか	事務局
(公社) 日本カーリング協会	環境委員会 委員長/小川 豊和	副委員長/— 委 員/北田 一浩、宮越 武志、平間 初恵、 ジョンストン・テリー、楠井 悠平	楠井 悠平
(公社) 日本トライアスロン連合	事業企画委員会(環境部会) 委員長/水畑 宏之	副委員長/山本 光宏、西沢 潤、関根 明子 委 員/篠田 雅司、朝岡 大輔、新井 康史、 徳舛 孝志、宮本 宏史、清本 直、横山 美紀子、 滝川 満弘、沼田 英之、中西 真知子、徳留 功一、 星野 喜宣、楠 里紗、原田 佐希 アドバイザー/木下 貴之、松山 文人、 関口 秀之	児玉 健太
(公財) 日本ゴルフ協会	—	—	—
(公社) 日本スカッシュ協会	環境委員会 委員長/宮城島 眞知子	副委員長/梶田 幸子 委 員/日向 孝知、潮木 仁、大根田 芳浩	梶田 幸子
(公社) 日本ビリヤード協会	—	—	東仙 明彦
(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟	環境委員会 委員長/岩崎 靖	副委員長/— 委 員/元木 俊博	岩崎 靖
(一社) 全日本テコンドー協会	環境委員会 委員長/牧野 文彦	副委員長/今枝 尚道、川津 博、高木 伸幸 委 員/藤崎 裕志、小泉 秀一、佐藤 剛太、 中谷 信彦、井上 博人、中東 準、西村 紀幸、 小林 守、齊藤 和広	山下 諒
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	環境委員会 委員長/岸尾 政弘	副委員長/— 委 員/鴻巣 久枝	
(一社) 日本バイアスロン連盟	競技運営・環境委員会 委員長/二峰 良四男	副委員長/木村 豊悟、工藤 十九、山瀬 功 委 員/関 敏博、関 貴之、滝澤 健、小野 健治、 佐藤 裕英、宮崎 秀樹、井口 長治、柴田 主税	山瀬 功
(一社) 日本カバディ協会	環境委員会 委員長/河合 陽児	副委員長/林 佳子 委 員/高野 一裕、新田 晃千、高岡 真由子、 金子 裕美	河合 陽児
(一社) 日本セパタクロウ協会	環境委員会 委員長/菅野 瑞穂	副委員長/寺本 進 委 員/赤石 量也、中塚 智之	菅野 瑞穂
(特非) 日本クリケット協会	環境委員会 委員長/宮地 直樹	副委員長/本島 由起子 委 員/小林 真帆、大鳥居 悠貴、宮地 直実	本島 由起子
(公社) 日本アメリカンフットボール協会	—	—	—
(公社) 日本チアリーディング協会	環境委員会 委員長/久保田 友代	—	下地 隆
(公社) 日本オリエンテーリング協会	—	—	—
(公社) 日本パワーリフティング協会	—	—	—
(公社) 日本ベタンク・プール連盟	—	—	—
(一社) 日本フライングディスク協会	環境委員会 委員長/角田 信彦	—	梅原 貴正
(一社) 日本サーフィン連盟	—	—	



(2) IOC持続可能性とレガシー委員会

IOC Sustainability and Legacy Commission

Chair

ALBERT II

Le Prince Soucerain

MOREIRA BRAGA

Tania

Members

ESTANGUET

Tony

MOYO

Miriam C.

FREDERIK OF DENMARK

The Crown Prince

NIEMINEN

Risto

KENDALL,MBE

Barbara

PERERA

Oshani

TERGAT

Paul K.

PREUSS

Holger

AMADO

Camilo

ROLLAND

Jean-Christophe

ANDERSEN

Inger

SABHARWAL

Sunil

BARNIER

Michel

SAM

Gideon

DUFFY

Ann

SONG

Luzeng

FERRANI

Ivo

SPRINGMAN

Sarah

GARELLI

Stéphane

STEINER

Achim

HAWKINS

Neil

SUBOWO

Rita

JASSON

Johnson

TANAKA

Takeo

KIM

Kihong

VESPER

Michel

Director in charge

Director of Corporate Development, Brand and Sustainability

2015年5月31日現在

(3) OCAスポーツと環境委員会

OCA Sports and Environment Committee

Chairman

Mr Kyung-SunYU

Korea

Members

Mr Abdulloev Muhamadsho

Tajikistan

Mr Bater Al Abadi

Jordan

Mr Raja Wasim Ahmed

Pakistan

Mr R A K Jeewantha

Sri Lanka

Mr Khin Maung Lwin

Myanmar

Mr Tiras Odisho Bano

Iraq

Mr Mahmoud Mashhoun

I R of Iran

Mr Hussain Rasheed

Maldives

Mr Jeevan Ram Shrestha

Nepal

Mr Yashuhiro Nakamori

Japan

2016年3月31日現在



(4) IOCスポーツと環境委員会小史

Brief History of IOC Sport and Environment Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題) 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた 1990年代当初、オリンピック・ムーブメントに環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・ kongress (IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット 第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
1997年	第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・北京
2003年	第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ 第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ "SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クアラルンプール IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京 "FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第8回IOCスポーツと環境世界会議開催・バンクーバー "INNOVATION AND INSPIRATION: HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE" IOCスポーツと環境賞制定 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・サモア
2010年	IOCスポーツと環境委員会開催
2011年	第9回IOCスポーツと環境世界会議開催・ドーハ "PLAYING FOR A GREENER FUTURE" 第2回IOCスポーツと環境賞授賞式 (公財)日本水泳連盟「IOCスポーツと環境賞」を受賞
2012年	IOCスポーツと環境委員会開催
2013年	第10回IOCスポーツと環境世界会議開催・ソチ 第3回IOCスポーツと環境賞授賞式
2014年	「オリンピック・アジェンダ2020」第127次IOC総会で採択・モナコ
2015年	「IOCスポーツと環境委員会」を「IOC持続可能性とレガシー委員会」に名称変更 IOC持続可能性とレガシー委員会(Sustainability and Legacy Commission)開催・ローザンヌ



(5) JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度 (2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人、委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”	平成20年度 (2008年)	第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第1回OCAコンGRESS・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成14年度 (2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京 参加	平成21年度 (2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”	平成22年度 (2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市 第7回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)	平成23年度 (2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神戸市 第8回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター (公財)日本水泳連盟が「IOCスポーツと環境賞」を受賞
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告	平成24年度 (2012年)	ポスター(11th)作成 平成23年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第8回JOCスポーツと環境・地球セミナー・札幌市 第9回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター	平成25年度 (2013年)	ポスター(12th)作成 平成24年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー・熊本市 第10回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告	平成26年度 (2014年)	平成25年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー・秋田市 第11回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成20年度 (2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市	平成27年度 (2015年)	ポスター(13th)作成 平成26年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第11回JOCスポーツと環境・地球セミナー・帯広市 第12回スポーツと環境担当者会議(総務委員会フォーラム)・味の素ナショナルトレーニングセンター
		平成28年度 (2016年)	平成27年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第12回JOCスポーツと環境・地域セミナー・東京都(予定) 第13回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)



(6) オリンピック・アジェンダ2020 20+20の提言(抜粋)

OLYMPIC AGENDA 2020

提言4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性に関して、より一層積極的な姿勢を取り、指導的な役割を担う。また、持続可能性がオリンピック競技大会の開催計画の策定と、開催運営のすべての側面に取り入れられることを保証する。

1. 持続可能性に関する戦略を前進させ、オリンピック競技大会の潜在的な開催都市と実際の大会開催都市を統合する。さらに、各都市のプロジェクトのあらゆる段階で、経済、社会、環境の各領域を包含する持続可能性の施策を設ける。
2. 組織運営全体で統合的な持続可能性の統治を最善なものとするため、新たに選定した大会組織委員会を支援する。
3. IOCはNOCとUMVO（World Union of Olympic City＝オリンピック開催都市連合）などの外部の組織の支援を受け、オリンピック競技大会の遺産を確実に監視する。

提言5 オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性の原則を導入する。

1. IOCはIOCの日々の業務活動に持続可能性を取り入れる。
 - ・IOCは物品やサービスの調達、およびイベントの組織運営（大小の会議など）で持続可能性を取り入れる。
 - ・IOCは移動による二酸化炭素排出量への影響を減少させる。
 - ・IOCはローザンヌの本部統合に際し、可能な限り最善の持続可能性の基準を適用する。
2. IOCは以下の方法により、オリンピック・ムーブメントの関係者に対して各自の組織内に、またその業務活動に持続可能性を導入させ、その援助を行う。
 - ・勧告を推し進める。
 - ・成功事例やスコアカードなどのツールを提供する。
 - ・オリンピック関係者間で情報交換するための仕組みを確実に提供する。
 - ・取り組みの実施を支援するため、オリンピック・ソリダリティーなど既存の手段を活用する。
3. 上記を実現するため、IOCはUNEPなどの関連する専門組織と協力する。

平成27年度 JOC スポーツ環境専門部会 活動報告書

発 行 日：平成28年6月17日

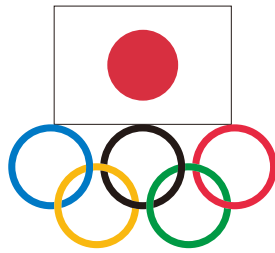
編集・発行：公益財団法人日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会
〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

U R L：<http://www.joc.or.jp/eco/>

印 刷：広研印刷株式会社

問い合わせ：公益財団法人日本オリンピック委員会 事業部

TEL：03-3481-2238 FAX：03-3481-2292



公益財団法人 日本オリンピック委員会